

第四章  
村の政治と経済



# 第一節 村の政治

## 1 村役人

申候(マウ)可申候、此方へ取置申ましく候  
右之通相定申儀ニ候間、以来六ヶ敷申間敷候、為其手形  
如此ニ候、以上

明曆三年

千福村

酉ノ八月十日

半左衛門㊦

同 新左衛門㊦

七 明曆(六五七)三年八月一〇日 千福村庄屋、年貢割本宿につ

き取極証文

千石組

庄屋中

参

### 相渡申証文之事

一 千福村庄屋之儀、当酉ノ八月廿三人ニ相究仕申候、御

年貢御役わり之儀、太兵衛殿を割本宿ニ末々迄相究申

候、我ら共百姓衆立合ニ而諸事勘定以下可仕候、每物

壺人はからいニ郷中へ申付ましく候事

一 御指紙之儀ハ、先年ハかくばんニ御座候得共、此上ハ

太兵衛とのニ置申はつニ相究申候、御指紙用所ニ候者

うつし取可申候事、同御年貢金之儀も太兵衛殿へ相渡

(裾野市千福 西島義禮氏所蔵)

六 元禄(六九七)一〇年六月一九日 茶畑村組頭・百姓代任命願

(端裏書)  
元禄十年

丑ノ六月十九日 組頭御願下事

乍恐書付を以奉願候御事

一 当村組頭只今ハ壺人ニ而相勤申候ニ付、此度御願申上

候、小百姓平右衛門・同七郎左衛門・同太郎兵衛・同庄右衛門、右四人之者組頭ニ奉願候、惣百姓代ニハ九兵衛と申者奉願候

右之通組頭・百姓代共ニ被為仰付被下候者、村中難有可奉存候、為其連判差上申候、以上

元禄十年

茶畑村

丑ノ六月十九日

名主 甚右衛門

組頭 佐右衛門

文左衛門

市左衛門

清九郎

孫兵衛

伊右衛門

庄兵衛

覚右衛門

忠左衛門

覚左衛門

克 享保一九年六月 深良村跡名主へ諸帳面・書付引渡

証文

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

甚四郎

久左衛門

与惣右衛門

与五兵衛

善右衛門

相渡申帳面之覚

一延宝五丁巳年深良村田畑御檢地帳四冊

内

西分田方帳 壹冊

東分田方帳 壹冊

地下分帳 壹冊

畑方帳 壹冊

外ニ

大西吉太夫様  
小形兵太夫様

第1節 村の政治

野畑山畑帳 壹冊

畑成田帳 壹冊 貞享四卯年

一 享保三戌年田方写帳三冊

内

西分田方帳 壹冊

東分田方帳 壹冊

下地分田方帳壹冊

一 田畑御年貢可納御割付拾三本

内

元禄貳巳年 壹本

同三年年 壹本 同四未年 壹本

同五申年 壹本 同七戌年 壹本

同九子年 壹本 同十五年 壹本

同十一寅年 壹本 同拾二卯年 壹本

同十三辰年 壹本 同十四巳年 壹本

同十五年 壹本 同十六未年 壹本

一 田畑御年貢可納御割付六本

内

宝永元申年 壹本 同二酉年 壹本

同三戌年 壹本 同四亥ノ年 壹本

同六丑年 壹本 同七寅年 壹本

一 田畑御年貢可納御割付三本

内

正徳二辰年 壹本 同三巳年 壹本

同四年年 壹本

一 田畑御年貢可納御割付三本

内

享保十五戌年 壹本

同十六亥年 壹本 同十七子年 壹本

一 元禄貳巳年御検見帳壹冊

同七年御検見帳壹冊

同十四巳年御検見帳壹冊

同年川押川掛ケ御検見引帳

宝永二酉年御検見引帳壹冊

同四亥年西分東分御検見引帳式冊

同五子年悪作引帳壹冊

同六丑年日損検見引田帳壹冊

同七寅年御検見引田帳壹冊

正徳元卯年御検見悪作毛引帳写壹冊

同三辰年検見引田帳壹冊

同三巳年巳ノ検見引帳壹冊

享保三戌年検見引方帳壹冊 庄右衛門組 彦四郎組

同五子年検見引方帳壹冊 右同断

同七寅年検見引方帳壹冊 東分組頭支配 庄右衛門組

同九辰年田方検見帳壹冊 彦四郎組

午年田方検見帳壹冊組 頭枝組

申年検見毛引帳壹冊 清左衛門組

一切久保田方坪付帳壹冊

一 正徳五末年田方拾之帳壹冊 原惣十郎

一同畑方拾イ帳 同人

一 田畑坪付原新七・又四郎・善八帳壹冊

一同南堀分坪付帳壹冊

一 宝永八寅年(マヤ)諸役二ヶ村割帳壹冊 卯正月割

一同深良村諸役割帳壹冊 卯正月割

一 正徳式辰年割帳四冊 内 壹冊式ヶ村割帳 壹冊卯辰兩年割帳 壹冊御陣屋六ヶ村諸役書立帳

一 正徳三巳年御陣屋入用并六ヶ村諸役書立帳壹冊

一同壹冊御知行六ヶ村諸役書立帳

一同式冊 内 壹冊諸役村割帳 壹冊諸役二ヶ村割帳

一 正徳四午年式冊 内 壹冊諸役村割帳 壹冊諸役二ヶ村割帳

一 享保二酉年六ヶ村諸役割帳壹冊

一 水論御裁許書 壹本

一 絵図 壹枚

一 水論村方証文 壹本

一 御書付 拾式本

内 御順見書付 式本 外ニ六ヶ村御触書一本

御高札書 壹本

鉄砲証文書上ヶ之事 壹本

捨子書付 壹本

人宿牛高御書出し 壹本

捨高御書出し 壹本

博交打同 壹本

生類あわれみ同 壹本

正阿弥八郎兵衛御尋書 壹本

酒造米高御書付 壹本

深良村増名主御書付 壹本

右御書付之分黒ぬり箱入

右御用御書付・御帳面、此度貴殿名主役被<sub>レ</sub>仰付候ニ

付、悴源之丞跡名主役被<sub>レ</sub>仰付ニ付、只今迄名主役ニ

付申候諸帳面・書付不残相渡し候様ニ、勝部平藏殿方

被<sub>レ</sub>仰越候間、右目錄之通相渡し申候、以上

深良村源之丞父

享保十九甲寅六月

清 意

源 藏殿

享保十九甲寅六月

御用御書付目録

紙数拾式枚

(裾野市深良 大庭重一氏所蔵)

△ 明和二年二月 茶畑村名主諸帳面・書物請取帳

(表紙)

(横)

明和二年	茶畑村
名主諸帳面書物請取帳	
酉十一月	役人

覚

慶安元年

一 御水帳式冊 御本書

田畑野畑屋敷

一 御水帳三冊 御本書

第4章 村の政治と経済

貞享年中  
一 村指出し巻冊

右同年  
一 村絵図巻枚

加納文右衛門様  
一 村絵図巻枚

是ハ封不切  
一 立込絵図巻枚

久根村  
茶畑村  
公文名村  
伊豆嶋田  
佐野村

御判物安田勘左衛門様  
一 村絵図巻枚

一分間帳三冊 大沢山瀧沢通り

宝曆十一年巳年  
一 五人組帳控巻冊

宝曆十四年申正月  
一 寺社御定目

元文五年  
一 諸勘定江印形取定目

享保十八年  
一 御條目巻冊

元文八年  
一 村組井堰帳巻冊

伊奈平左衛門様  
一 御條目 宝永四年

一 田植夫食控

大沢山炭請取  
一 請取六拾四枚

万治元年  
一 同巻枚

小から沢出入御判物元禄三年  
一 御裁許書巻本

大沢山寛延年中  
一 御裁許書巻本

一 伊豆嶋田出入茶畑村返答訴状

右出入山留メ  
一 御指紙巻枚

一 大沢山出入訴状返答

一 御林証文三通

一 見おろし新林巻通

中丸重左衛門鉄砲所持ニ付金子借用  
一 証文巻本

一 片川番水書付控

一 社地改巻冊

第1節 村の政治

一棟札改巻本

宝永五年子五月  
一水論御裁許書写シ

寛永十六年  
一指出し巻通

元禄五年  
一浅間宮建立ニ付材木伐証文巻通

一山論之節公文名を取候書付巻本

同断  
一同巻本 麦塚を取

一同巻本 堰原・二つ屋

込山金元利ノ  
一証文巻通 忠藏・太郎兵衛・甚左衛門・  
与祖右衛門・仙八

金八拾巻両永式百九拾文

右立会 上土狩村 名主 藤三郎  
麦塚村 名主 与惣治

不動産  
一証文三通

平松新田山論訴状返答  
一式本

品々  
一縁付証文

一宗門帳下書茶畑村  
平松新田

一鉄炮帳式冊茶畑村  
平松新田

一耕地切帳六冊

申年  
一御割付式本茶畑村  
平松新田

申年  
一御通式枚 右同断

同年月并金  
一御通巻枚

一仕付反歩下書巻冊 茶畑村

一同巻冊 平松新田

一大廻り帳 茶畑村・平松新田共

元禄元年々十六年迄  
一御割付十六本

享保年中  
一同拾式本

右同断  
一同八本

伊奈平左衛門様  
一同八本 宝永年中々正徳年中迄

第4章 村の政治と経済

- 宝永年中  
一 同四本
- 宝曆年中  
一 同十三本
- 延享年中  
一 同五本
- 寛延年中  
一 同壹本
- 寛保年中  
一 御割付四本
- 元文中  
一 同五本
- 天和年中  
一 同壹本
- 延宝年中  
一 同五本
- 明曆年中  
一 同三本
- 承応年中  
一 同壹本
- 眞享年中  
一 同四本
  
- 宝永年中  
一 同貳本
- 大沢山出入、雛絵図共  
一 山絵図壹枚
- 申田方勘定帳  
一 壹冊
- 同役高帳  
一 壹冊
- 同役帳  
一 壹冊
- 同畑方取附  
一 壹冊
- 同湖水掛り取付  
一 壹冊
- 同大豆帳  
一 壹冊
- 同田方取付  
一 壹冊
- 同畑方勘定帳  
一 壹冊
- 持高帳  
一 壹冊

右之通立合相改請取申候所相違無御座候、以上

明和二年

酉十一月

茶畑村

名主 伝右衛門<sup>印</sup>

同 仁左衛門<sup>印</sup>

組頭 新左衛門<sup>印</sup>

同 喜助<sup>印</sup>

同 元右衛門<sup>印</sup>

同 太郎兵衛<sup>印</sup>

同 与祖右衛門<sup>印</sup>

同 喜右衛門<sup>印</sup>

百姓代 半七<sup>印</sup>

同村

文治郎殿

右立会 義右衛門<sup>印</sup>

伊左衛門<sup>印</sup>

仙八<sup>印</sup>

市郎右衛門<sup>印</sup>  
甚左衛門<sup>印</sup>  
与左衛門<sup>印</sup>

紙数四枚

(沼津市 柏木正男氏所藏)

二 寛政一〇年九月一八日 大畑村名主諸帳面・書物引

継ぎ覚

覚

一 水帳

一 御証文

一定輪寺山証文

一 山絵ず

一 村絵ず

御領所分

一 御割付

安永七戌年方寛政ノ辰年迄

拾九本<sup>印</sup>  
式<sup>印</sup> 式<sup>印</sup> 壹<sup>印</sup> 式<sup>印</sup> 式<sup>印</sup>  
枚 枚 本 本 冊

一 御割付

都合

七拾三本

与右衛門印

一 皆済目録

拾八本

儀兵衛印

一 検見帳

式冊

弥右衛門印

一 大畑村明細帳 安永六酉年

式冊

庄藏殿

一 内林帳

式冊

(裾野市大畑 市川義朗氏所藏)

一 私領五人組帳

式冊

一 宗門人別帳

式冊

一 御年貢名歩共

式冊

三 文化八年四月一日 茶畑村名主見習任命願書  
乍恐書付ヲ以奉願上候御事

一 御困糶帳

不殘

一 私悴常次郎儀、当未十七歳ニ罷成申候、何卒御役方為

一 御領所銘々書上帳

式冊

見習差出シ申度奉願上候、右奉願上候通り被 仰付被

一 箱式ツ同御廻状箱

式冊

下置候ハ、難有仕合可存候、以上

一 斗枿壹ツ 同壹升枿

式冊

文化八辛未年四月十一日

一 壹升五合入壹ツ

都合三ツ

茶畑村

右之通槌ニ相渡申候

都合

名主 林 藏

寛政十年

立合人

松尾 佐久 太様

午ノ九月十八日

立合

松国平次右衛門様

百姓代 権左衛門印

右名主林藏奉願上候通り相違無御座候、願之通り被 仰

付被下置候ハ、私共村方一同難有仕合可奉存候、以上

文化八辛未年四月日

茶畑村

組頭 又四郎

同 伝 藏

同 久右衛門

同 庄兵衛

百姓代 太郎左衛門

平松新田

組頭 幸 藏

松尾佐久太様

松国平次右衛門様

(沼津市 柏木正男氏所藏)

三 文化一〇年正月吉日 御宿村組頭年中御用出勤控

(表紙)

文化十癸酉年

年中御用出勤控

正月吉日

駿東郡御宿村  
与頭 半七

文化十一年

戌正月覚

正月三日 一松長御役所江御年始耆人

同五日 一小前耆人 松長御役所へ半右衛門様御遣 源藏

二瀬石取人足覚

正月十五日 一耆人

一耆人

甚兵衛

半右衛門

一 耆人	権左衛門
一 耆人	銀藏
一 耆人	善左衛門
一 耆人	善藏
一 耆人	仁左衛門
一 耆人	半藏
一 耆人	文右衛門
一 耆人	林藏
一 才耆人	半七
一 小前耆人 <small>正月十六日</small>	吉窪行 質百文
同十八日	藤七
一 同耆人	同村行 質百文
	源右衛門

覚

一 松長御役所江御年始  
正月二日

らうそく 廿四文

一 積金講御企之砌り斎藤様御順村ニ付石脇村迄出迎、即  
三月十三日

日中島村江御越被成千福村まで御送、但し善藏兩人

一本堰芝付齊領耆人  
同十八日

但し馬数八疋六度追也

都合四十八駄也、尤廿四牧付

其内

芝拾六駄 本屋敷

同拾太 半兵衛向

土手通り

同拾耆太 富右衛門

書谷通り

同拾耆太 銀藏屋敷

田頭土手通り

ノ四十八太也

但し当西年芝不足ニ付、耆太ニ付三枚ツ、余分都合

廿七枚耆駄也

一 同所堰普請齊領耆人  
同十八日

第1節 村の政治

外ニ

人足貳人、馬壹疋出ス

三月晦日御着同四日御出立

一 融通金之儀ニ付、和田代右衛門様御出役、三月晦日千

福村まで御出迎、翌四月朔日佐野・石脇両村江御見舞

之案内ニ行、同月二日右両村名主衆御答ニ参ル、同三

日又々両村名主衆半七宅迄御出被成候、融通積金口数

石脇村・佐野村・神山・岩波・公文名・茶畑・麦塚・

二ツ屋、八ヶ村ニ而三口出来申候、同月四日代右衛門

様御出立也

一 四月四日千福村名主太兵衛殿・林右衛門殿両家へ融通

金加入進メニ参、各趣法帳壹冊ツ、預ケ置候

四月廿三日  
一 新堰芝附齊領壹人

但し馬数貳拾貳疋 上ノ原より九度ツ、追

都合芝百九拾八太也

内

芝七拾太ハ 金屋せき・窪かいと両所

同六拾太ハ うばこ澤橋上下

同三拾貳太 池田頭を利左衛門裏迄ほ□割通り

同廿六太 上ヶ田庚申塚を丁屋浮通り迄分

小以 百九拾八太也

右村々触込馬数

馬拾壹疋 御宿村

同 貳疋 千福村

同 七疋 上ヶ田村

同 壹疋 金澤村

同 壹疋 葛山村

〆廿貳疋

四月廿五日  
一 同所堰齊領壹人

人足割

うばこ澤水門上人足三人

同所水門下壹人 〆四人 丁場

同橋下三人 上ヶ田方式人 五人之処也

金屋せき四人丁場也

窪かいと六人丁場

同廿五日

一同所人足壹人出ス

同廿三日

一同芝附馬壹疋出ス

五月廿八日

一本堰しから齊領壹人

同日

一同所しから人足壹人

五月廿二日立

一松長行泊り、用水不足ニ付御注進口上のミ

六月朔日

一廿四文 浪人式人 取替遣ス

六月十四日

一松長行式人、積金御調達ニ付、御酒被下泊り

同十八日

一古奈御役所行式人、積金書役被仰、其上酒被下十八日

夜泊り

六月廿四日

一積金講一件ニ付、古奈御役所行、廿四日夕廿九日迄泊り、尤席手之砌り早損注進書差上申候

右積金講首尾能初会相済候ニ付、御上様を為御祝義金式百疋被下置頂戴仕候、右御礼として合酒式升、松長・古奈双方御代官様へ差上申候

七月廿三日四日此割口十文ツ、一積金郡中諸掛り人足等之儀ニ付、松長寄合泊り式人、

らうそく式十六文

九月十七日

一早損ニ付、御見分願ひ松長御役所行、らうそく式十六

文

十月朔日

一早損帳面出来ニ付、松長御役所江持参御見分願ひ壹人、

尤松長ニて暮ニおよひ使壹人連帰り申候

らうそく三丁代六十四文

一積金講式会目九月十一日ニ古奈着、十二日座鬮、十三

日本鬮相済、十四日帰着

十月十日

一田方御見分以後御機嫌伺ひ式人泊り、らうそく式十六

文

役所行十七人

彦九郎同道也

一十一月十日田方格別不作ニ付、拾ヶ年賦願ひ式人泊り、

六月十八日

一貳百四十九文

古奈村いせ屋払、雑用酒代共

同日上ノ原荒地御年□□村弁納之分御用捨願ひ書差出

此分松長宿九左衛門殿渡し

し申候、らうそく壹丁貳十六文

十二月廿六日済

一十一月十八日江戸御役人衆御目見泊り式人、らうそく

貳十六文

一米壹俵半

○組頭米 給料

彦九郎同道也

一同廿四日松長行、早損引被仰渡、并ニ上野原御用捨引

一廿四文

○浪人へ遣ス

拾ヶ年相願申候処、五ヶ之間御用捨ニ被仰渡候、若又

一貳百文

○らうそく代

五ヶ年ニ而土手出来兼候ハ、其節又々五ヶ年御用捨

一貳貫八百八十八文

○古奈無尽残り金割

相願候様被仰渡候

但し四拾石半分

一らうそく式挺代五十文

一貳貫六百八十七文

○同寛政七卯年高割

一閏十一月晦日松長宿屋九左衛門無尽、翌十二月朔日郡

一七百五拾文

○上野原役料 当酉早損ニ付用多

中割其外種々御用等有之、十二月二日迄相掛り申候、

受取

尤私用有之原宿へ罷越シ、三日帰宅、都合四日相掛り

一壹貫五百文

○筆墨代二ツ割

申候、内壹人私用引、三人村用也

一壹貫四百八十七文

○白米貳斗代

才領五人

一百十貳文

人足飯料御礼金とも

①御用状巻通

松長村出

三浦様

(裾野市御宿 湯山芳健氏所蔵)

② 文政八年七月 佐野村名主大借用欠落一件片付方取

極め一札

一札

一 此度当村名主常蔵殿義、不埒ニ而大借用仕欠落被致候

ニ付、御拝借其外諸借用片付方之義難及勘弁、組合御

立会之上御世話被下忝奉存候、然ル上者右片付之義ニ

付、何事ニよらず御組合御名主中御勘弁相背申間敷候、

猶又年賦金者不及申、当金納共 御上様より被仰付次

第違背仕間敷候、仍之惣百性一統連印仕候、依而如件

文政八酉年七月

佐野村

組親

平

内①

八 平 ①

藤 七 ①

平 右衛門 ①

佐五右衛門 ①

仲右衛門 ①

永 吉 ①

惣左衛門 ①

甚 兵衛 ①

勇 吉 ①

吉右衛門 ①

み よ ①

源 右衛門 ①

類 蔵 ①

平 兵衛 ①

平 蔵 ①

七 蔵 ①

常 七 ①

組親

第1節 村の政治

	組親				組親				組親							
与	半	清	宇	弥	幸	平	儀	甚	八	林	源	佐	介	林	惣	定
右		右	兵	左			兵	右	十	右		太	左		右	
衛		衛	衛	衛			衛	衛	八	衛		郎	衛		衛	
門	治	門	門	門	藏	八	門	門	八	門	助	門	門	藏	門	藏
印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印

	組親				組親				組親							
弥	順	林	彦	九	鉄	茂	七	伊	永	幸	助	甚	為	勇	熊	新
右			次	左		三	左	右			右	兵	五			
衛			郎	衛		郎	衛	衛	介		衛		郎	介		
門	藏	藏	郎	門	藏	郎	門	門	介	藏	門	衛	郎	門	藏	七
印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印	印

組親

長 惣 定 惣 繁 玄 重 藤 佐 平 宇 惣 助 源 瀧 勇 祖  
右 右 右 右 右 右 左 右 佐 平 宇 惣 助 源 瀧 勇 祖  
衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 左 左 左 右 右  
門 門 門 門 門 門 門 門 介 吉 八 八 門 蔵 蔵 八 門  
⑦ ⑧ ⑧ ⑦ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧

組親

勇 惣 五 増 市 佐 忠 染 惣 又 元 吉 由 永 惣 要 伝  
右 右 右 右 市 佐 忠 染 惣 又 元 吉 由 永 惣 要 伝  
衛 衛 衛 衛 左 右 右 右 兵 右 左 左 左 左 右 左 左  
門 門 門 門 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛 衛  
門 門 門 門 門 門 門 門 門 門 門 門 門 門 門 門 門  
⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑦ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧ ⑧

組親

組親

第1節 村の政治

組親 茂 介<sup>印</sup>

儀兵衛組 武左衛門<sup>印</sup>

伝 蔵<sup>印</sup>

御組合

源左衛門<sup>印</sup>

御名主中様

与平 治<sup>印</sup>

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

茂兵衛<sup>印</sup>

組親 幾 蔵<sup>印</sup>

全 文政一二年正月吉日 小田原藩領名主惣代順番帳  
(二八二八)  
(表紙)  
(横)

嘉左衛門<sup>印</sup>

佐兵衛<sup>印</sup>

文政十一年

子之歳名主惣代順番帳

八 蔵<sup>印</sup>

正月吉日

組親 甚三郎<sup>印</sup>

市右衛門<sup>印</sup>

繁右衛門<sup>印</sup>

一年玉  
 一 錢五百文  
 一 金貳朱也  
 一 御手代様  
 一 両御代官様半紙拾状つゝ  
 一 定宿江  
 一 郡組御頭江半紙五状

善 蔵<sup>印</sup>

八兵衛<sup>印</sup>

源左衛門<sup>印</sup>

同 一 錢百貳拾四文  
 同 一 同老步也  
 其外

要蔵組 八百吉<sup>印</sup>

其外

御役所年札計り

暑中御見舞

一金三分也

一錢五百文

掛御三人様江金壹分ツ、

地方御手代様・郡御頭様江半紙

五状

ツ、

一同壹分也

一同貳両也

一錢百貳拾四文

小頭様へ半紙五状進物

大廻り様御台所小奉行様江

米取小奉行様御兩人江御札

其外

御役所様江手札計り

其外

御役所様手札計

一 正月廿二日方同四日迄

佐野村

小田原助郷無尽口数取極メニ付

惣代三日勤メ

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

一金三分也

御掛り様御三人江金壹分ツ、品物

物

一錢五百文

地方御手代様・郡組小頭様江半紙五状也

紙五状也

六 安政三年二月六日 御宿村相役名主入札

(包紙表書) 安政三丙辰年二月六日

相役名主役 敷札

一金壹分也

大廻り様御出会御手代様江

甚平高札

一金壹分也

大廻り様御出会御手代様江

第1節 村の政治



覚(包紙封印有)

湯山保三郎

名主役 甚平

宮内左衛門

(入札敷札)  
「名主甚兵衛様」

「甚平」

「甚平」

「甚平」

「なぬし甚兵衛」

「名主甚兵衛」

「なのし甚兵衛様」

「名主し甚兵衛」

「名主役甚兵衛」

「御名主役甚兵衛様」

「甚兵衛様」

「甚平様」

「御名主役甚平様」

「名ぬしじん兵衛」

「一名主甚兵衛」

「甚兵衛」

「名主甚平」

「御名主役甚兵衛様」

「御役人甚兵衛様」

「御名主甚兵衛」

「御役人甚兵衛様」

「名主し甚兵衛」

「甚平」

「名主甚兵衛」

- 〔な<sup>(ぬ)</sup>し甚兵衛〕
- 〔名主甚兵衛〕
- 〔甚平様〕
- 〔相役名主甚平様〕
- 〔甚平〕
- 〔名主甚平様〕
- 〔名主甚兵衛〕
- 〔名主甚兵衛〕
- 〔なぬし甚ん兵衛〕
- 〔御役人甚兵衛様〕
- 〔御名主宮内左衛門〕
- 〔名主合役宮内左衛門〕
- 〔名主役宮内様〕
- 〔名主九内左衛門〕
- 〔御名主役宮内左衛門様〕
- 〔御名主役宮内左衛門様〕
- 〔御名主役多分付〕
- 〔御名主役多分付〕
- 〔御名主役多分付〕
- 〔半右衛門〕
- 〔名主役半右衛門様〕
- 〔新〕
- 〔不明〕
- 〔白票〕
- 〔口絵参照〕

(裾野市御宿 湯山芳健氏所蔵)

二八五六  
 安政三年 御宿村村方組親出会着到帳(横)

(表紙)

安政三丙辰年  
 村方与親出会着到帳  
 御宿村  
 名主吟平

四月十日夜

御領主様御賄一条并ニ助郷一件申渡し候

新堰普請所渡し候義出会

市左衛門  
 丈七郎  
 仁右衛門  
 平作  
 勇吉  
 永助

第1節 村の政治

同十四日夜、助郷被仰付候ニ付、村方へ申渡し候出会

源 蔵

宮内左衛門

久米右衛門

迎受  
宇右衛門

迎受之処不参人  
折 助

保 兵 衛

半右衛門  
他行ニ付不参

甚 兵 衛

丈右衛門  
市左衛門兼

宮内左衛門

忠 七

平 作

仁右衛門

永 助  
代佐助

同十八日与親寄合、与下壺人ツ、召連可出事

源 蔵  
代作兵衛

勇 吉  
保兵衛兼

不参人  
彦左衛門

保 三 郎

利 助

半右衛門

不参  
保 兵 衛  
代林兵衛

勇 吉  
壺人

源 蔵  
与下甚蔵

不参  
永 助  
与下藤右衛門

不参  
宮内左衛門  
代新蔵  
与下平右衛門

平山最寄取締

市左衛門  
与下

上合最寄取締

〔丈〕右衛門  
与下源助

〔忠〕  
与下和平七

入や最寄取締

〔仁〕右衛門  
与下義兵衛

宇右衛門

元右衛門

八右衛門

新田最寄取締

〔利〕  
与下忠兵衛助

平作  
与下太郎兵衛

十一人

元右衛門  
兵左衛門

五月五日、田方植付一条上ヶ田村にて村講金不受取之相

勇吉

談候

源蔵

平助

庄兵衛

甚兵衛

永助

宗右衛門

源助

新蔵

利助

藤右衛門

第1節 村の政治

七月三日  
雨乞ニ付葛山村雷神へ登山

半七

平作  
丈右衛門  
市左衛門  
保兵衛  
源藏代甚藏  
忠七  
仁右衛門  
利助  
永助代常吉  
不参  
宮内左衛門頼常  
不参  
半右衛門  
不参  
勇吉

六  
年未詳 御宿村水帳村役人へ引渡しにつき願書

乍恐以書付奉願上候

(裾野市御宿 湯山芳健氏所藏)

甚四郎  
永助  
保二郎  
忠七  
保兵衛  
庄兵衛  
十藏  
甚藏  
三光院  
彦右衛門  
長左衛門  
宇右衛門  
元右衛門

一 御領分駿州駿東郡御宿村惣百姓一同奉願上候、先年

數代彦三郎方ニ而名主役勤來候処、名主彦三郎退役後

御水帳後役方へ付□□□此度帳面預り式右衛門同甚兵

衛退役仕度申出候ニ付、後役取極メ之出会仕、評儀之

上是迄度々村役人相替り候ニ付、御水帳之義者何れニ

有之候哉、右□□□甚兵衛へ相尋候処、右兩人ニ而

永々名主役(相カ)勤候彦三郎後代保三郎方へ相尋候処、先

年御檢地御改之節御案内仕候ニ付永々所持仕居候由申

し候ニ付、其段惣百姓へも申聞候処、村方ニ而申候者

全ク御水帳之義者村方惣高之帳面御座候与相心得罷在

候間、当役方へ御渡被下候様無心申入候得共、承知無

之、保三郎方ニ而被申候ニ者何時成共 御上様御用

之節又者、村方ニ而入用之節ハ貸遣し可申候得共、渡

切ニいたし候義者相成不申候由被申候ニ付、□□□奉

願上候者、何卒 御上様御威光を以右御水帳当村役

人え相渡し候様被仰付被下置候様偏ニ奉願上候、右□

□被仰付被下置候ハ、惣百姓一統有難仕合奉存候、

尚委細之義者御尋之節乍恐口上を以可奉申上候、以上

(裾野市御宿 湯山芳健氏所感)

2 村議定

元禄一三年二月一日 茶畑村村議定

相定申書付之事

一 苗代草取申日限三月朔日方取可申候

一 苧敷苧申日限三月廿日方苧可申候

一 田植申節昼食半更ニ可致事

一 苧敷昼食 右同断

一 林ニ而薪盜苧り申者過錢五百文

右之通り村中相談ニ而相定申候上ハ、少茂相背申間敷候、

以上

元禄十三年

茶畑村

辰ノ二月十五日

左右衛門

權左衛門

第1節 村の政治

七右衛門 <small>印</small>	仁左衛門 <small>印</small>	善兵衛 <small>印</small>	四郎兵衛 <small>印</small>	九左衛門 <small>印</small>	五兵衛 <small>印</small>	七右衛門 <small>印</small>	庄兵衛 <small>印</small>	覚左衛門 <small>印</small>	孫兵衛 <small>印</small>	伊右衛門 <small>印</small>	忠左衛門 <small>印</small>	久右衛門 <small>印</small>	九兵衛 <small>印</small>	七郎左衛門 <small>印</small>	太郎兵衛 <small>印</small>	庄左衛門 <small>印</small>
佐五右衛門 <small>印</small>	武右衛門 <small>印</small>	彦兵衛 <small>印</small>	甚兵衛 <small>印</small>	又兵衛 <small>印</small>	藤平 <small>印</small>	与四右衛門 <small>印</small>	十右衛門 <small>印</small>	佐五兵衛	与左衛門	伊右衛門 <small>印</small>	忠左衛門 <small>印</small>	久右衛門 <small>印</small>	九兵衛 <small>印</small>	七郎左衛門 <small>印</small>	太郎兵衛 <small>印</small>	庄左衛門 <small>印</small>
善右衛門 <small>印</small>	又左衛門 <small>印</small>	平兵衛 <small>印</small>	甚左衛門	佐五右衛門 <small>印</small>	彦兵衛 <small>印</small>	長右衛門 <small>印</small>	又兵衛 <small>印</small>	甚太 <small>印</small>	甚兵衛 <small>印</small>	作兵衛 <small>印</small>	太兵衛 <small>印</small>	新右衛門 <small>印</small>	伊兵衛 <small>印</small>	市兵衛 <small>印</small>	加兵衛 <small>印</small>	勘兵衛 <small>印</small>
半左衛門 <small>印</small>	与五兵衛 <small>印</small>	杢右衛門 <small>印</small>	徳左衛門 <small>印</small>	覚右衛門 <small>印</small>	杢左衛門 <small>印</small>	伊左衛門 <small>印</small>	八兵衛 <small>印</small>	五右衛門 <small>印</small>	与右衛門 <small>印</small>	次兵衛 <small>印</small>	忠兵衛 <small>印</small>	善左衛門 <small>印</small>	彦右衛門 <small>印</small>	八左衛門 <small>印</small>	藤左衛門 <small>印</small>	忠右衛門 <small>印</small>

たき頭

ちや

中丸

徳兵衛 <small>印</small>	文右衛門 <small>印</small>	次郎右衛門 <small>印</small>	八兵衛 <small>印</small>	清三郎 <small>印</small>	佐五兵衛 <small>印</small>	次郎左衛門 <small>印</small>	仁兵衛	権右衛門 <small>印</small>	伊左衛門	留兵衛 <small>印</small>	清右衛門 <small>印</small>	市右衛門 <small>印</small>	四郎左衛門 <small>印</small>	長助 <small>印</small>	仁左衛門 <small>女房</small>	久左衛門 <small>印</small>
市兵衛 <small>印</small>	清十郎 <small>印</small>	□兵衛 <small>印</small>	善兵衛 <small>印</small>	伝四郎 <small>印</small>	五郎右衛門 <small>印</small>	権平 <small>印</small>	市左衛門 <small>印</small>	勘左衛門 <small>印</small>	九右衛門 <small>印</small>	八兵衛 <small>印</small>	与右衛門 <small>印</small>	宇左衛門 <small>印</small>	五兵衛 <small>印</small>	市兵衛 <small>印</small>	平三郎 <small>印</small>	藤右衛門 <small>印</small>

三郎左衛門 <small>印</small>	庄右衛門 <small>印</small>	作右衛門 <small>印</small>	伊左衛門 <small>印</small>	彦左衛門 <small>印</small>	長九郎 <small>印</small>	伝十郎 <small>印</small>	権三 <small>印</small>	ぬい右衛門 <small>印</small>	与三兵衛 <small>印</small>	曾右衛門 <small>印</small>	長左衛門 <small>印</small>	惣左衛門 <small>印</small>	半十郎 <small>印</small>	加平次 <small>印</small>
		与三左衛門 <small>印</small>	金右衛門 <small>印</small>	孫左衛門 <small>印</small>	助作 <small>印</small>	十左衛門 <small>印</small>	伝三郎 <small>印</small>	新三郎 <small>印</small>	才兵衛 <small>印</small>	□郎兵衛 <small>印</small>	惣兵衛 <small>印</small>	所左衛門 <small>印</small>		

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

〇 (七五三) 宝曆三年九月 旗本稲葉氏申渡深良村百姓請書帳 (堅)

(表紙)



(下半分欠)

相定申一札之事

一切支丹宗門御改之節年々被仰渡候御法度之趣皆相守可申事

一 従 御公儀様御尋者有之候節者、縦親子兄弟たりといふ共片時 茂隱置申間舗候事

一 博奕之義者不及申碁・将棋・双六・的の類何ニ而茂かけ事一切仕間敷候、若右之類宿等仕候者ハ閉門為致吟味之上如何様ニ茂可被仰付候、尤其類仕者同科可被仰

付候事

一 其所慥不成男女之旅人一宿ニも仕間敷候

附り、売物等元不知もの一切買取申間舗候、惣テ押

買安買等不仕相応ニ売買可仕候、且亦村ニ而当

人慥不成者ハ五人組近所相断指図儀諸色売買可

仕事

一 御支配御役人様者不申及他領御役人様并其村役人衆中

江無礼等無之様ニ仕、祝言届ケ御節句祝日ハ村役人中

江急度相勤可申候、勿論山里江も張出候節御領分之内

馬乗り候事堅仕間候事 (敷説カ)

一 父母江孝之道心懸ケ夫婦兄弟諸親類むつましく、召仕之下人に至迄万事順路ニ相心掛ケ可申事

一 大小百姓無田之者迄他所江罷出候節ハ縦令一夜泊り成共近所江相断、又ハ二夜三夜泊り候訳候ハ、村役人方

江訴江罷出可申事

一 子供并ニ家来等夜前遊ニ参候共五ツ限りニ相返シ可申候、勿論風俗等分相応ニ為致可申候

附り、不義仕外等無之様可申付候、若不埒之義有之

ハ急度可被仰付事

一面天子供并ニ召仕之者ニ至迄徒党ヲ結ヒ、又ハ悪心ヲ以テゆすりかましく義少々成共仕候ハ、博奕同科可被仰付候、惣テ人ヲ掠メ候義申合セ堅ク為致申間敷候事

一村々奉公日用之者他所江罷出候義、前々被仰渡被置候通組々ニ而致吟味一切出申間敷候、尤召抱候男女我俣申主人ニ暇出候而家出仕候ハ、急度人代出シ、又ハ

しきせ給金一倍増ニ而其親類請負取立、主人江相通シ可申候、且又主人之気ニ合ヒ不申障出候ハ、依其品ニ請人と相談ニ而出シ可申候、猶又幼少方年季ニ相極置

下人等、生長以後我俣申主人之申付候儀背被遣ハ不申候ハ、親証人方急度人代為差出可申候事

一御年貢御役被仰付候日限通り急度上納可仕候、万一病難ニ而上納成兼候者有之候ハ、組中ハ勿論村中打寄相談之上急度上納可申候、其者茂相談之筋相背申中間鋪

候事

一惣百性之内我儘申村中ニ順不申者有之候ハ、早速訴出御相談之上急度被仰付可被下候事

一村中ニ若相煩候者有之、田地仕附耕作等成兼候節ハ、村中打寄助合田畑荒不申候様ニ可致候、縦令如何様之煩ニ而も見捨申間鋪候事

一村中大小百性男女共盗人ケ間敷者御座候ハ、其組方早速可訴出候、若隠置候ハ、其組如何様ニも可被仰付候事

一悪心ヲ以テ私欲ヲかまへ地論水論或ハ山論不依何事ニ出入ヲ不可好、縦令出入出来候共五人組ハ不申及名主組頭衆打寄、何れ茂之了簡相背申間鋪候事

一若訴訟之事有之節名主組頭等差置御役人様江御直奏申上候ハ、理悲ニ不構其者越度ニ御申上可被下候事

一出生不慥男女之旅人或ハ坊主山伏至迄時之妙坏申仕茂一夜之宿茂貸シ不可申候事

一村中内林ニ而木もや草茹敷其外何ニ而茂、入込盜取候義見附候ハ、不依男女ニ礪鎌ハ不及申、前々方定置候

通り過錢三百文組中より取立林主方江急度相渡可申候、

礪鎌之義者見付候者取置可申候、縦令親類縁者たりと

いふ共みのかしに仕候ハ、右同罪ニ可被仰付候事

一 林之内ニ而山芋一切ほり申間敷候、勿論野山之儀ハ掘

り候而も穴うめ可申候、若其假差置候ハ、野山共御留

メ可被成候、并ニ牛馬等林之内江是又はなし申間敷候、

若相背候ハ、其組何れ之越度ニも御申付可被成候事

一 古林之外新林一切仕間鋪候、尤野境木苗等植出申間敷

候、此趣野境林主相心得可申候事

一 当村猪鹿久根先々之通春秋両度杭木取替年々随分入念

可仕候、尤久根廻り木戸たて等年中無不参急度相勤可

申、若不埒ニ仕候者有之候ハ、其組越度ニ可被仰付候

事

一 此間所々江寄集り大酒致法外成義多有之候ニ付、向後

左様之義為無之酒屋并小売等一切為致申間鋪候、尤祭

礼・祝言・普請・日待・其外無尽・馬扱・とむらい之

節者格別、其外無益之酒相用候事堅仕間鋪候、若猥

ニ売買仕候ハ、双方より過料為出可申事

右之条々村中惣百姓立合相談ヲ以相定申上ハ永々相背

申間敷候、若違犯仕候者有之候ハ、御仕置ニも何分可

被仰付候、為其村中連判仕一札如是御座候、仍テ如件

宝曆三年

酉九月

上原

伝 兵衛 戸右衛門 源 六

弥右衛門 弥三郎 作兵衛

新内 文藏 市兵衛後家

源兵衛 弥助 権八

清右衛門 治左衛門 弥七

源右衛門 元八 勘左衛門

又 七 角左衛門 伝十郎

喜代八

原

田堂原

仲右衛門 <small>印</small>	与兵衛 <small>後家印</small>	平十良 <small>印</small>	武右衛門 <small>印</small>	清六 <small>印</small>	伊兵衛 <small>後家印</small>
彦右衛門 <small>印</small>	久四郎 <small>印</small>	仁左衛門 <small>印</small>	義助 <small>印</small>	定八 <small>印</small>	利兵衛 <small>印</small>
仁兵衛 <small>印</small>	忠右衛門 <small>印</small>	徳右衛門 <small>印</small>	彦八 <small>印</small>	忠三郎 <small>印</small>	孫右衛門 <small>印</small>
与右衛門 <small>印</small>	由左衛門 <small>印</small>	藤八 <small>印</small>	只七 <small>印</small>	半内 <small>印</small>	松右衛門 <small>印</small>
半兵衛 <small>印</small>	市兵衛 <small>印</small>	清八 <small>印</small>	惣助 <small>印</small>	与右衛門 <small>印</small>	甚六 <small>印</small>
清九郎 <small>印</small>	惣兵衛 <small>印</small>	文七 <small>印</small>	清助 <small>後家印</small>	半六 <small>印</small>	市左衛門 <small>印</small>
次郎右衛門 <small>印</small>			源八 <small>印</small>	友八 <small>印</small>	市郎右衛門 <small>印</small>
切久保			伊左衛門 <small>印</small>	十右衛門 <small>印</small>	平七 <small>印</small>
長右衛門 <small>印</small>	権八 <small>印</small>	武左衛門 <small>印</small>	南堀		
仁右衛門 <small>印</small>	善兵衛 <small>印</small>	八右衛門 <small>印</small>	源内 <small>印</small>	伊六 <small>印</small>	利左衛門 <small>印</small>
惣七 <small>印</small>	左右衛門 <small>後家印</small>	善七 <small>印</small>	長七 <small>印</small>	源五郎 <small>印</small>	九兵衛 <small>印</small>
伝六 <small>印</small>	治兵衛 <small>印</small>	市兵衛 <small>印</small>	平八 <small>印</small>	団七 <small>印</small>	弥平次 <small>印</small>
藤助 <small>印</small>	惣八 <small>印</small>	太郎兵衛 <small>印</small>	半三郎 <small>印</small>	甚右衛門 <small>印</small>	源七 <small>印</small>
権八 <small>印</small>	六ら <small>う印</small>	七郎兵衛 <small>印</small>	甚助 <small>印</small>	岡右衛門 <small>印</small>	新八 <small>後家印</small>
伝八 <small>印</small>	仁左衛門 <small>印</small>	武兵衛 <small>印</small>	庄右衛門 <small>印</small>	団右衛門 <small>印</small>	
次郎兵衛 <small>印</small>	平蔵 <small>印</small>	喜右衛門 <small>印</small>			

(榊野市深良 志村守雄氏所蔵)

九二 (七八) 天明二年一二月 富沢村年貢納方などにつき取極連

印一札

一札之事

一去九月御検見後私共御役方江被呼御召被御申渡候ハ、  
当稲作自分共并長百姓立会毛上相改差上御検見首尾能  
相済候上ハ、右之以毛附差引相極メ可申付筈候得共、

風中り之事故方一少々之目違等茂有之、定之内不足米  
有之節ハ麦作差出方外者有之間敷候、致左様候而ハ来

年之作業差障にも相成可為難儀間、用捨之せしむる上  
ハ随分<sup>(マ)</sup>太切に取集、平年方ハ各別ニ始末能散米等致無

之様、壹升たりとも余計ニ収納仕候様被御申渡、一同  
難有御請申上候而段々茹入仕、田植米等も借居仕并ち

り打等迄茂入候而収納仕候所、不同之儀も可有之候得  
者別紙之通御座候、然所私共致方不埒仕方思召各方江

被御申渡趣被御申聞致承知驚人奉存候、左候ハ、此上  
御窺等にも被遊候ハ、小前者共悉被御召出御尋請数日

詰合居候ハ、女房子共迄飢命ニおよひ可申と歎ケ敷奉  
存、組頭中御願申何卒御訴訟申上度御願申候所、御聴  
澄被成被下是迄之仕方御赦免被成被下候段一統難有仕  
合奉存候、右ニ付以来之処御定被御申渡委細承知仕候  
一凶年ハ勿論平年たりとも春定ニ難收集存候ハ、地主ハ  
願差引極メ可茹取可申事

附タリ

差引熟談不調上田ニいたし候節、式割引迄ハ下作  
人麦作仕附取可申事

式割方以下式割半三割余差引ニ而上り田之節ハ、  
地主ニ而麦作仕附取可申筈之事

雖然式割迄差引熟談不調上り田之節、作人訳悪敷  
勝手ケ間敷躰候ハ、品ニカ上限ニ而、地主方ニ而

麦作仕附取可申極之事  
式割半三割四割之差引ニ而茂上り田相成候而茂、

永煩いたし候欵又ハ何れ之凶変にても、上り田相  
成候ハ、組合親類立会以取持、麦作下作人仕附可

申答之事

一 旱損年ハ仕附養共各別之出勢無之候而ハ実成不申事故、

地主下作立会前条之極□不相抱、其節之被上以相極メ

可申事

一 熟年ニ而も仕附米借入候ハ、其田之分ハ借方へ勘定を

立、翌年之差支ニ不相成様可致事

一 毎年極月廿日限田方皆済可致定事

右前條趣以地主主人遂熟談致收納、御田地相続仕候様ニ

御申付承知仕候、殊此節御拝借等之儀御苦勞被成被下御

願下シ、則奉御拝借御年貢御役金御上納御皆済仕候而難

有仕合奉存候、然上ハ村役人中御相談之上被御申付候趣

聊も御違背申間敷候、為其一紙連判仍如件

天明二年

富澤村

寅十二月

文 藏

藤右衛門 印

三右衛門 印

兵右衛門 印

安兵衛 印

元右衛門

清兵衛

太郎右衛門 印

治郎右衛門 印

忠 八 印

伝右衛門 印

儀兵衛 印

権左衛門 印

勝右衛門 印

多 仲 印

源次郎 印

忠兵衛 印

孫右衛門 印

平左衛門 印

清 七 印

久兵衛 印

第1節 村の政治

(前欠)

右書面之儀者去ル辰六月村中相談之上致連判差出置申候  
処、今般又候不埒之者有之候様粗御聞及御糺ニ御座候、

三 天明六年一〇月 富沢村不埒者入札開札封印につき

連判証文

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所蔵)

同村

村役人衆中

- 武 兵 衛<sup>㊦</sup>
- 賀 左 衛 門<sup>㊦</sup>
- 惣 兵 衛<sup>㊦</sup>
- 惣 左 衛 門<sup>㊦</sup>
- 七 兵 衛<sup>㊦</sup>
- 作 右 衛 門<sup>㊦</sup>
- 弥 左 衛 門<sup>㊦</sup>
- 八 兵 衛<sup>㊦</sup>

畢竟在宿等致候者乍存、右躰不法之輩意趣を含またをも  
なすべき儀を厭等閑ニ仕候事故、村中一同申合致入札、  
既ニ村御役人惣百姓立会開札被成、落札之者御吟味之上  
何分之越度ニも可相成候処、村中菩提所定輪寺様右入札  
糺之上者、御制禁之条何分之御仕置可被 仰付候も難計  
候得者、右入札之義者御貫ニ被成度旨無扱被仰聞ニ付、  
此度入札之義御組頭中預リニ被成封印之俣ニ而差置キ、  
重而右躰不埒之義も於有之者早速右入札相開キ、落札之  
者何分ニ被 仰付候共毛頭申分無御座候、博奕流行仕候  
而者小前末々之者迄困窮之基ニ相成候義ニ付、御慈悲を  
以精々被 仰聞候義ニ付、此上相互ニ吟味仕候而少しも  
あやしき義無之様可仕候、為後日統添之一札致連判候条、  
依而如件

天明六年十月

富沢村

権 左 衛 門<sup>㊦</sup>  
清 兵 衛<sup>㊦</sup>

太郎右衛門 ⑩  
 元右衛門 ⑩  
 次郎右衛門 ⑩  
 藤右衛門 ⑩  
 兵右衛門 ⑩  
 とり ⑩  
 三右衛門 ⑩  
 忠八 ⑩  
 なる ⑩  
 伝右衛門 ⑩  
 さわ ⑩  
 五右衛門 ⑩  
 多仲 ⑩  
 源藏 ⑩  
 文左衛門 ⑩  
 陽向  
 孫右衛門 ⑩

(後欠)

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所蔵)

清七 ⑩  
 久兵衛 ⑩  
 武兵衛 ⑩  
 勇助 ⑩  
 加左衛門 ⑩  
 庄左衛門 ⑩  
 惣左衛門 ⑩  
 弥左衛門 ⑩  
 八兵衛 ⑩  
 甚右衛門 ⑩

三 文化五年一二月 大凶作につき山方十カ村申合に當

沢村惣百姓連印(豎)

(表紙)

文化五辰十二月

山方組合村々申合之事

富沢村

惣百姓共

払・餅搗・年礼致間敷事

但シ勘定等相立候ものも、餅搗之儀は例年方半減ニ

可相心得事

一村役人古来百姓並長百姓之外合羽・ぬり緒の下駄・雪

駄不相成、結帯・夏羽織無用、尤此儀ハ以来共相慎ミ

可申事

但シ諸音物贈答致間敷事

一何事ニ不依家々之子共・召仕のもの奢ケ間敷儀分限ニ

不応風俗不致様、親々主人方此以後共相慎セ可申事

一芝居・角力等ハ勿論寺社祭礼法蓮之場所江参詣ニ事寄、

賑々敷場所江猥ニ罷出申間敷事

但シ実々信心ニ候ハ、群集之節を相省平日ニ参詣可

致候、尤以来共右心得可申事

右之条々組合拾ヶ村役人共相談之上法度相立候ニ付、

一村限り小前もの共江申聞請印取之、寺社、医師等

江も右之趣ニ相准し心得違無之様申聞違乱致間鋪候、

右ニ付村役人取極一札因如件

第1節 村の政治

一 当辰年近年ニ無之大凶作ニ付、組合村々役人共申合之上左之ヶ条村法度相立候

一來巳年礼之儀村内門礼ニいたし可申事

但シ他所親類等年礼音物持参無用之事

一 大小百姓凶作ニ付、年礼請不申由之札ヲ張、松飭り神

前の外致間鋪事

一 御年貢皆済者勿論、田畑小作勘定等不相立ものハ、煤

文化五辰十二月

竹原 村名主

下土狩村名主

中土狩村名主

上土狩村名主

いつ嶋田名主

水窪 村名主

富沢 村名主

一色 村名主

納米里村名主

下長窪村名主

右者 山方拾ヶ村御組合御役人中以御相談御取極之趣  
逸々御読被聞奉承知奉畏候、右ニ付奥印形差上奉候、  
以上

文化五辰極月

富沢村小前百姓

文 助(印)

源 右衛門(印)

民 蔵(印)

市 郎兵衛(印)

庄 蔵(印)

孫 七(印)

藤 蔵(印)

善 兵衛(印)

佐 吉(印)

太 七(印)

玄 悦(印)

元 右衛門(印)

小 左衛門(印)

太 兵衛(印)

伊 右衛門(印)

繁 右衛門(印)

弥 右衛門(印)

伊 左衛門(印)

前書之条相違無之候ニ付奥印致申処、仍如件

村内御役人中

惣 七印

文化五辰十二月

な る印

組頭 平左衛門印

仁兵衛印

同 助左衛門

安右衛門印

名主代 勇 藏

繁 八印

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所藏)

ま つ印

齒 (二八〇) 文化七年三月 博奕・強訴・飲酒禁制につき葛山村

中定書

源 二 郎印

定書一札

利 助印

一 博奕之儀者前々々堅御法度ニ被仰渡候処、猶又此度御

幸 七印

役所様々急度被仰渡候ニ付、村役人相談上村方一同ニ

喜 兵 衛印

申渡シ候処、万一諸勝負事宿仕候者有之候者、名主宅

佐 兵 衛印

江呼寄吟味致セ、其もの茂呼寄遂吟味、右宿仕候物為

次 助印

加鉢過錢壹貫文宛五人組ニ申付役人方江取上、又者当

平右衛門印

取仕候物者右過錢壹貫五百文ツ、役人立合以名主宅江

呼寄座せきニ取上、又者中間ニ相くわはり候物者加鉢  
として五人組江申付、一七日之内閉門ヲ申付候間、向

後諸勝負之類急度相守可申候、若脇方相聞江候者其物

五人組外シ村はちぶニ仕、其外村方ニ而博奕見付次第

無隠御注進可申上候

一(強訴)・(徒党)・(逃)  
こころ・とらう・ちやうさん惣致候もの、名主・組頭江

相聞江候者其ものとが重かるべし

一前々方仰渡シ候へとも酒吞之儀近年猥ニ相成向後急度

相守可申候

右前書之通り少茂相背中間敷、村内之内者役人相談上

度々相廻り吟味仕候

文化七年三月巳

茂左衛門印 安左衛門印 忠左衛門印 勘 六印  
 吉左衛門印 半右衛門印 定 七印 政右衛門  
 要左衛門印 又右衛門印 久左衛門印 伊 八印  
 治郎右衛門印 善左衛門印 勘兵衛印 弥左衛門印  
 武兵衛印 彦兵衛印 源 藏印 繁 八印  
 太 七印 清左衛門印 嶋右衛門印 藤右衛門印  
 佐右衛門印 平治郎印 与惣治印 長左衛門印

吉右衛門印 友左衛門印 嘉右衛門 喜兵衛印  
 弁右衛門印 与右衛門印 嘉 七印 伝治郎印  
 富右衛門印 与左衛門印 佐五右衛門印 源 麟印  
 幸 助印 久米左衛門印 与兵衛印 才治郎印  
 祖右衛門印 元右衛門印 大 吉印 太郎左衛門印  
 伊兵衛印 忠兵衛印 太郎右衛門印 儀兵衛印  
 藤右衛門印 藤 八印 藤 八印 菊右衛門印  
 金右衛門印 太右衛門印 与祖右衛門印 嘉左衛門印  
 由五郎印 治右衛門印 儀 助印 善左衛門印  
 源兵衛印 甚左衛門印 幾 八印 佐五左衛門印  
 藤左衛門印 仲治郎印 清 助印 源 助印  
 久米右衛門印 七左衛門印 源右衛門印 徳右衛門印  
 勘右衛門印 仙 八印 甚兵衛印 勇右衛門印  
 常右衛門印 新左衛門印 幾右衛門印 繁左衛門印  
 重左衛門印 長左衛門印 要右衛門印 義左衛門印  
 友右衛門印 六左衛門印 太 吉印 甚 助印  
 太左衛門印 由右衛門印 定右衛門印

其右衛門<sup>印</sup>

名主 組頭 百姓代

(裾野市葛山 芹澤哲哉氏所蔵)

壺 文化八年正月 葛山村年貢未進多人数につき名主役

継続のため村方倂約取極め証文

村方取極メ証文之事

一 去年年百姓仲間 御年貢御上納未進人等数多く、依之名主役ニ而取替金多く役義難勤メ由被仰聞、諸事けんやくニ仕取極メヲ以役目可仕由被仰候ニ付、村方相談ヲ以相極メ候条々左ニ記シ御目ニ懸ケ候事

一 去年未進人皆済之義日限之通り出精為致、届キ兼候節者組合加判之者方ぱりヲかつても急度御皆済可仕候、其上ニ而も届兼候ハ、少々之儀者壺ケ月と式ケ月者御勘弁ヲ以御日延被遊可被下候事

一 春割方初メ諸役錢等御役前之御触次第急度差上ケ可申候事

一 諸祝義ハ錢遣り取り者以前之通飯□重之内杯者半限ニ致シ、米ニ而致酒祝義者半酒代ニ仕三月五月モ生身玉歳暮等迄以前方軽く致スヘキ事

一 酒之義者皆々随分相つゝしミ、掛ケ方ハ壺人前式百文ニ限り其外者親元兄たり共一切取用ず、万一猥ニ大呑ミ仕候者有之バ、御吟味被下御とがめ可被下候事

一 未進人者御皆済無之以前酒之義一切呑間敷候事

一 分限ニ不応衣服并ニぬり緒・せつた・八幡緒之類、ぬり緒下駄・文羽足袋等者奉公人并ニ中下方以下之者等者相つゝしミ急度履間敷、親元ニ而相改、御主人ニ而も御吟味可被下候事

一 からかさ等者奉公人たるべき者者先延引可ス事

一 博奕諸勝負致ス者百姓仲間ニ壺人も無御座候、万一心もとなき方相見ヘ申候節ハ、組合隣組ニ而相改可申候、尤御役前ニ而も急度御吟味可被下候事

一 百姓農業耕作并ニ諸職商為等も夫々の道々休日無之様ニ心懸ケ出情致、当暮格別之味<sup>未</sup>進人無之様ニ可心懸候

事

一 無尽掛ケ利送り等もとり兼取番之方難渋仕候ニ付、今年方相改無尽会合ニ金錢積立ニ可仕候事

一 無尽去午年迄之取番追々取ニ而甚込り居り候へ共、

皆々堪忍ヲ仕今年方利送り積立可申候事

一 無尽数多く、掛ケ金利送り届キ兼候ニ付、当年より三ヶ年之内新無尽仕立申間敷、然ル上者有来り候無尽休年仕間鋪候事

一 組下々之義者何事ニ不寄時之組親ニ而取計ひ違背為申間敷候事

右之条々堅ク相守り可申候上者、唯今迄之通り 御名主役御勤め被遊可被下候、万一於テ相背ニハ休役被仰出候共少シ茂御恨ミ申間敷候、為後日組親連印、仍而如件

文化八辛未年

正月日

駿州葛山村

組親 茂左衛門印

同 忠 蔵印

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同			
忠左衛門印	勘六印	藤右衛門印	佐右衛門印	与右衛門印	源蔵印	藤右衛門印	永左衛門印	織右衛門印	音右衛門印	祖八印	源右衛門印	善左衛門印	長左衛門印	常右衛門印	徳右衛門印	七左衛門印

3 村の訴訟

癸 <sup>(一七五)</sup> 正徳五年正月 金沢村組頭諸事私欲につき罷免願

(前欠)

迷惑為致其上ニ而田畑買取申工ミ仕候、惣百姓当分□  
田地永代ニ売渡シ申義何共迷惑ニ奉存候故、方々ニ而  
内分仕、先々御年貢御役等迄皆済仕候得共、不叶惣百  
姓之義ニ御座候得ハ、此上かり行何程も可有御座候得  
とも、判形滞り候而ハ何共迷惑ニ奉存候事

一二  
助八郎田地中畑式反三セ壹歩、此代金式両ニ組頭源七  
郎方へ売置申候、源七郎方ニ而御年貢ハ御上納仕候得  
共、御役ハ助八郎方ニ而相勤申候、助八郎親子渡世不  
罷成候而少々之残り田地迄売払ハで不叶仕合ニ御座候  
間、惣右衛門ハ助八伯父ニ而御座候ニ付、源七郎方へ  
敷金ニ致置候田地、金子かり出式両ニ而請返し御年貢  
御役相勤申候、惣右衛門御役相勤申候得ハ、助八救之

葛山村

平左衛門殿

(裾野市葛山 芹澤哲哉氏所蔵)

同	源兵衛	印
同	金右衛門	印
百姓代	庄左衛門	印
同	善藏	印
組頭	彦十郎	印
同	忠右衛門	印
同	政右衛門	印

為メニ罷成候、惣右衛門田地請返シ申候義、くセ事と源七郎申候而村中御年貢御上納不足十五兩ヲ出シ、皆濟為致候様ニと難題ヲ申候、助八親子渴命ニ及候間、惣右衛門方へ呼置当分扶持仕候、兄と甥(弟)兄と甥(弟)ニ而御座候故、扶持ハ仕候へ共、惣右衛門不叶身躰ニ而助八分之門役・家並役・諸色相勤申義難成候間、助八郎皮立百姓相勤候様ニ罷成候迄ハ村家並役御赦免被成候而可被下候、此外村中ニケ様成ル事共御座候間、御詮義之上宜敷と被為 仰付可被下候事

一三 琉球人御通りニ付、人馬出シ申候、私共村へ馬壹疋余あたり申候得ハ源七郎上ケ田村ニ而馬壹疋代金壹分式朱ニ而傳(借)申候而村割ニハ代金式分ニ仕候、ケ様成ル私欲仕候間、其外役割等之義も如何様成ル私曲仕候哉、惣百姓無筆無勘ニ御座候得ハ、諸事不存ニ罷有申事

一四 去年八月、下和田村方今市と申座頭一宿ニ金沢村へ参候節、組頭源七郎方ニ而錢式百文くれ候而去暮ニ罷成候而役割へ入申候、尤少分之義ニハ御座候得共、自分

之義理ニ出シ候而村中へ割懸ケ申候事無躰成義と奉存候、惣而役割等之義、惣百姓立合相談ニ而可仕御仕置ニ御座候所ニ私共方江諸事知らセ不申候事、何共難心得奉存候事

一五 権三郎田地、今里村勘左衛門方へ代金式兩ニ売置候間、三年以前巳ノ暮ニ金子式兩組頭宇平次口入ニ而かり申答ニ仕候故、組頭源七郎ニ証人判頼候得ハ、前度方知らセ不申候とて加判不仕候、宇平次申候ハ我等壹兩壹分口合可申候間、残而三分ハ源七郎ニかり而貫候様ニと御座候間、源七郎方へ無心申候得ハ口合不申候而漸々宇平次口入之金子壹兩壹分之証人判計押シ申候而難義為致申候、又々源七郎方へ林之木成共売度由申候得ハ、夫も罷成間敷と申候故、何共権三郎迷惑仕、其段宇平治方へ去午ノ春ニ罷成候而咄シ候へハ、林之木宇平次方へ三分ニ買取田地請返させ申候、源七郎義者ケ様成義数々仕候而惣百姓ニ難義為致申候事

一六 三十八年以前、野村彦太夫様御代ニ堤御普請御座候節、

第1節 村の政治

源七郎田地之内、横沓間<sup>タテ</sup>六十間之場溝代ニ仕候と而代金貳両ニ村中ニ而買置申候并ニ林沓ヶ所代金貳分ニ買置申候所ニ、堤悪水ニ而押払成就不仕候故堀入不申候得共、其節<sup>ノ</sup>只今迄年々溝代貳畝歩分之御年貢御引被下候、三十八年源七郎方へ作取ニ仕候、其上林もかこい置年々伐取源七郎沓人之勝手ニ罷成候、右之通ニ御座候間、溝代貳畝歩并ニ林共ニ村中ニ而買置候間、村中へ相渡候様ニ被為 仰付可被下候、私共ハ貳畝歩分之御年貢御上納可仕候、林之義ハ百姓薪取場ニ仕度候間、御詮義之上相渡候様ニ被為 仰付可被下候、源七郎義ハ組頭役乍相勤、ヶ様成私欲仕候而御公義様百姓方両方を掠メ何共迷惑ニ奉存候間、源七郎組頭役被御召上ヶ、宇平次沓人ニ被為 仰付可被下候、兩人ニ而ハ惣百姓不勝手ニ御座候間、沓人ニ被遊可被下事右之通少も偽り不申上候間、委細御尋之上口上ニ可申上候、以上

正徳五年未ノ正月

金沢村訴訟人

御代官様

八郎左衛門	半七郎	平十郎	長兵衛	半兵衛	権三郎	八右衛門	兵太郎	惣右衛門	喜八郎	九兵衛	角右衛門	加平次	武右衛門	長十郎	新太郎
-------	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----	------	-----	-----	------	-----	------	-----	-----

松平数馬様御知行所金沢村連判也

与右衛門  
彦七郎

(榎野市御宿 湯山芳健氏所藏)

享保元年二月五日 深良村貸金出入裁許状

以裁許申付候事

一次兵衛儀、拾三年以前方御年貢諸勘定仕切無之、年々再三源之丞方江遂勘定候様ニと申処ニ、諸用取込候由ニ而打捨置候旨申之、源之丞返答書ニ次兵衛儀前方組頭をも致し勘定之節者立会様子存ながら無勘定与申上候儀偽之由申候、然共其年々仕切不致候得者無勘定同意ニ候事

一御蔵米年々次兵衛買置、源之丞方ニ而払遣候代金請取残り并御年貢納過、其外利足定之金子利米滞、彼是金ニして可請取金高百貳拾三兩余与申出之所、相違之由源之丞返答ニ有之、双方令対決候之処、源之丞申所其身方可遭利米を御年貢ニ押向ケ、年々未進之米金如

此与目錄差出ス、其金高元利ノ百三拾兩貳分余与記之差出ス、其上口上ニ而申候ハ、外ニ金四拾兩戌七月二日相渡シ、内拾三兩三分余御蔵米貳拾四俵残り分ニ遣候、相残ル貳拾六兩余之訳不相知候付目錄ニ差除候、次兵衛方之控見候ハ、可相知与申之、次兵衛返答ニ戌年中左様之出入無之与申ニ付、遂僉議候処、次兵衛儀御年貢ニ利足を押へ繼ニ致旨相尋候得者、源之丞方其節今年者利米之内御年貢ニ何程可差繼与申故、年々其員数程差繼、相残ル米金手前方皆済候得共、仕切手形不差出与申之、其上次兵衛目錄差出シ申立候ハ、右御蔵米代金并御年貢納過之分共ニ元金ニ而書上申処、前方相对にて差繼候米金を未進と申、利足を掛ケ書上候付、次兵衛方茂返答目錄差上度与申ニ付、書付取上令披見処ニ、御蔵米払代金并御年貢納過之金子ニ利足加金高ノ三百三拾兩余源之丞方可請取分与書出ス、此訳源之丞上を不憚未進与申立、米三拾壹俵余并畑金拾三兩貳步余米金ニ利足ヲ掛ケ、金高ノ百三拾兩余

可取分与書出候儀、如何利足を加へ可取事候哉、我儘至極成ル書付ニ候、然上次兵衛茂元金ニ而書出候金子共ニ利足を掛ケ三百三拾兩余可取分と書出ス、是畢竟源之丞邪欲ニ迷不立申分ニ候、但シ利足付候儀ニ候ハ、此方々可申付事ニ候、然上利足定者各別、其外者双方元金計目録ニ記之可差出旨申ニ付、目録取上双方引合候処、源之丞御藏米代金押へ置候取懸り之訳相違見へ候、此儀互ニ証拠無之理非難分候、且米金押へ繼ニ致候哉、差繼を候哉、此両説茂難心得候、然其源之丞每年米拾三俵余宛可差遣、利米之内并御藏米代金押へ置候内己が方々年々少々宛田畑納方ニ差繼せ、相殘ル米金申延し滞置候歟と疑敷事ニ候、次兵衛押へ繼ニ決定するにおゐてハ急度越度ニ可申付候得共、此段双方申所難決候事

一 右ニ記ス戊七月二日次兵衛ニ相渡候由之四拾兩金其訳不知候故、返答目録ニ除之由最初対決之節源之丞申候処、其以後目録ニ載せ戊年次兵衛御藏買米百四俵買申

内八拾俵前方相渡シ、残而式拾四俵有之、此代金ニ拾三兩三分余引候得者残而式拾六兩余渡シ過有之由書付候、然其次兵衛其節買米百四俵と限り、外ニ買候御藏米出入無之由ニ候得者四拾兩可相渡訳無之候、殊其身口上ニ茂此儀者不分明之由四拾兩と申金子不埒之至候、依之可取上子細無之事

一 右未進米三拾壹俵余之儀、源之丞方々納置候と申出ル、是者過去ル事ニ候間差繼尤ニ候、右之米三拾壹俵余引候而も定り之利米九拾壹俵余滞と相見候事

一 双方々差出ス金高目録を以令割符之儀左之通

- 一 元金六拾壹兩 銀五匁七分三厘 次兵衛目録之分書 錢三貫三拾八文 源之丞が可取分
- 一 元金五拾三兩式分 銀拾匁三分九厘 源之丞目録之分書 錢壹貫七百廿文 次兵衛が借り申分
- 一 二口合金百拾四兩式分 銀拾五匁五分五厘 錢四貫七百五拾八文

此金式ツ割

金五拾七兩壹分 銀七匁七分六厘 錢貳貫三百七拾七文

内

金拾三兩貳分 銀拾壹匁六分八厘

次兵衛可出畑方金ニ引

残而四拾三両貳分銀拾毫八厘  
錢貳貫七百七拾七文

右之通僉議之上双方証拠無之条平均ニ申付之上ハ、右割符金高四拾三両貳分銀拾毫八厘錢貳貫七百七拾七文源之丞方次兵衛方江可相渡事

一 此度次兵衛訴出候三拾両金之事、証文有之源之丞借り金之儀利足定之内、段々相滞旨遂僉議候処無相違候、年々催促候得共、数年元利不相済上者、右証文ニ有之質物次兵衛方江急度可相渡之事

右之通双方僉議之上裁許申付者也

享保元丙申年十二月五日 勝之進市郎右衛門  
又左衛門

源之丞  
次兵衛

深良村

源之丞  
次兵衛

(樞野市深良 一之瀬和雄氏所藏)

六 (七三四)  
享保一九年一月 深良村名主不埒金一件訴状

乍恐口上書ヲ以御訴申上候事

一 先達而御内意申上候源之允(丞)不埒金之儀、何卒内証ニ而埒明可申、旧冬方様々と仕方候ニ而手寄之人ヲ頼分散ニ御無心申候得共、沼津半十郎殿方証文百性田地(姓)売証文ニ仕置候得者何分ニ茂埒明不申候、依之源之允田地引替可給と無心申候得共、縦源之允田地右買取申候田地方過分ニ作徳有之候共、引替申義不罷成候由申候ニ付難義ニ及候、殊ニ源之允身躰金高三分一ニ茂足り不申、是又難儀至極ニ奉存候、右半重郎方百性田地売渡証文、殊ニ反別坪付別紙ニ渡置候得者重ク奉存候、源之允内証ニ百性田地売渡筋無之候、私共判形仕候者御屋敷様御用金ニ借用仕差上申候処ニ源之允内借ニ代米相払候故、百性田地請返可申代金過分ニ不足仕難儀至極仕候、依之若御 公辺ニ茂罷成候ハ、御屋敷様迄御名茂出可申と奉存候、何卒内証ニ而相済申度、当春中

小田領竹原村名主与兵衛殿・沼津町太治右衛門殿・同

町金兵衛殿右三人御無心申、度々参頼入候得者右之衆

様々御世話ニ被成下候得共埒明不申候処ニ、右金兵衛

殿被申候者田地引替相渡ニ候義ハ埒明不申候、左様ニ

而者達而不被申候、何卒半金茂才覚被成候ハ、無心可

申と被申候得共、半金ニ而茂百両余候得者只今ニ而者

何分ニ茂才覚難成申候、其義茂尤ニ存候間、当年当年(前)

中ニ金子五六拾両も出来候ハ、残金之儀者兩年ニ茂又

候無心中可見由被申候ニ付、源之允親類并組中寄合相

談仕候得共金子出来様無御座ニ付、親類共へも無心中、

源之允田畑・家財・諸道具・山林不残売払皆々之世話

ニ仕金子才覚仕候而茂金子調兼候ハ、是悲(非)ニ不及候間、

先金兵衛殿・与兵衛殿へ参金兵衛被申候通御世話頼入

候得者右之訳半十郎方へ被申達候得共、右田地買取申

金子忝分不足ニ而茂不罷成由申候故、右之衆菟角田地

相渡外無之被申候、然者田地相渡申義百姓田地ニ候得

者難儀至極ニ奉存候、何卒御威光ヲ以御公刃ニ不罷成

候様ニ被為 仰付被下置候様奉願上候

一去暮源之允立退候以後出申候願書書通此度指上申候、

前以指上可申候処恐多ク奉存候、指控候得共金主何分

ニ茂内証ニ而埒明不申故此度指上申候

右御願申上候通り御慈悲を以早速事相濟候様ニ奉願上候、

以上

享保十九年

深良村

寅ノ十一月

源 藏

政右衛門

弥十郎

六郎右衛門

源五郎

源太郎

浅右衛門

友八

八右衛門

源六

御役人中様

源之允口上書写

一 私儀四年以前方当年迄御金御用被為仰付候、依之三嶋・沼津ニ而金子借用仕差上申候、右金子之内私身躰不勝手殊ニ去年家内不残煩、親并子共煩、親者当春中迄煩難儀仕候、依夫私用ニ遣込、尤少々者百性方ニ茂借置候得共、取立埒明不申手前不埒ニ而三嶋・沼津へ返濟難成及難儀ニ候故御願申上候、拙者家財・田畑・山林御公儀様へ差上申候、以御慈悲ヲ以御取上被為遊拙者家財・田畑・山林配分ニ被仰付被下候ハ、難有奉存候

享保十八年丑十二月

深良村

源之丞印

渡辺幸右衛門様

乍恐書付を以御訴申上候事

一 先達而御注進申上候源之允不埒、何とそ内証ニ而埒明申度出情仕候得共、大借殊ニ証文田地壳渡ニ仕置候故、田地引替ニ而割府(符)ニ致度由金主へも無心申候得共、埒明不申無是悲御訴申上候、然共金子才覚仕返濟仕候而者少々不足ニ而も無心可申と世話人申候、依之御願申上候、何卒金才覚之手立御老弁(マツ)被為遊被下置候様ニ奉願候、公辺ニ茂罷成候而ハ難儀至極ニ奉存候、御慈悲を以源之允田畑・山村(秣カ)・家財等ニ而金子出来仕候様ニ奉願上候

一 当正月松飾納候得者直ニ源之允親類とも呼集メ相談仕候ニ付、助左衛門其外衆迄茂頼入御屋敷御注進諸事相談頼入候、親類共ハ十四日迄七度參候得共、助左衛門義漸々十五日七ツ時分御出被成候処、其節渡辺幸右衛門様御死去之書状參候得者、是ニ而者相談難成可帰被申候得共、又候寄合茂埒明不申故是悲御相談可申と頼入候得共、一円相談筋不被致候而被帰候故、私組相談ヲ

以諸事取計申候、其以後茂何角無沙汰仕候訳、能田地

ハ敷金ニ渡置候故是茂割符ニ可入由申候得者、次左衛門  
門やから申候故捨置、大平村へ參諸事御内意御相談頼  
入、彼是仕罷有此義者源之允へ意趣構、彼是被申候得

共、内証ニ而埒明不申候得者、惣百姓不及申上々殿様

御名迄出候義不<sup>(宜カ)</sup>奉存候、右兩人共心行相知相<sup>(符)</sup>知候へ

ハ頼候而茂一向村之為ニ相成儀少茂無御座候、不調法

之私共何れニ茂取計可申奉存候、何卒内証ニ而相濟候

得者偏ニ仕合ニ奉存候、此上御老弁被成下私共難儀不

仕候様ニ奉願上候

一 源之允持高之内壱町式反余敷金ニ相渡置申候、其内八

反余右之金主ニ相渡為作置申候、然共高相訳不申御役

御年貢源之允方ニ而唯今迄相勤罷在候へ者、此度配分

割ニ可入申候処、彼是申者有之候故内証ニ而埒明申間

敷奉存候、先達而御内意御訴申上候此分割合不仕候而

者跡ハ不残悪田地計ニ而猶々埒明不申候、金子ニも相

成申者は計ニ而御座候、右之借金割合ニ入田地茂割符

ニ仕候様被仰付可被下候

一 源之允家財・諸道具御取上金子ニ致候様ニ奉願上候、

左様無之候而ハ金子茂出来不申、殊ニ金主方茂無心間

屈不申候、御老弁之上金子出来仕候様ニ奉願上候

一 源之允親類共へも何れニ茂相談候而内証ニ而埒明候様

ニ被為仰付可被下候、若埒明不申候而者大勢之百姓難

儀及候ま、随分世話ニ致候様ニ被為仰付可被下候

一 源之允両親之義ハ村一ツ并私共見届可申候、妻子等ハ

姑幾右衛門方へ御預候様ニ被仰付可被下候

右御願申上候品々被為聞召訳、御慈悲ヲ以願之通被為

仰付被下度候ハ、難有仕合可奉存候、以上

享保十九年寅十月

深良村

源 藏

政右衛門

弥 十郎

源 太郎

御屋敷御役人中様

友	長右衛門	八右衛門	源	源	浅右衛門	六郎右衛門
八	門	門	六	□ <sup>(五)</sup> 郎	門	門

相手 源 太郎

浅右衛門

六郎右衛門

長右衛門

源 五郎

友 八

源 六

八右衛門

伊右衛門

政右衛門

源 之 允

乍恐書付を以御願申上候

斎藤喜六郎御代官所

駿州駿東郡沼津魚町

訴訟人

半	十	郎
十	左	衛門

質地并作徳米出入

稲葉主水様御知行所

同州同郡深良村

一 駿州駿東郡深良村源太郎・浅右衛門・六郎右衛門と申

者所持之田地証文式通反別合七町七反歩此高九拾六石

六斗四合代金式百五拾壹兩式分銀壹匁七分ニ相定、

去々丑春拙者共方江質地ニ取名主源之允、組頭政右衛

門・伊右衛門、証人長右衛門・源五郎・八右衛門・友

八・源六、右田地相賄、直ニ小作致度由相願候ニ付、

右之者共方ニ而御年貢御役相勤作徳米米百八拾七表式  
分八厘ツ、年々拙者共方へ請取申筈ニ相究、別紙小帳  
帳面式冊取置申候、去々丑年ハ作徳米之内米式百表請  
取申候、依之丑ノ年分米拾式表七分式厘過ニ御座候、  
右過米之分拙共<sup>(者脱カ)</sup>相返シ可申旨其節申談置候、然処ニ  
去寅秋作被苜取候以後作徳米相渡候様ニ度々催促仕候  
得共、彼是難渋仕只今まで一粒茂相渡不申候、至極難  
儀仕候、其上当作之義茂拙者共へ断茂不仕作□□我儘  
成致方迷惑至極ニ奉存候、依之右之段御地頭稻葉主水  
様へ御願申上候へ共埒明不申候間、無是悲御訴訟申上  
候、御慈悲ヲ以右之者共被為御 召出御吟味之上田地  
并寅之年作徳米相渡し候様ニ被為仰付被下置候ハ、難  
有可奉存候、以上

如是目安差上候間、致返答書来月十三日評定所江罷出  
可対決、若於不參者可為曲事者也

卯ノ八月十九日 筑後

御用方御無加印 筑前

志摩

御用方御無加印 丹波

佐渡

御用方御無加印 下野

越前

御用方御無加印 紀伊

河内

御用方御無加印 越中

越前

享保二十年卯ノ八月

駿州駿東郡深良村

沼津魚町

源 太 郎

半 十 郎

浅右衛門

御奉行所様

訴訟人 重左衛門

六郎右衛門

乍恐返答書ヲ以御訴訟申上候事

稲葉主水様御知行所

駿州駿東郡深良村

返答人 源 太 郎

浅右衛門

六郎右衛門

右村  
五人組  
名組  
主頭組

長右衛門  
源 五 郎  
友 八  
八右衛門  
源 六  
伊右衛門  
政右衛門  
源之允

斎藤喜六郎様御代官所

同国同郡沼津町

訴訟人相手 半 重 郎  
重左衛門

長右衛門  
源 五 郎  
友 八  
源 六  
八右衛門  
伊右衛門  
政右衛門

一 駿州駿東郡深良村組頭百性拾人申上候、同国同郡沼津

町半十郎・重左衛門申上候者深良村源太郎・浅右衛

門・六郎右衛門所持之田地質地ニ取、金子借申候趣ニ

申上候得共、私共自分入用ニ借り申候義ニ無御座、勿

論半十郎・十左衛門と申者面談仕候義茂無御座候、金

子借用之義ハ私共村名主源之允ニ御地頭方御用金役被

仰付、其上村方江被仰渡候者用金之儀ニ付、質地ニ百姓田地源之丞差図ニ無違背書入、勿論証文加判共ニ源之丞差図ニ随可申候、返済之義者御年貢米ニ而源之丞方相濟、百姓苦勞ニ無之様ニ被成可被下旨被仰渡候ニ付、数年御用金質地証文加判之義、源之丞差図次第ニ仕来申候事

一 去々丑年、沼津半十郎・重左衛門両人之金子貳百五拾壹兩貳分銀壹匁七分名主源之丞与右金元兩人相對ニ而借用申証文之義、源之丞相認判形取集メ前々之通加判仕候、然処ニ丑ノ暮源之允欠落仕候ニ付、御地頭へ早々御注進申上候、依之御用金借シ申候三嶋・沼津之金元とも代米滞り迷惑之由致催促候ニ付、様子承候処方々不埒千万ニ御座候、別而半十郎・重左衛門兩人金高貳百五拾壹兩貳分銀壹匁七分、但シ丑ノ年元利合右之金子代米七百三拾六表九分七厘八毛相渡可申処ニ米貳百俵相渡シ、残五百三拾六表九分七リシ八毛源之丞滞り申勘定ニ御座候ニ付、其砌方当七月迄半十郎・十

左衛門方江私共詫言申候得者、源之丞欠落之故可致様無之候、乍不足源之允家財・田畑四拾石余有之候間、請取埒明可給候様ニと詫人を頼段々申候得共承□無之何共迷惑至極仕候、尤源之允ト金主半十郎・重左衛門相對之証拠御座候間、乍恐御披見ニ入申度奉存候

一 半十郎・十左衛門申上候者、源之允方方米貳百俵丑ノ年作徳米ニ請取、内拾表式七分式厘過ニ御座候ニ付、過之分相返シ可申旨其節申談置候と申上候ハ、源之丞借り金ハ元金貳百貳拾壹兩丑之年分利金三拾兩貳分銀壹匁七分ニ都合貳百五拾壹兩貳分銀壹匁七分ニ而御座候得者、此外ニ米百八拾七表貳分八厘取被申候而ハ迷惑ニ御座候、源之丞義半十郎・十左衛門兩人之勘定ニ伺仕候義と奉存候、御吟味之上式百俵相返シ候様ニ被為 仰付可被下候、本人源之允欠落仕候得者諸々取懸り之訳不慥ニ而何共迷惑仕候、偏ニ御慈悲奉願上候事右之通少茂相違之義不申上候、御慈悲ニ私共退転不仕候様ニ被為 仰付被下候者難有奉存候、以上

享保二十年卯ノ九月

深良村

組頭

政右衛門

同

伊右衛門

源 太郎

浅右衛門

六郎右衛門

長右衛門

源 五郎

友 八

源 六

八右衛門

御奉行様

乍恐以書付を以申上候<sup>(旨)</sup>

一 先達而申上候深良村名主源之丞、私共ニ申付候者当丑

ノ年分御用金借証文ニ判形仕候様ニと申ニ付、数年仕

候通相心得判形仕候処ニ丑ノ暮源之允欠落之以後、半

十郎・十左衛門方御用金代米催促之手紙遣シ候ニ付、

代米不足様子承段々詫申候処ニ此度半十郎・重左衛門

申上候者源太郎・浅右衛門・六郎右衛門田地有合ニ買

取之趣ニ格別相違之義申上候、右之金式百五拾壹兩式

分銀<sup>(旨)</sup>ト銀壹匁七分田地代金ニ而丑ノ暮相渡元金之様ニ

申上候得共、格別之偏ニ御座候、源之允借り申候者丑

ノ三月方同八月迄ニ月々ニ借り元金式百五拾壹兩、此

利金三拾兩式分銀壹匁七分、都合式百五拾壹兩式分銀

壹匁七分ニ而御座候得者御用金ニ紛無御座候処ニ、田

地有合ニ買取申証文ニ判形取申候者存之外成義ニ御座

候、三月方八月迄月々ニ借り申候金子田地代金ニ而者

無御座候、依之証文金通帳・御地頭御蔵米請取并代米

不足催促之手紙差上置申候、乍恐御披見之上御慈悲奉

願上候、以上

享保二十年卯九月

稻葉主水知行所

駿州駿東郡深良村

組頭

政右衛門

伊右衛門

源太郎

浅右衛門

六郎右衛門

長右衛門

源五郎

源六

友八

八右衛門

御評定所様

一札之事

一 田地七町七反歩之処、去々丑ノ年質地ニ取金子貳百五拾壹兩貳分銀壹匁七分相借申候処、右田地代金并作徳

米共ニ相滞り申候ニ付、此度御奉行所江御願申上御裏書御判頂戴相付双方御評定所江罷出及御吟味候処、兩宿并藤屋甚右衛門殿取拵を以右証文之金高式百五拾壹兩貳分銀壹匁七分之内米式百俵丑之暮ニ請取置申候、此代金六拾八兩三分銀拾貳匁九分、此分殘金百八拾貳兩貳分銀三匁八分、右之内半金九拾壹兩壹分銀壹匁九分ニ而相濟、殘半金者不足可致約束ニ而取拵相濟申候得共、右之金子御当地ニ而才覺難成由ニ而国元へ罷歸り、右之金子相渡可被成旨来十二月四日迄御日延御願申上候、右四日ニ御濟口差上候様ニ国元ニ而十一月廿五日切ニ急度金子御渡可被成候、右取拵ニ而相濟申上者右之地所ニ付相掛候出入無御座候、金子相濟候ハ、双方此証文取返可申候、勿論質地并小作証文茂御評定所方請取次第直ニ江戸表ニ而相渡可申候、若右之通相濟不申候者本証文之金高式百五拾壹兩貳分銀壹匁七分并作徳米共ニ右御願申上候金高ニ而相掛り申候約束ニ御座候、然上者此証文可為返古候、為後日一札仍而如

件

享保貳拾乙卯年十月

駿州沼津魚町

半十郎印

十左衛門印

横山町式丁目

夏屋

取扱人 久右衛門印

南小田原町

大黒屋

同 与右衛門印

牛込御納戸町

藤屋

同 甚右衛門印

駿州深良村

源太郎殿

浅右衛門殿

六郎右衛門殿

長右衛門殿

源五郎殿

友八殿

八右衛門殿

源六殿

政右衛門殿

名主 源藏殿

右之本書有

乍恐書付を以御願申上候事

一 源之丞沼津・三嶋借金御屋敷様御威光故諸色売物代等

ニ而相調返濟仕候、尤旧借之儀者売残田畑を以配分ニ

仕諸事為増片付偏ニ難有奉存候、依之御願申上候者源

之丞父母極老ニ御座候得者殊之外難儀仕候、数代之者

と申殊ニ老衰之者之義ニ御座候得者何卒御慈悲を以御

免被遊被下、本之居屋敷江御返被下候様ニ乍恐奉願上

候、尤居敷之義(屋敷カ)茂一門共方へ渡置候得者当分借地ニ仕

第1節 村の政治

綾部平蔵様

候而成共指置申、其上一類之者共一同ニ而相談之上源  
 之丞跡相続仕候様ニ御上意奉願上候、右御願申上通り  
 ニ御慈悲を以被為仰付被下置候様ニ乍恐御願被遊被下  
 候ハ、偏ニ難有仕合ニ可奉存候、以上

元文元年辰六月

深良村

訴訟人 源 蔵

同 政右衛門

同 源五郎

同 六郎右衛門

同 浅右衛門

同 源太郎

同 源六

同 □左衛門

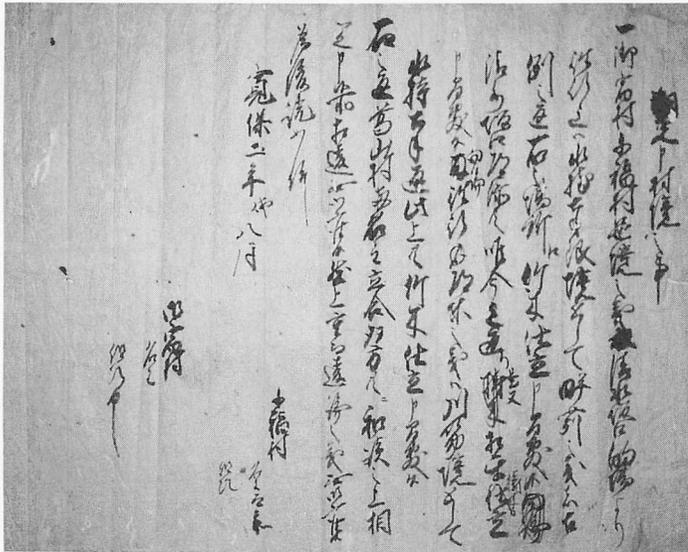
同 友八

同 八右衛門

右願相濟候ニ付、本居屋敷返ス

(裾野市深良 志村守雄氏所蔵)

九 (七四二) 寛保二年八月 御宿村・千福村村境定書



相定申村境之事

一 御宿村・千福村邑境之義、清水坂口の場より往行迄ハ

水持奉限境として畔蒔之義者古例之通右之場所江竹木

仕立申間敷候、勿論清水坂口道添共唯今迄通り樹木相

互樹木仕立申間敷候、故往行道東之義ハ川筋境として

水持土手通此上共竹木仕立申間敷候

右之通葛山村兩名主立合、双方共ニ和談之上相定申候所

相違無御座候、然上重而違論之義無御座候、為御証如件

寛保二年戊八月

千福村

名主 太兵衛

組頭 (マコ)

御宿村

名主

組頭中

(裾野市千福 西島義禮氏所蔵)

100 (一七六六) 明和二年二月 深良村名主諸事不埒につき吟味願

乍恐書付を以御願申上候

一 先達而御願申上候かろうと其外堰々、何年ニ茂無之大破損ニ付、人足多分大掛り可申と奉存候、惣百性困窮故、人足数日相掛り候而者難儀仕候ニ付、何卒御役人様御世話を以早速出来仕候様ニ奉願上候、且又御慈悲ヲ以人足并扶持米被下置候様ニ奉願上候

一 村役人不埒ニ付、猪鹿迄張強芋穴掘返シ種絶最早植付候節ニ罷成難儀ニ付、村中申合猪狩初候所、助左衛門江戸戸罷帰り、直々組頭・助左衛門付百性呼付、不届至極之由申、人足一切出シ不申候、且又御預ケ之鉄炮惣右衛門・清兵衛・助八取留メニ仕、只今迄村用ニ一切相立不申故、去比大野吉大夫様迄御願置候故、組頭中江申達シ猪狩之節借寄候所、是又不届至極ニ申取上ケ組頭初耆人も不差出候、組頭方届ケ有之候ニ付、差置申候助左衛門工を以猪狩堰々普請迄ニ相障り御田地

為荒、百性退転可為致趣ニ相見江候得者、何分御役人様近々御越猪鹿ふせき堀々出来御田地荒不申候様ニ奉願上候

一 助左衛門新規之取計ニ而水配迄味熟ニ致、去ル秋出水ニ深良村方別而大水損仕候処、村役人<sup>(依)</sup>患怙最員之取計大野吉大夫様江申上置候、其上夏作秋作別而不作之所、助左衛門工ニ而出入拵立、出府路用其外入用多、頭百性別而困窮仕候所、去冬御年貢出情仕御差支無之可仕御請申上候ニ付、出入御吟味早速御分ケ為可被下願百性ニも種々申聞出情為仕種物等迄よじめ上納仕候故、夫喰等者一切無之頭百性始難儀至極仕候ニ付、先達而夫喰御拜借奉願上候、助左衛門附百性者助左衛門工ニ馴合、何角宜敷所過分之大未進者助左衛門工ヲ以<sup>(非)</sup>悲道之儀ニ馴合、御上様御差支頭百性為相潰手前栄花可仕工故、歎ケハ敷奉存候、何分出入御分惣百性相続仕候様ニ奉願上候

一 去御年貢大野吉大夫様江直納被 仰付候所、助左衛門

不埒之帳面御写御取立ニ付、御割直シ百姓も為立合可被下と申上候所、組頭御頼ニ而前帳写御取立被 仰聞候者手廻り兼候故、過米も有之候ハ、同尻ノ勘定ヲ以百姓江相返シ可申被 仰聞候ニ付承知仕居候、然所正月御立之砌り御願候得ハ、同尻ノ米五俵余過納有之候由被 仰聞候ニ付、山役定夫給米畑方持分別帳ニ有之筈申上候所、組頭御吟味之上右帳面組頭ノ失念之由ニ而差出候分米四斗余之所御請取被遊候分米三斗六升壹合之由、都合六俵余御取立過米有之由、御渡シ可被下と相願候所ニ、御預り之書付御渡シ候故頂戴仕被遊候

一 助左衛門人名主ニ付私欲掠奪權を以直々仕此度相頭候処、彼是申候義全ク偽リニ御座候、欲心ヲ以新規ニ仕候義ニ御座候、三ヶ年ニ御年貢米拾八俵余此度大野吉大夫様御取立ニ而押領相分り候得者、助左衛門取込之分元利相渡候様ニ奉願上候

一 午年役割御手前様御賄ニ付、錢拾四貫文程之御帳面御

渡シ被遊候処、村割三拾貫文余割入平内仕役も六貫文余之所拾貫文余割ニ入御上様ノ被下候御扶持米取込其外六ヶ村諸色私欲を以割ニ入候ニ付、其節二重入可有之候間、吟味可被成申達候得共、百姓相掠落物入杯と申、割直シ不申小百姓押付印形を為致候由、御吟味之上取込之分相返シ候様ニ奉願上候

一 未年役割五ヶ村ノ百姓仕役過多分助左衛門取込、其上百姓少々も滯候分者御年貢先納金杯ニ而引取、百姓仕役者爾今一切相返シ不申候、是又取込之分早々相返シ候様ニ奉願上候

一 助左衛門工之偽りを以取込仕候所、組頭、助左衛門ニ馴合、同様ニ役筋申立ニ致シ頭百姓為及難儀候、尤不残左様ニも相見江不申候得共、弥平治儀者前々相動候所諸事助左衛門ニ馴合、忠八義も馴合百姓難義を悦、心入不宜取計ニ而以論不絶及難義候、惣右衛門・清兵衛義者先達而申上候通り、元來組頭ハ名主取計不宜義相改少々ニ而も不埒等吟味可仕所、助左衛門ニ馴合惡

事相かくし百性難義為致候義、組頭役筋とハ不奉存候、何分御吟味奉願上候

一 巳年以來助左衛門工之偽りを以出入拵立、手前出訴ニ致惣百性困窮為仕候、然所ニ前度出入之節者名主未進重キ義被 仰聞候所、助左衛門義者末年方五拾兩余御年貢不埒ニ仕、百性塗付、組頭・百性被差留候所、御拝借ニ被成下候風聞、百性方ハ偽りを以未進無之者迄不納ニ申上、申暮御咎之所御訴訟相頼候而も組頭迄助右衛門ニ馴合、何分致呉レ不申難義為致候、其後御公役取込之筋合申候節、御仕置御免御 殿様御意ニ而も手前得心不致、私之仕置致置、御 上様方御ほうび頂戴仕候と助左衛門村中百性立合之節申候、右助左衛門悪心ニ組頭馴合百性相潰シ候義御吟味奉願上候

一 助左衛門義、御 公家衆様御役人馬過割ニ付村中一統ニ相願候所、不届至極申上御仕置ニ致候趣ヲ以、出訴御差紙相付、困窮之私共益前々暮迄度々出府仕、不益之物入致させ退転ニ及候者残念至極ニ奉存候、然所助

左衛門・惣右衛門・清兵衛義者六月畑先納助左衛門付百性方取立路用ニ致シ、暮ニ至り御役人様御吟味ニ而も彼是難渋仕不差出由、前度出入之節者忠右衛門切金御年貢金引替候落度を以重キ御咎之所、右三人者手前出訴出入路用ニ大切之御年貢路用ニ遣候義ハ法外至極奉存候、御吟味奉願上候

一 先達而申上候通、御 公家衆様御役割六月廿三日名主組頭中計ニ而前格ヲ違人馬過割仕候ニ付、同月廿七日相願候所役所ニ而割出候義、若シ少シニ而も割直シ候ハ、早速退役致候、是ハ頭百性頭取為願候ニ付、急度御仕置ニ致候と悪口雜言致候由、依之晚方私共一同致シ過割之品々申達候得ハ、助左衛門申披者無之悪口致候ニ付、長百性相除キ候義相尋候得者、百性之内方訴人有之候、我等頭取致当テ見候義不届至極ニ付、相除キ候と申なりさわぎ訴人之者ハ御吟味之節可差出と申候、然処七月八日沼津与左衛門人馬未進催促ニ村々相廻り候節、助左衛門方江も立寄候処、助左衛門与左衛

門ヲたまし過割之通書付為致、右書付御屋敷江差出御  
權威ヲ以百姓中潰咎落シニ致候工ニ御座候、種々偽り

申上御差紙頂戴之所御裁許書之由申聞、相背候者ハ江  
戸表江五人組不残差遣候、其上可繩掛申候義組頭証人  
ニ御座候、御吟味奉願上候

一村々相廻り候配府、廿四日勤人足千式百人ニ而深良村  
六拾八人ニ候、八拾五人ニ而者千五百人及候、殊ニ三

嶋宿・原宿廿四日御通向之節者五百人内之所割増八十  
五人ニ而者千五百人ニ及候、其上十六日人馬渡勤惣右

衛門口ヲ以割入候抔と申、沼津配府書直シ八百拾八人  
ニ合御上様ヲ相掠偽り申上候義者、謀書同前ニ奉存候、  
右助左衛門偽り之御願ニ付度々出府仕、不益之路用只

今迄三拾両余遣候得ハ、百姓路用助左衛門方差出候様  
ニ奉願上候

一 沼津宿惣勤人足二万四千人及候、馬七百疋余、三嶋宿  
八人足一万人、内馬四百四拾九疋、三嶋宿方人足四千  
人及、馬三百疋余余慶相見へ候、助左衛門式百七十三

人、馬拾三疋余賃錢差出間敷候と惣百姓江申渡候ニ付  
申上置候

一 助左衛門私欲押領偽り相頭候上者、助左衛門并馴合組  
頭支配ニ而者偽りを以頭百姓初村中及退転候ニ付、御  
慈悲を以支配御除キ惣百姓相続仕候様ニ奉願上候

右御願申上候通、御慈悲を以惣百姓相続仕候様ニ被為  
仰付被下候ハ、難有仕合ニ奉存候、以上

明和三年戌二月

深良村

百姓惣代 源 藏<sup>印</sup>

同 平 助<sup>印</sup>

同 伊 六<sup>印</sup>

御役人中様

(裾野市深良 志村守雄氏所藏)

101 明和四年四月 深良村村役人残らず退役後、組頭

入札につき連印一札

差上申一札之事

一私共村方は迄相勤候名主組頭取計方不宜候之旨村役人不残退役被 仰付、後役組頭之儀入札ニ而御願申上候様ニ被 仰付奉畏候、則此度入札仕差上申候、何れ江落札ニ罷成候共被 仰付次第違背申間敷候、尤後役之者不行届相勤り兼候節者何事ニよらず相互ニ無覆蔵取計、幾重ニ茂役義相勤候様ニ熟談仕村方無難ニ相治り候様ニ可仕候間、右落札之者へ後役被 仰付被下置候様ニ奉願上候、為其村中連印差上申候所仍而如件

明和四丁亥年四月

深良村

上原

源

八印

戸右衛門印

源 六印

七左衛門印

傳兵衛印

五左衛門印

佐右衛門印

藤右衛門印

弥助印

新右衛門印

源兵衛印

源右衛門印

新内印

彦左衛門印

権八印

源藏印

勘左衛門印

傳助印

元八印

弥七印

清右衛門<sup>印</sup>  
 仁左衛門<sup>印</sup>  
 平四郎<sup>印</sup>  
 原  
 仲右衛門<sup>印</sup>  
 平十郎<sup>印</sup>  
 銀左衛門<sup>印</sup>  
 文四郎<sup>印</sup>  
 市松<sup>印</sup>  
 源八<sup>印</sup>  
 弥四郎<sup>印</sup>  
 徳右衛門<sup>印</sup>  
 仁兵衛<sup>印</sup>  
 忠右衛門<sup>印</sup>  
 新内<sup>印</sup>  
 由左衛門<sup>印</sup>  
 新八<sup>印</sup>

稲葉紀伊守様

御役人中様

(裾野市深良 志村守雄氏所蔵)

101  
嘉永七年五月二日

久根村取締役・名主役不正一  
件につき小前惣代より役儀罷  
免願

乍恐以書付御歎願奉申上候

惣右衛門<sup>印</sup>  
 半兵衛<sup>印</sup>  
 伊右衛門<sup>印</sup>  
 傳十郎<sup>印</sup>  
 清七<sup>印</sup>  
 喜兵衛<sup>印</sup>  
 善六<sup>印</sup>  
 上原  
 傳十郎<sup>印</sup>

第1節 村の政治

御知行所駿州駿東郡久根村小前百姓惣代百姓源左衛門・同孫右衛門・同久藏・同勝右衛門煩ニ付代同徳右衛門右四人之者共一同奉申上候、御知行所御取締役勝亦弥右衛門殿并名主弥兵衛義、役向取計方不正之廉々有之、小前百姓難涉仕候ニ付、箇条を以小前惣代惣五郎・安兵衛兩人当月中 御屋敷様江御歎願奉申上候処御吟味ニ相成、相手弥右衛門殿方夫々返答書差出し候得共、全偽り取捨役威を以 御上様江品能申立、小前百姓共事実申立候儀を御吟味之上御取潰相成、夫々濟方被 仰付一同帰村被 仰付候得共、弥右衛門殿并弥兵衛勤役罷在候而者 迎茂一村難治、当二月中奉歎願候箇条之内ニも不容易廉々御座候得共、一旦濟方被 仰付候儀ニ御座候間、先般之儀者一切御願不申候得共此儘弥右衛門殿・弥兵衛勤役罷在候而者一同潰退転ニ及候外無御座候、右者弥右衛門殿義、平日迎茂役威を振ひ聊之儀を大行ニ仕成、事荒立愚昧之百姓と見掠難題を申掛、違背致候得者過代申付候儀度々有之、弥右衛門殿・名主弥兵衛・組頭甚七三人

之者共親子兄弟之間柄ニ而万事馴合勝手儘之取計致し、此段御見察被成下置度奉願上候、就而者去ル子年中鎮守石鳥居再建入用日掛銭名主弥兵衛押領筋茂相見へ候間、諸帳面披見為致呉候様再応及掛合候得共、役威を以申権候、諸帳面一切披見為致不申、左候得者全押領筋茂御座候哉与奉存候間、名主弥兵衛被 召出御吟味被成下置度奉願上候、尚又当二月中右弥右衛門殿江相掛り候一件其節之惣代百姓惣五郎・同安兵衛并百姓代嘉助右三人之者共御吟味中手鎖御掛松川屋藤兵衛方江宿御預ケ被 仰付慎申、三月十一日相手弥右衛門殿宿玉屋安兵衛方方前書三人之者共江用向有之候旨ニ而早々玉屋安兵衛方江可罷越様申来候ニ付、無何心同人方江罷越候処、相手弥右衛門殿義惣五郎・安兵衛・嘉助を一間江相招申聞候義者、今般之出入松井庄左衛門を咎ニ落呉候得者同人持分久根村田地不残当村江引揚、今般之出入訴答諸入用何程相掛り候共、面々難涉相掛不申候様悴弥兵衛江茂内実為差合工風致し置候間、理非ニ不抱庄左衛門落呉候様弥右衛門

殿只願頼之候趣ニ御座候得共、不容易義ニ付先般惣代之者共一切取散不申候旨ニ御座候、右様悪事を取巧候弥右衛門殿・弥兵衛ニ御座候得者、此儘兩人勤役罷在候而者後難之程茂難計、小前一同不怙依ニ御座候間、兩人之儀役儀御取放被成下置度一同拵而奉願上候、万一御取放無御座候ハ、乍恐右兩人之御支配請不申御年貢諸役御上納筋之儀者 御上様江直御上納仕度奉願上候、万々一御聞濟無之候節者不得止事小前百姓共神命を投打、重御筋江御歎願奉申上候外無御座候間、何卒以 御慈悲御仁恵之御沙汰奉願上候、以上

嘉永七寅年五月二日

御知行所

駿州駿東郡久根村

小前百姓五拾人惣代

源左衛門  
孫右衛門

久 藏  
勝右衛門煩ニ付代

徳右衛門

御地頭所様

御役人中様

(裾野市久根 勝又重俊氏所藏)

一〇三 嘉永七年五月 役儀不正一件につき久根村取締役

返答書

乍恐以返答書奉申上候

御知行所駿州駿東郡久根村取締役勝又弥右衛門奉申上候、同村小前百姓惣代百姓源左衛門・同孫右衛門・同久藏・同徳右衛門右四人之者共々私弥兵衛兩人相手取品々訴上候ニ付左ニ御答奉申上候

此段当二月中小前惣代与して惣五郎・安兵衛・百姓代嘉助右三人之もの共跡形茂無之無証拠を訴状ニ相認御願奉申上候一件、再応御吟味被成下置候処、逸々申開無之惣代之もの共一同恐入奉恐怖引合之もの共迄御請書差上一同帰村被仰付候処、其節私々同郡深良村松井庄左衛門江相掛り候一条、扱人立入内済熟談仕、引合之もの共迄

第1節 村の政治

一同是又無申分示談行届、則濟口証文奉差上、依而者扱人方の村方小前為治御出役御願奉申上候ニ付、去四月五日河越三太夫様御出役被遊、右扱人罷出小前もの共江利解随分申聞度心得ニて御日延奉願上候内、小前惣代前書四人之者共方願書差出候処、深良村大庭仲藏願書之儀者扱人取懸り置候内ニ付預り置、然ル処水配人方箱根山湖水御普請所御見分奉願上、御聞濟之上御見分与して御出役之節深良村名主兩人外役人并弥兵衛御供申上候処、夜分ニ相成山中之事故御帰駕難相成、無扱姥子与申処江御志泊被成、其夜俄ニ御陣屋御留主を附込、頭取之もの共四月十二日晚豆州佐野村与申村迄小前一同引連 御屋敷江御門訴致候等徒党いたし押出し候ニ付、右佐野村役人共ニ被差留罷在候内、惣代之源左衛門志人願書を以御屋敷へ越訴致し候趣ニ而、御出役 河越様御義も御陣屋御引取被遊候儀者扱人共方御出役中小前江掛ケ合之始末書明細奉差上候趣、今般又候訴状を以御訴奉申上候始末、役向勘定ニおゐて兩人ニ而取計勘定致候義ハ一切無

之、名主・組頭・百姓代立合相談之上勘定割合致し来候処、兩人ニ而役向非道之取計不正之廉々有之、兩人役義一同不怙依之義申立候、是迄之諸勘定割合帳面逸々御調、若私共ニおゐて少々たり共不正之廉有之候ハ、実以奉恐入候得共、小前之もの共証拠等茂可有之候間証拠御引合御調之上御吟味奉願上候、且又訴状を以奉申上候文面之趣何欵役義を以品能返答申上候杯御吟味詰之上 御賢慮を以 御裁許被 仰付候儀茂服臆有之趣申紛、村方ニおゐて平日役威を以聊之義を大行ニ仕成候等取計致し候寛無御座、小前之もの共何欵心得違又者掟・村風を相背候猥有之節八年々村方規定書を以取置候故、役人百姓代相談之上取調異見杯茂不用候節ハ村法を以答申付候事も有之候得共、私共兩人甚七三人万事馴合勝手儘之取計致候等一切無之、去子年九月中方去丑年迄鎮守石鳥居再建入用日掛ケ錢之義弥兵衛押領筋之趣訴上候得共、是以跡方茂無之偽申立、日掛ケ錢之義者村方四最寄ニ有之候処、西組最寄者弥兵衛方ニ而取集、東組最寄ハ先百姓

代嘉助取集メ、長尾組最寄ハ忠蔵取集メ、久根ノ内組最寄ハ甚七取集メ、石鳥居再建入用金八両余相懸リ諸入用之儀ハ弥兵衛・忠蔵・甚七・嘉助四人ニ而右金取替書日掛ケ儀皆済之上者夫々取替江引取可申答ニ而村一同承知之上掛ケ錢致候処、去十二月迄皆済ニ相成不申、不錢之もの共多分ニ有之今以勘定相立不申、此儀者組頭忠蔵を御尋被下置候得者相分り、且入用帳面披見為致呉儀様及掛ケ合ニ候得共、役儀を以申威全老人押領筋与之申分難心得、当二月中深良村庄左衛門江相掛り高役金一条之儀ニ付、三月十一日先惣代惣五郎・安兵衛・百姓代嘉助此三人江事実承知致候ハ、有様ニ御上様江申上候得者、引合之もの共御呼出無之候而茂事相分り可申候間、願立之儀者一同承知致し請印差出候計ニ相成、今高役金之訳ケ計ニ相成、此上引合之もの共御呼出ニ相成候得者村方一同難渋之筋ニも成行可申候間、此儀を承度与問合候得共、右三人之者共一切私共存不申由申之候ニ付、不存上者無拋義与申断候而已、且庄左衛門咎ニ落呉候杯不思寄

偽り巧事仕出し、庄左衛門持分之地地不残引揚ケ今般之出入雑用ニ可致、悴弥兵衛江茂内実為差含工風致置候等申立候得共、偽リニ而三月十一日ニ掛ケ合候処、十三日訴答共一同御請書差上候得ハ、国元ニ罷在候悴弥兵衛江可申間茂無之、右様不相当之義を事実之様ニ取巧申立、此段御賢慮之程奉願上候、私共兩人計年々役向不正之廉有之候趣、前書奉申上候通此度諸帳面拾ケ年分程持参仕候間、御披見之上御取調被下置、尚惣代之者共儀者証拠等茂可有之候間、御取調之上一同被召出対決被仰付被下置候様奉願上候、村方ニおゐて私親類共無謂突合を相省農業渡世致居候得共、親類五人之もの共江何欵難題申掛ケ候等聞附私方へ申出艱苦難凌、後々者村方ニ才難相成(付)義出来可致茂難計、老人共等特殊外悲歎罷在其段私方江度々申参り候得共、此度之儀者親類共ニ拘候義者無之間決而心配不致落附居候様申聞置候得共、只々乱妨ニ而茂可致哉与安事罷在候間、此儀も惣代之者共江御調被成下置、何故ニ突合ヲ相省候哉乍恐、御上様之御威光を以無

難ニ百姓渡世致候様奉願上候、且私兩人役向相勤居候而者一村難治旨申立候間、私共儀者乍恐退役被 仰付村方無難ニ相統相成候様被 仰付被成下置度奉願上候、且私義も是迄惡もの共茂良民ニ立戻り其他農業不情之者共逆茂出情致し候様発論茂致し候得共、心底不宜もの村方ニ罷在候得者自然惡敷義ニ者入易く、後ハ今般之次第ニ成行其詮茂無御座、奉対 御上様江候而者奉恐入余者御尋之節奏細口上を以可申上候、以上

御知行所

嘉永七寅年五月 駿州駿東郡久根村

取締役返答人 勝又弥右衛門

御地頭所様

御役人中様

(裾野市久根 勝又重俊氏所蔵)

一〇四 (一八五九) 安政六年正月 葛山村村役につき村方一同詫入証

文

佐入申証文之事

一此度名主儀右衛門殿退役被申出候処、村方一同相談之上惣代ヲ以永役被下候様御願申上候処、御承知無之達而退役之由御断ニ相成候、然処先年貴家様へ村方方差出シ置候書面之趣村方一同心得違之入札仕候而御利解被仰聞、惣代之者恐入一言之申訳無御座候、右ニ付上ケ田村名主忠左衛門様御無心申入御侘申上候得者、厚キ御勘弁以早速御聞濟を成下候段村方小前一同難有仕合ニ奉存候、然上者向後村役義之筋ニ付如何様之事ニ相成候とも貴殿へハ入札等之心得違決而仕間敷候、為後日村方一同連印一札、仍而如件

安政六年未正月日

百姓代 久左衛門(印) 利兵衛(印)  
同 庄 七(印) 良助(印)

4 入会争論

104 慶安五年二月二四日 山論につき御宿村より小田  
(一六五)

原藩へ下知願

(前欠)

甚	平	平	七
茂左衛門	金	蔵	蔵
弥平	治	政右衛門	
清	蔵	弥	平
林右衛門	茂兵衛		
直	平	吉左衛門	
菊右衛門	和	助	
源右衛門	善	助	
仙	助	甚左衛門	
		久右衛門	

立入人

上ヶ田村

名主

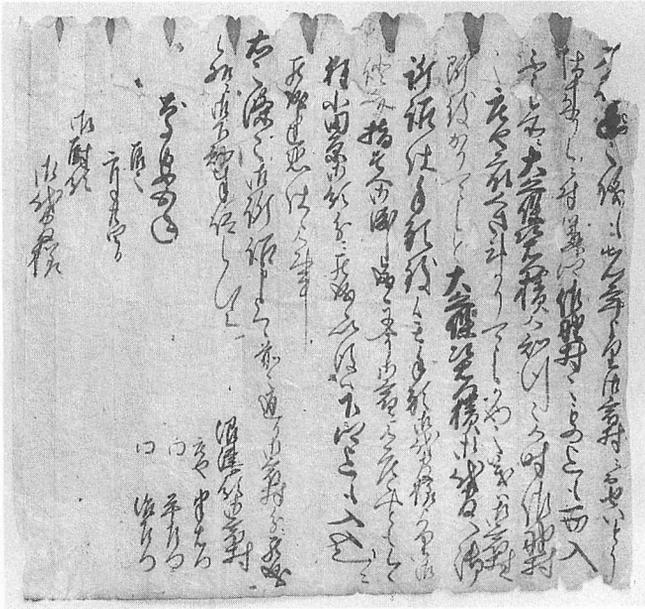
忠左衛門

芹沢勢五郎殿

(裾野市葛山 芹澤哲哉氏所蔵)

も入込ニ罷成、迷惑仕候御事

右之条々御訴訟申上候、前々通り御宿村分ニ罷成候様ニ  
御下知奉仰候、以上



沼津領御宿村

慶安五年

庄や 半右衛門

辰之

同 平左衛門

二月廿四日

同 治左衛門

御厨領

御代官様

(裾野市御宿 湯山芳健氏所蔵)

二〇六 承応三年三月一日 深良村持山境書上手形

指上ケ申手形之事

一 深良村山之儀、前々方山さかい御座候、南ハとう山方

(飯 辨) (駿 河 戸) 畑ほこ・するかど迄、北ハ明神前切ニ深良村之山ニ而

御座候、先年方他村者石わき方外ニ志人も入不申候、

為後日手形仍如件

承応三年

午三月十一日

深良村

二郎左衛門 ㊦

源左衛門<sup>㊦</sup>  
五郎左衛門<sup>㊦</sup>

内山市右衛門殿

井上小兵衛殿

(樞野市石脇 石脇区有文書)

一七〇 <sup>(一六五四)</sup> 承応三年三月二日 山境につき佐野村他三カ村

連判手形

指上申手形之事

一 佐野・久根・公文名・茶畑四ヶ村ハ、きたハはたほこ、<sup>(旗 鉢)</sup>

南ハ伊豆さかい、大沢さかいニ而御座候、右之内佐野

村ハ、草ハ大畑山ニ而かり申候、此外余村をハ壱人茂

入不申候、為後日手形仍如件

承応三年

佐野村

午ノ三月十一日

名主 藤三郎

久根村

名主 藤右衛門

茶畑村

名主 六郎右衛門

公文名村

名主 忠左衛門

内山市右衛門殿

井出<sup>(上)</sup>小兵衛殿

(樞野市公文名 公文名山岳会所蔵)

一〇九 <sup>(一六五四)</sup> 承応三年三月五日 水窪村他三カ村入会山につ

き差上書

指上ヶ申手形之事

一 水窪・上土狩・下土狩・竹原四ヶ村山之儀ハ、長久保

山・一色山・富沢山へ先年々入申候、北者富沢山切、

南ハもん沢切ニ入来申候、いろくね山へハ先年々入不

申候、御領所之内伏見・新宿・本宿なども入不申候、

為後日仍如件

承応三年

水久保 太兵衛<sup>㊦</sup>

第1節 村の政治

午三月十五日

上土狩 兵左衛門<sup>印</sup>

下土狩 弥右衛門<sup>印</sup>

組頭 佐次右衛門<sup>印</sup>

竹原 柰右衛門<sup>印</sup>

組頭 加左衛門<sup>印</sup>

内山市右衛門殿

井上小兵衛殿

(沼津市 柏木正男氏所藏)

二〇九 万治二年三月一六日 入会山通行につき金沢村他

二方村訴状

乍恐書付以御訴訟申上候

一 御宿・上ヶ田・金沢三ヶ村入来り候(愛鷹)あし高山口すがま

入と申山ニ一円薪も無御座候ニ付、山道とも作りかつ

ら山本ほらのた□の□せ可申と存候得共、牛馬かよひ

之悪敷御座候故、先ず右之所かま入にてさゝ木をかり薪ニ仕

候所ニ、当月六日ニ山口が彼すかま入葛山村之衆ゆき払申ニ

付、竹木壹本無御座候而(迷惑)めいはく致候、一昨日去ル十

四日ニかつら山村両庄屋へ三ヶ村方使越申候得者、其

方共之山我等共預り不申候、又山之番も不致候とて殊

之外立腹被致返事仕候、弥々三ヶ村之者火をたき可申

様も無御座候、只今ハ山道作り申事も百姓草臥不能成

候間、葛山郷中を通り山へ入申様ニ被仰付可被下候

右之条三ヶ村退転仕候間、如此御訴訟仕候、何分ニも御

下知奉仰候、以上

万治貳年

金沢村 半 兵 衛<sup>印</sup>

亥三月十六日

上ヶ田村 五 兵 衛<sup>印</sup>

御宿村 平 右 衛 門<sup>印</sup>

同 次 左 衛 門<sup>印</sup>

同 半 右 衛 門<sup>印</sup>

御代官様

(裾野市御宿 湯山芳健氏所藏)

二〇 (一六七) 寛文二二年七月二六日 大畑村・佐野村と山境出

入につき千福村訴状

乍恐以書付を御訴訟申上候事

一 大畑村千福村与山境去ル六月御検地割大畑村方偽を申  
各々様迄御訴訟申候付、我等共被出召双方理非被分聞  
召、大畑村者非分ニ御座候付、自今以後千福分林へ堅  
害人も入申間敷由被仰付、弥々千福分ニ紛無御座候事  
一 千福村彼林三拾年以後之古林ニ御座候所ニ、大畑村四  
郎兵衛・四郎左衛門右非分ニ申上理不立故、美濃守  
様御領佐野村百姓中与相談致千福村林へ大勢ニ而おし  
やふり候得と申候ニ付、一昨廿三日之夜千福村之林へ  
押入まき十七駄きりとり申候、夜中之義ニ候得ハ是非  
ニ不及候、同廿五日ニ佐野村百姓衆不残大畑村四郎兵  
衛・四郎左衛門案内ニて、又候や大勢押入千福村之林  
きりとり申候付、我々とも出合断仕候へハ理非なくさ  
んくニ打ころさんと□□あまた御座候、諸事

四郎兵衛指図ニ御座候間、大畑村之者被出召被仰付可  
被下候

右之条々庄や百姓四郎兵衛・四郎左衛門被出召御下知奉  
仰候、以上

寛文拾貳年

子ノ七月廿六日

千福村

太兵衛

文左衛門

新左衛門

惣百姓

御代官様

(据野市千福 西島義禮氏所蔵)

二二 (一六七) 寛文二二年九月五日 千福村と山境出入につき佐

野村訴状

(端裏書)  
「佐野村目案ひかい」

乍恐書付を以御訴訟申上候事

一大畑村仏之尾と申山江従先規入来候処ニ、去々年々千

福村新左衛門山畑を發申、当六月御檢地請申に付、我等共入来候草山防申何共迷惑仕候事

一 仏之尾と申山ハ足高山(愛鷹)方相統申山ニて御座候、則五郎

川と申足高方沢流申候、彼沢迄従先規木草取申候所を、

千福村方新林を(立)申何共迷惑仕候事

一 彼仏之尾と申山之尾崎ハ大畑村之城山ニ而御座候、此

山之奥大洞と申候、五郎川迄先規方只今迄木草取申候、

大畑山ニて御座候ニ中新(林)を立、山を防申候何共迷惑

仕御訴訟申上候事

(右)  
□之々々山境之義ハ大畑村之衆ニ御尋被(印)付可被下候、  
委細ハ乍恐口上以可申上候所□仰御下知者也

佐野村

寛文十貳年

伝右衛門

子ノ九月五日

名主

□(天)□(右)

衛門

□(惣)□(百)  
性

御代官様

二三 寛文二十二年二月一八日 千福村・佐野村山出入  
(二六七)

につき濟口証文

相濟申証文之事

一 沼津御領分大畑村・千福村境之まなひたひらと申所ニ、

我等共林仕候処ニ、林大分ニ而迷惑仕候由、御厨御領

分佐野村之衆、沼津御代官様へ御訴訟被成候ニ付、富

沢村・御宿村・茶畑村・公文名村名主衆立合、山見分

之上扱ニ而、林シ新土手をつふし、林境を立、御濟被

成候、自今以後新畑を發新林を立申間敷候、為後日手

形如此御座候、以上

寛文拾貳年

千福村

子ノ十二月十八日

名主 長 四 郎(印)

同 新左衛門(印)

同 文左衛門(印)

組頭 忠左衛門(印)

(裾野市千福 西島義禮氏所藏)

同 太右衛門印

同 長左衛門印

同 三左衛門印

茶畑村

扱人 甚右衛門印

公文名村

同 平左衛門印

富沢村

同 勘兵衛印

御宿村

同 半右衛門印

佐野村

名主百姓中

(裾野市佐野 佐野区有文書)

二三 (二六九八) 元禄二年一月二日 佐野村と山出入につき

久根村詫状

一札之事

一 東山之内大谷へ佐野村之衆当春そた木刈ニ入申候ニ付、  
前々方大谷へ入不申と久根村之者参合、佐野村之刈申  
候そた木押取申候、御訴訟可被致之由近郷之衆及聞、  
茶畑村甚右衛門殿・公文名村徳兵衛殿・平松新田徳右  
衛門殿・麦塚村与右衛門殿・伊豆嶋田村半七殿・深良  
村源之助殿・助左衛門殿・御宿村半右衛門殿立合双方  
之分ケ相尋被申候所ニ、佐野村ニ先年四ヶ村連判之書  
上証文御座候段被申聞候、先年致上申候証文久根村不  
存候故、当春佐野村之衆ヲ押へ申候、此度証文見届ケ  
申上候、自今以後証文之通相守少茂構申間敷候、為後  
日如此御座候、以上

久根村

元禄十一年

名主 権左衛門

寅十一月廿二日

組頭 久兵衛  
同 久右衛門

佐野村

名主組頭中

(裾野市公文名 公文名山岳会所蔵)

二四 <sup>(一六九九)</sup> 元禄二年四月 印野村と大野山争論につき下筋

村々訴状

〔<sup>(端裏書)</sup>印野村と下郷野論訴状写シ〕

乍恐書付を以御訴訟申上候御事

一 大野山之儀入込ニ而拙者共村々薪馬草薄かや刈敷先規  
方刈り来申候、大野野付之村々他領御宿村・金沢村・  
御領分神山・今里・下和田・駒門・陣場・板妻・印  
野・深山右之村々分付ニ而はなれ候間、大野無御座惣  
名大野山と申候、然所ニ印野村分付野を八郎左衛門新  
法ニとめ可申由村中江申合、重而下筋村々印野村分江

入込候ハ、押懸ケとかま取可申由村中江申付候儀迷惑  
ニ奉存候御事

一 去冬例年之通村々かや刈ニ参候得ハ、水窪村・岩波村  
之者之かま、印野村之者并御材木引人足共ニ大勢押懸  
ケかま取り申、其上荷物藤繩切ちらし申ニ付無是悲罷  
歸り、村々名主方江かま被取候旨申ニ付、下筋村々立  
合相談ニ而去霜月印野村八郎左衛門所江組頭遣し委細  
申候得共、八郎左衛門申様ニはけ之坂方上江ハ下筋之  
者入申儀罷成間敷と申ニ付、慥成証拠御座候ハ、六ヶ  
敷義茂不及と奉存、当春公文名村・茶畑村・伊豆嶋田  
村之組頭罷越候得共不埒之挨拶、其以後三月廿四日ニ  
佐野村名主源七・石脇村名主甚四郎、八郎左衛門所江  
罷越候所ニ両度共ニ八郎左衛門留主<sup>(守)</sup>ニ而遺跡源七方江  
申様何之証拠等茂御座候哉と申候得ハ、遺跡源七申様  
ニ何之証拠無之候得共、下筋入込之儀我等ハ達而迷惑  
ニ無之候、此方入合<sup>(合)</sup>之村々三拾ヶ村より下筋之儀入込  
ニハ罷成間敷と申候、父八郎左衛門ニ逢被申候而も別

ニ替事無之由申候ニ付罷歸り申候、先年も大野道筋石脇村繫橋掛ケ替之節手つたい仕候御事

一先年下筋方印野村江かや刈ニ参候者込野之内江入候ニ付、かま取申由証抛ケ間敷被申候者、数年之公事工ニ被致入込之場所去寅之年方とめ被申迷惑ニ奉存候御事  
右之通印野村名主八郎左衛門御召出シ御穿鑿之上、前々之通入合ニ御慈悲を以被為 仰付被下置候者難有可奉存候、以上

公文名村

元禄十二年

名主 弥 七

卯四月

組頭 権右衛門

同 徳兵衛

惣百姓代 与左衛門

茶畑村

名主 甚右衛門

組頭 佐右衛門

同 太郎兵衛

大西吉太夫様  
小形兵太夫様

同 庄左衛門  
同 平右衛門  
同 七郎左衛門  
惣百姓代 九兵衛

平松新田

名主 徳右衛門

組頭 市兵衛

惣百姓代 甚三郎

麦塚村

名主 与右衛門

組頭 権右衛門

惣百姓代 庄左衛門

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

二五 (一七三) 正徳三年六月四日 平松新田他三新田・佐野村と

富沢村他二カ村入会山論につ

き裁許状

駿河国駿東郡新田四ヶ村并

佐野与富沢・一色・大畑三ヶ村入会山論

一 平松新田・堰原新田・二ツ屋新田・二本松新田訴候者

前々富沢村・一色村・大畑村山江入会候処、近年入会

指留鎌等押取之候、入会場之証拠ハ富沢地内石橋三ヶ

所并黄瀬川通路之橋新田方掛置之今以橋跡有之候、

先年茂及争論麦塚・水窪両村名主嚶を以入会候処、近

年又相障候旨申之

一 佐野村訴候者、富沢村・一色村・大畑村山江入会候処、

今度新田方訴訟ニ付、佐野茂不為入会候、前々入会来

候証拠ハ四拾貳年以前同郡千福村・大畑村入会場之内

まな板平江千福村方新林新畑仕立候付、佐野村方潰之、

其節近村名主嚶証文所持之由申之

一 佐野村百姓勘右衛門訴候者、住宅二本松新田地続ニ有

之、任向寄富沢山江入会候処、今度新田方訴訟ニ付富

沢方入会指留候旨申之

一 水窪村迄訴之趣、一色村山之内法喜庵林・蔵人林、富

沢村山之内しんなしと申場所、水窪・上土狩両村入会

候処、近年一色・富沢方新林仕立相妨申之

一 富沢村・一色村・大畑村答候者、山元者前々方内林を

境、外者水窪・納米里・上土狩・中土狩・下土狩・竹

原・本宿・新宿・伏見・八幡・長沢・柿田拾貳ヶ村并

山元三ヶ村都合拾五ヶ村入会来、新田四ヶ村并佐野村

入会候儀無之候、石橋三ヶ所沼津往来并作場道ニ付、

富沢村方掛之候、新田通路之黄瀬川橋ハ古来方無之候、

且先年同郡千福村・葛山村と山境論高度有之証文取替

候処、右水窪・納米里等入会組拾貳ヶ村ハ証文ニ載候

得共、新田四ヶ村并佐野ハ不相加候、佐野村ハ千福村

と大畑村入会場まな板平・仏か尾・大洞江入会旨申之

右遂糺明処、富沢・一色・大畑三ヶ村山江新田四ヶ村入

会来候証拠一切無之、黄瀬川橋当時無之橋跡茂不分明、石橋三ヶ所ハ掛候方証拠双方無之、新田四ヶ村年々免割書付令吟味処、堰原新田・二ツ屋新田ハ伊豆嶋田村開發、二本松新田ハ佐野村開發、平松新田茶畑村開發ニ而何茂親村有之、然上ハ親村不入会場所可入会謂無之、先年麦塚・水窪両村名主噺候儀雖申出証文等無之、且千福村・葛山村と拾五ヶ村出入有之節、両度とも新田四ヶ村并佐野村不相加上ハ前々不為入会組段分明也、向後弥不可入会之、雖然佐野村ハまな板平・仏か尾・大洞江入会来旨山元三ヶ村申立之、先年噺証文茂所持候条、佐野ハ右三ヶ所計可入会之、百姓勘右衛門并二本松新田惣百姓ハ入会場所本村佐野可准之、水窪村訴処之法喜庵林・藏人林・しんなし三ヶ所新林者一色・富沢方伐払之如有来、水窪井上土狩可令入会之、為檢使能勢権兵衛手代土肥八兵衛、飯嶋八郎右衛門手代木村左助指遣之令見分、各評議之上裁許之趣三方江書下之間永可相守此旨者也

正徳三年癸巳六月四日

水 伯耆 印

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所藏)

水 因幡 印  
 大 大隅 印  
 中 出雲 印  
 坪 能登 印  
 松 耆岐 印  
 丹 遠江 印  
 森 出羽 印  
 土 山城 印  
 松 対馬 印

5 村の事件

茶畑村

吉右衛門

勝右衛門

忠左衛門

喜右衛門

二六 安永九年二月六日 茶畑村山火事失火の者より村

役人へ書付

差上申書付之事

当村

一 私共義当村野山におゐてたばこの火籠末ニ仕、右火方

御役人中様

出火仕大火ニ罷成、村中芝荳山荳敷山焼申候ニ付、此

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

間 御奉行様江被召出段々被成御尋、小田原江御召

連御吟味被成候段被仰渡当<sup>(感力)</sup>迫仕罷在候処、各様初佐野

二七 天明三年二月九日 茶畑村出火者始末口上書

村・公文名村御役人中御越被成御断ニ而、右小田原江

御尋ニ付口上書ヲ以申上候

御召出シ之義漸御願下ケ被下難有奉存候、右ニ付又候

一去ル三日当村内林出火之儀、其方女房忤不調法之段五

御尋被成候者右不調法之義私共四人一同ニ仕置筋受申

人組ヲ以申出候ニ付、早速押込申付置候、弥々相違無

候哉、又者中間吟味致候上ニ而申出候哉ニ被仰聞候、

之候哉、猶又今ばん呼出候間、逸々申上べくと御尋被

右不調法之義私共四人一同被仰付可被下候、万事御取

遊候

成故、物事軽く相濟難有奉存候、後日為念仍如件

此儀私女房并忤たき木取ニ参り、煙草ノ火籠末ニ仕、

安永八<sup>(マ)</sup>庚子年二月六日

内林四五ヶ所焼払候ニ付、村内の衆中ハ不及申上他

茶畑村之内中尾組

磯右衛門<sup>㊦</sup>

村役人衆中様

所迄大勢罷出漸ニ相防ギ、大切之茹敷場等相助ケ候程の儀ニ御座候ニ付、此段不調法至極一言之申訳無御座候、依之御仕置押込被仰付急度相守リ罷有リ候、猶又今晚私并五人組之者迄不残被召出、御尋被遊候処、先達方五人ヲ以申上ゲ通私女房忤不調法ニシモ相違無御座候

右磯右衛門女房子共、不調法之儀私共迄御尋之所、磯右衛門申上候通少も相違無御座候、磯右衛門儀御定式通御仕置ニ茂可被仰付候所、十五歳方下の子共殊ニ心得

一左候得ハ其方女房忤不調法ニ相極リ候上者、村内定法之通過料錢壹貫五百文取立可申候得共、此度之所ハ女并十五方下の子共之儀故、<sup>(供)</sup>格別之用捨ヲ以右過料之所ハ人足ニ而追々三拾人差出候様申付候段被仰付候

通りニ而御済シ被下、五人之者迄一同難有仕合奉存候、此上磯右衛門女房子共ハ不及申上、其外組内之者子共

等迄、右躰不調法無御座様ニ諸事急度相慎可申候、為後日五人組奥印仕差上申候、以上

天明三卯年二月九日

五人組

此儀格別之以用捨ヲ以被仰付候段難有仕合存候、人足之儀何時ニ而も被仰付次第何ニ而も急度罷出可申候、此上右躰之儀ハ不及申上、何事ニよらず不調法等無御座候様ニ、私并女房子共迄ニ急度相慎候様ニ可仕候、以上

清三郎<sup>㊦</sup>

天明三卯年二月九日

喜右衛門<sup>㊦</sup>

松右衛門<sup>㊦</sup>

村御役人衆中様

- 仁右衛門印
- 孫 七印
- 六右衛門印
- 平 七印
- 七郎兵衛印

(沼津市 柏木正男氏所藏)

二六 (二七八八) 天明八年九月 茶畑村願称寺住職博奕託状

一札

一博奕賭之諸勝負前々々御法度之所ニ猶又嚴敷被仰出有之候ニ付、当春村役人中方も御法度之趣御申聞られ候処、拙僧義右御法度之趣致忘却、博奕并宿を致し候儀御役方江相聞へ一言之申訳無御座候、依之此度弥御支配江御届ケ可被成旨御申被聞、左候而ハ当寺ニ住居相成不申難儀至極ニ付、此上博奕并宿其外賭之諸勝負決而仕間敷候間、何卒各々方村役人中江御託被成、此度

之義者内分ニ而御濟シ被下候様ニ頼入候、右申候通り此上博奕ケ間敷義少シも仕間敷候、其外何事ニ不寄諸事共急度相慎可申候、為其一札差出シ申候、以上  
天明八戊申九月

願称寺印

新左衛門殿

三郎兵衛殿

太郎左衛門殿

弥 七殿

惣旦方中

右願称寺被申候通り相違無御座候ニ付、私シ共此上之処急度引請博奕ケ間敷義ハ不及申ニ、其外何事ニ不寄急度相慎被申候様ニ可仕候間、何卒此度之義御注進之所御免可被下候、是迄度々御役方ニ而も御内々御利害被仰、殊更当春別而從 御公儀様御法度之趣逸々御申聞之所忘却被致候上、此度ハ何分御捨置難被成所、私共御訴訟申上候ニ付、村御役人中御取成シを以漸々

御内分ニ而私共ニ御任セ被下候上者、向後少分之事ニ而も博奕ケ間敷義急度被相慎候様ニ私共急度請負可申候、万一此上少々ニ而も博奕ケ間敷儀有之趣相聞江候ハ、私共早速立会、直々退院被致候様ニ可仕候、万一等閑ニ仕候而此上不埒之趣御座候ハ、御上様江被仰上、私共迄如何様之御仕置被仰付候共少シも申分無御座候、為後日受負奥印仕差出申候、以上

天明八戊申九月

茶畑村

新左衛門<sup>④</sup>

三郎兵衛<sup>④</sup>

太郎左衛門<sup>④</sup>

弥<sup>④</sup> 七<sup>④</sup>

茶畑村

御役人中様

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

二九 <sup>(八五)</sup> 文政八年六月 箱根宿の者深良村山内不法薪刈取

一件につき訴状

<sup>(端裏書・朱筆)</sup>

「文政八酉年箱根宿夕村内山へ入込候ニ付願書并ニ同宿

夕差入書」

乍恐以書付奉願上候

一 此度箱根宿与私共争論ニおよひ候一件乍恐左ニ奉申上候、箱根宿之者共近年我儘ニ深良村山内江入込、夥鋪薪伐取乗船式艘宛ニ積入日々通舟仕候ニ付、五月九日湖水見廻り之節水門口ニおゐて薪積入候を差留メ、如何之訳ニ而他国他領之山江入込猥ニ伐荒し候哉之旨相尋候処、相手者大勢ニて殊ニ強氣之もの共却而悪口雜言いたし、中々聞入不申ニ付、其儘罷歸り申候、然ル処右山之儀ニ付先達而箱根宿問屋方江罷出、右之段相届ケ申候節下役中答候者、慥成証拠ニ而茂有之哉、なた・かま之類ヲ取候杯ニ而者証拠ニ者不相成、入込候者を捕置候欵急度いたし候証拠ヲ以可被相届ケ旨挨拶

被致候ニ付、無是悲立歸り相談仕様子を窺候処、日々三拾人程宛ニて入込申候ニ付、当月七日小前式拾人召連登山いたし候処、如案伐居候ニ付永藏・忠兵衛・清八右三人引捕候内、散々ニ逃出シ湖水門口江繫置候式艘之内最早壹艘者飛乗漕出シ候ヲ見附候処、十五六才計り之若輩者ニ御座候故其儘差置、残り壹艘者其場ニ而打潰候処流出候而者証拠ニ不相成候故、増繩ヲ付沈置外ニなた拾六枚預り置申候、且又湖水門口之儀者下御厨井組式拾九ヶ村用水路ニ而、是迄度々 御公儀様江御願申上御普請被成下置候御場所ニ御座候処、右盗人船日々ニ参り両袖石垣之鼻ヲ取崩シ湊口同前ニ拵夫方薪ヲ積入其外種々徒等いたし用水引方之障りニ相成、井組水配人共茂難儀致居候筋ニ御座候、全躰湖水見廻り之儀者安永年中 御定年番様方深良村江被 仰付罷在候得者井組方不被頼とも見廻可致之処、尚又井組方相頼候故心附居候時節ニ御座候処、日々通船いたし湖水門箱上ヲ踏荒シ水門袖笠木ヲ薪割台ニいたし、

水門大戸江大石ヲ押掛、戸ヲ逆様ニ指置申候、中々外方参りヶ様儀可致筋無御座不屈至極之致方ニ御座候、此儀者乍恐御見分被為成被下候ハ、明白ニ相分り申候、右様不当之働いたし山内ヲ伐被荒、用水引方等之障ニ相成百性大難儀仕候ニ付、無拠不奉顧恐茂奉出訴候、何卒以 御慈悲盜伐致候もの御召出逸々御吟味被成下置、自今以後右躰不屈之儀不仕候様被 仰付被下置候ハ、一同難有仕合奉存候、猶御尋之儀者口上を以可奉申上候、以上

文政八乙酉年六月

稲葉金之丞知行所

駿州駿東郡深良村

名主 仲 藏<sup>㊦</sup>

組頭 清左衛門<sup>㊧</sup>

大久保加賀守様

御役人中様

(裾野市役所深良支所所藏)

三〇 (八二五)  
文政八年八月 箱根宿の者深良村山内不法薪刈取

一件託状

前書之通拙者共立合取扱熟談仕候処相違無御座候、以上

差出申一札之事

岩波村

名主

伴

吉印

一 此度其御村方山内江当宿之者共入込新伐取り被差留候  
ニ付、預御差答ニ此儀心得違ニ而御座候間、以来之儀  
者入込中間敷候、尤峰境野久路通り之儀者枯木落枝を  
取用仕度段御承知之上、向後猥ケ間敷儀決而為致中間  
敷候、猶又湖水表水門御普請所之儀者大切之御場所ニ  
付、以来何事ニ不限差障り無之様ニ小前之者共江急度  
可申付候、為後日一札差出申候、仍而如件  
文政八乙酉年八月

箱根宿小田原町

問屋格 戸 兵 衛印

問屋 佐五右衛門印

深良村

御役人中

神山村

名主

八左衛門印

三嶋宿

問屋代

庄左衛門印

徳倉村

名主

孫 七印

川原谷村

名主

嘉左衛門印

(裾野市役所深良支所所蔵)

第二節 村の經濟

1 村入用

三三 (二七〇一)  
元禄一四年一二月 御宿村諸役諸入用割帳(横)

(表紙)

元禄十四年	御宿村
駿東郡御宿村巳年諸役諸入用割帳	名主 平二郎
巳十二月	此主 源左衛門

(表紙裏)  
「此主源左衛門」

巳年御宿村諸役諸入用割

- 一米壹石四斗 定使給
- 一米壹石六斗 同給
- 一米三斗八升 御蔵番給
- 一米式斗八升 升取給
- 一米七斗六升 組頭給
- 一米四斗九升八合 御六尺給
- 一錢拾四貫三百五十文 駿府御城米納入用
- 一同拾三貫七百四十八文 津出駄賃諸入用
- 一同壹貫六百八十六文 三分一納諸入用
- 巳ノ正月六月六月迄分 沼津御陣屋水夫給
- 一同三百三十九文 両堰入用
- 一人足三百四拾九人 耆人ニ付七十文ツ、
- 代廿五貫四百四十六文 かこ竹
- 一錢貳貫五十文兩堰 三けん木 入用
- 一人足三十人 しるし杭
- 代壹貫五百文 御巡見様御泊所 掃除入用

一 錢三貫七百四十式文

同入用

一 三貫七百四十五文

箱根掘抜入用

一同式百九十四文

なわ竹すゝき入用

内百七十文水門戸入用 春中割出ス分入

一同老貫八百七十四文

村中大道橋木入用

一 錢四貫五十五文 一百石壹分

江戸御藏前入用

一同式貫五百文

郷御藏入用

一同四貫五十五文

南都大仏堂勸化

但修覆なわ竹かや人足賃共

右之寄

一同式貫四百六十文

御高札場立替入用

米ノ三石三斗壹升八合

但新敷仕立入用大工人足共

此わり高三百四十七石ニ割

竹木板釘

但名主役領高引

一人足四拾壹人

御検見之節入用

高老石ニ付九合五夕六オツ、

代式貫四十八文

一 馬八疋

村次伝馬

麦ノ老石六斗

代八百文

此わり

一 式百四十八文

御六尺雇賃

本百姓老軒ニ付六升ツ、

御代官様御検見之節

小百姓老軒ニ付三升ツ、

一 五貫六百七十式文

沼津宿払

水吞百姓老軒ニ付壹升ツ、

是ハ名主組頭御用ニ付度々沼津へ参道用宿賃共

但上ノ原ニ居申水吞ハ除

一 三貫八百五十文

諸帳紙墨筆代

錢ノ九拾四貫五百弍文

内

廿八貫九十弍文

御城米諸入用

巳十二月

壹表ニ付百拾四文壹分ツ、

元禄十四年

三貫七百四十五文

箱根水掛

畑田成

壹反ニ付廿九文八分八リンツ、

八貫百十四文

江戸御蔵前入用  
大仏堂勸化

惣高三百八十六石四斗五升ニ割

高壹石ニ付廿文壹分五リン七毛ツ、

五拾四貫五百三十七文

名主役領高引  
残高三百四十七石ニ割

高壹石ニ付百五十四文八分八リンツ、

右之通巳之年村中諸入用并出人足賃共ニ銘細割合名主百

姓中ケ間少も出入無御座候、此外何ニても割合出シ不申

候、為後日村中大小百姓出作人共ニ連判仕指上ケ申候、

以上

元禄十四年

駿東郡御宿村

名主 平二郎

組頭 甚兵衛

同 字平次

弥十郎

彦十郎

伊兵衛

庄左衛門

八郎兵衛

庄九郎

善兵衛

平八郎

奥之助

平三郎

弥平次

源兵衛

三郎兵衛<sup>印</sup>  
平兵衛<sup>印</sup>  
兵左衛門<sup>印</sup>  
三右衛門<sup>印</sup>  
平左衛門<sup>印</sup>  
銀右衛門<sup>印</sup>  
作之丞<sup>印</sup>  
祖左衛門<sup>印</sup>  
彦四郎<sup>印</sup>  
市左衛門<sup>印</sup>  
傳四郎<sup>印</sup>  
平四郎<sup>印</sup>  
権右衛門<sup>印</sup>  
権左衛門<sup>印</sup>  
三十郎<sup>印</sup>  
五郎兵衛<sup>印</sup>  
忠三郎<sup>印</sup>

五右衛門<sup>印</sup>  
源二郎<sup>印</sup>  
文左衛門<sup>印</sup>  
新六郎<sup>印</sup>  
九右衛門<sup>印</sup>  
九左衛門<sup>印</sup>  
長兵衛<sup>印</sup>  
与四右衛門<sup>印</sup>  
傳三郎<sup>印</sup>  
甚三郎<sup>印</sup>  
半三郎<sup>印</sup>  
久七郎<sup>印</sup>  
兵右衛門<sup>印</sup>  
傳七郎<sup>印</sup>  
忠右衛門<sup>印</sup>  
弥左衛門<sup>印</sup>  
長五郎<sup>印</sup>

新兵衛印

徳右衛門印

太右衛門印

八右衛門印

茂兵衛印

太兵衛印

兵三郎印

甚太郎印

四 伊左衛門印

五 伊兵衛印

六 善兵衛印

七 徳右衛門印

三 普明寺印

御宿前印 庄印

同印 同印 向印 西寺印

(裾野市御宿 湯山芳健氏所蔵)

三三 (八五三) 嘉永六年六月二日 茶畑村村入金借用覚

覚

一金拾兩也

右者村入用ニ付貴殿江御無心申候処実正ニ御座候、尤返  
濟之義者十一月晦日壹割五分之利足ヲ以急度皆濟仕候、  
為後日仍而如件

嘉永六丑年六月廿一日

茶畑村

借主 甚太郎印

証人 伊左衛門印

富沢村

用助殿

〔奥書〕

上 証文一通

茶畑村 甚太郎

(裾野市富沢 服部鈴子氏所蔵)

三三 (二八五四)  
嘉永七年正月 富沢村村入用控帳(横)

(表紙)

嘉永七年
寅年村入用控帳
正月
富沢村名主

二月十八日  
一四十八文

二月廿九日  
一六百五拾文

三月  
一金貳兩壹分

廿五日  
一金貳朱

廿八日  
一九百文

内六百三十式文預り渡ス

四月十八日  
一錢四八百文

同日  
一式十七文

同日  
一壹兩貳分

正月十一日  
一金貳分

相州  
曾我  
城前寺

座頭仕切

異国船掛り

下田立  
人足江渡ス

不動様  
神酒代

異国船ニ付  
人足江かし  
金三分式朱四月分

川奈行  
式朱利式月分

川押渡入用

郷筒柴江  
かし

勝五郎

源助

嘉六

割渡

一金貳朱ト

七貫百五十七文

一式百文

一式百文

銘細書

丑年役割帳アリ

郷宿年玉

十分所年玉  
村入帳

二月十八日  
一四十八文

二月廿九日  
一六百五拾文

三月  
一金貳兩壹分

廿五日  
一金貳朱

廿八日  
一九百文

内六百三十式文預り渡ス

四月十八日  
一錢四八百文

同日  
一式十七文

同日  
一壹兩貳分

正月十一日  
一金貳分

此貳束 助左衛門

壹束 甚藏

三束 庄右衛門

拾壹束

六月廿七日  
一式百文

壹束 勝五郎

壹束 源助

三束 嘉六

周防様浪人  
かん化

第2節 村の経済

同月三十日 一 金貳朱ト  
 同日 四百七拾貳文  
 同月 一百文  
 七月 七貫八百五拾三文  
 一 金三分ト  
 同 錢六百五拾八文  
 同 一百文  
 同 金壹分貳朱ト  
 七月廿日 六百貳文  
 同 一百文  
 一 七百七十八文  
 閏七月十一日 一 金壹分  
 同 十九日 同貳朱  
 内貳百三十貳文預り  
 閏七月廿一日 一百七十貳文  
 閏七月 四百文  
 九月廿八日 一 壹貫六百十九文  
 十月十日 一 酒百文

さの堰掛り  
 伏見村江渡ス

奥印寺賄

組合割

貳百文定使飯料

普光寺  
 乞食飯料

郷宿雑用

愛鷹様  
 御はつ穂

さの堰一条  
 再割掛り

浪人仕切料

風祭り  
 酒代

殿様御迎  
 下石田飯料  
 新宿座頭  
 万人後  
 駿府賃錢  
 納米金渡ス  
 御林見分

貳百文肴代

十一月十二日 (マ)

十一月十五日

一 七百拾貳文

一 一百四十文

一 三文

一 貳文

一 (マ)

源左衛門可参候事

七人様出役

潰家御見分  
 御三人昼喰

御奉行  
 御賄掛り

殿様御見送り  
 御見廻り飯料

領所  
 所払

過錢  
 久ほ同断

郷宿  
 類焼見舞

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所藏)

2 村の諸負担

三三 万治元年二月二五日 茶畑村炭十分一税受取手

形

請取申炭拾分一之事

代物貳百四拾文 但百拾六表出也

右之分礎ニ請取申所実正也、為後日一札仍如件

万治元年 戊ノ閏極月廿五日 森 五右衛門<sup>㊦</sup>

藤枝庄左衛門

茶畑村

名主 甚右衛門殿

同 八左衛門殿

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

三五 元禄七年七月二二日 小田原藩領村々柿洪代上納

覚

柿洪代御上納仕候覚

一 錢壹貫百四拾八文 三拾貳文

一 同百拾六文

一 百文

一 同三百四拾八文

一 同八百六拾四文

一 同貳百文

一 同五百文

一 同四百八拾文

一 同九百四拾八文

一 四貫七拾六文 文

此金三步錢九百四拾八文

右ハ当年分柿洪代指上ケ申候、以上

元禄七年

茶畑村

戊七月廿一日

名主 甚右衛門<sup>㊦</sup>

(後 欠)

第2節 村の經濟

〔表書〕  
茶畑村

名主 甚右衛門殿

(沼津市 柏木正男氏所藏)

三六 宝曆七年一二月 小田原藩領村々借用金出入雜用

帳(横)

(表紙)

宝曆七丁丑年	駿州拾六ヶ村
御借用金出入子丑兩年雜用帳	
十二月	

此泊錢百拾六貫百文

壹人百五拾文ツ、

右同断四拾三人分  
一人数七百七拾四人

此昼遣錢七拾七貫四百文

壹人二百文ツ、

同廿八日晚夕同十二月廿三日夜迄  
一人数四百拾六人 拾六人分

此泊錢六拾貳貫四百文

壹人二百五拾文ツ、

右同断拾六人分  
一人数四百拾六人

此昼遣錢四拾壹貫六百文

〆四百廿五貫七百九文

此金百五兩錢四百五拾九文

但シ錢直四貫五拾文かへ

此訳

金廿九兩 小田原御役所様ニ而御渡シ被遊候

覚

閏十一月廿八日小田原出立  
一錢百廿八貫貳百九文

人数五拾九人分本馬五拾九疋分

同廿八日晚夕十二月十五日夜迄、但シ十六日ニ小田原着  
一人数七百七拾四人 四拾三人分

同廿 兩 江戸御上屋敷様ニ而御渡シ被遊候

残五拾六兩錢四百五拾九文

右者子ノ聞十一月廿八日小田原出立仕、同十二月廿三日

小田原着仕候

御切金納

右者丑正月廿九日ニ小田原出立仕、同二月八日小田原着

仕候

覚

小田原江戸迄本馬拾六足分

一錢三拾四貫七百六拾六文

丑ノ正月廿九日同二月七日迄拾六人分  
一人數百四拾四人

此泊錢廿壹貫六百元

一人數百四拾四人

此昼遣錢拾四貫四百分

ノ七拾貫七百六拾六文

此金拾六兩三分錢四百拾八文

此訊 錢四貫貳百文かへ

金拾貳兩 小田原御役所様ニ而御渡シ被遊候

残四兩三分錢四百拾八文

覚

小田原江戸迄本馬拾六足分

一錢三拾四貫七百六拾六文

丑三月十七日同廿四日迄  
一人數百拾貳人

此泊錢拾六貫八百元 壹人ニ百五拾文ツ、

一人數百拾貳人

此昼遣拾貳貫貳百文 壹人ニ百文ツ、

ノ六拾三貫七百六拾六文

此金拾五兩錢七百六拾六文

此訊 錢四貫貳百文替

金拾貳兩小田原ニ而御渡シ被遊候

残三兩錢七百六拾六文

右者御切金納三月十七日小田原出立、同廿四日ニ小田原

着仕候

覺

小田原江戶迄本馬六足分  
一 錢拾三貫三拾七文 六人分

四月晦日同五月十一日迄酒匂川支  
一人數六拾六人 六人小田原逗留

此泊錢六貫六百元

一人數六拾六人

此屋遣錢四貫九百四拾八文 壹人ニ七拾貳文ツ、

五月十一日同廿三日迄  
一人數七拾貳人

此泊錢拾貫八百文 壹人ニ百五拾人ツ、

日數右同斷  
一人數七拾貳人

此屋遣錢七貫貳百文 壹人ニ百文ツ、

小田原江戶迄本馬貳足分  
一 錢四貫三百四拾貳文 貳人分

水窪村組頭半右衛門

公文名村組頭平七

五月廿一日之御指紙金主方右相附ケ候ニ付、右惣代之者江  
持參仕相渡候

五月十九日小田原出立、同廿三日小田原着  
一人數拾人

此泊錢壹貫五百文 壹人ニ百五拾文ツ、

日數右同斷  
一人數拾人

此屋遣錢壹貫文

四拾九貫四百三拾壹文

此金拾壹兩三分錢七拾九文

此訊 錢四貫貳百文買

金四兩貳分小田原御役所様ニ而請取

同四兩江戶御上屋敷様ニ而請取

同壹兩貳分小田原御役所様ニ□□□□水窪半右衛門方

公文名平七被下置

殘壹兩三分錢七拾九文

右者御切金納五月十一日小田原出立仕、同五月廿三日小

田原着仕、勿論川支ニ而小田原ニ永逗留仕、六人之者難  
義仕候、御勘弁奉願上候、農行之砌ニ付申上候、以上

覚

小田原江戶迄本馬六疋分  
一 錢拾三貫三拾七文

七月廿九日小田原出立八月七日  
一 人数四拾貳人 小田原着六人

此泊錢六貫三百八文 忝人ニ百五拾文ツ、

日数右同断  
一 人数四拾貳人

此昼遣錢四貫貳百文 忝人ニ百文ツ、

ノ式拾三貫五百四拾五文

此金五兩壹分錢九百六拾九文

此訊 錢四貫三百文買

金四兩貳分 小田原御役所様ニ而請取

殘三分錢九百六拾九文

右者七月廿九日小田原出立仕、同八月七日ニ小田原着仕

候

覚

小田原江戶迄本馬六疋分  
一 錢拾三貫三拾七文 六人分

九月朔日小田原出立、同九日小田原着  
一 人数五拾四人

此泊錢八貫百文 忝人ニ百五拾文ツ、

日数右同断  
一 人数五拾四人

此昼遣錢五貫四百文 忝人ニ百文ツ、

ノ式拾六貫五百三拾七文

此金六兩錢壹貫三拾七文

此訊 錢直四貫貳百五拾文

金四兩貳分小田原御役所様ニ而請取

殘兩貳分錢壹貫三拾七文

右者九月朔日小田原出立仕、同九日小田原着仕候

覚

小田原江戶迄本馬六疋分  
一 錢拾三貫三拾七文 六人分

十月十七日小田原出立 同廿四日小田原着  
一人数四拾八人

此泊錢七貫貳百文 壹人ニ百五拾文ツ、

日数右同断  
一人数四拾八文

此扨遣錢四貫八百文 壹人ニ百文ツ、

ノ貳拾五貫三拾七文

此金五兩三分錢八百八拾七文

此訳 錢直四貫貳百文

金四兩貳分小田原御役所様ニ而請取

残壹兩壹分錢八百八拾五文

右者十月十七日小田原出立任、同廿四日ニ小田原着仕候

覺

小田原ノ江戸迄本馬六疋分  
一錢拾三貫三拾七文 六人分

十二月十七日ノ同廿三日迄  
一人数四拾貳人

此泊錢六貫三百文 壹人ニ百五拾文ツ、

日数右同断  
一人数四拾貳人

此扨遣錢四貫貳百文 壹人ニ百文ツ、

ノ貳拾三貫五百三拾七文

此金五兩貳分錢九百八拾五文

此訳 錢直四貫百文

金四兩貳分小田原御役所様ニ而請取

残壹兩錢九百八拾五文

右者十二月十七日小田原出立任、同廿三日ニ小田原着仕

候

雜用

惣ノ百七拾壹兩錢五貫六百拾八文

内

金百壹兩頂戴仕候

残七拾兩錢五貫六百拾八文

右者去子ノ年御借用金出入并当年御切金納江戸入用仕

用帳差上申候、勿論遣方等右御用ニ付外入用相掛り申候  
得共、小田原御表を江戸御表迄之入用計書上申候、以上

宝曆七年

丑十二月

増田村

名主 庄右衛門 印

中丸村

組頭 太左衛門 印

大堰村

組頭 伊左衛門 印

塚原村

名主 重右衛門 印

神山村

名主 与太郎 印

同 半右衛門 印

岩波村

組頭 文 内 印

石脇村

組頭 半右衛門 印

佐野村

組頭 利兵衛 印

公文名村

組頭 傳右衛門 印

茶畑村

名主 文次郎 印

麦塚村

名主 与惣次 印

伊豆嶋田

名主 次郎八 印

水窪村

名主 与右衛門 印

上土狩村

名主 藤三郎<sup>㊦</sup>

石脇村

佐野村<sup>一</sup>

下土狩村

名主 九左衛門<sup>㊦</sup>

奉借請御金手形之事

合金<sup>㊦</sup><sup>㊦</sup><sup>㊦</sup>三百兩者

但シ文字金也

同 平左衛門<sup>㊦</sup>

竹原村

名主 与兵衛<sup>㊦</sup>

中山七郎兵衛様

谷川祖左衛門様

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

三七 明和六年一二二月<sup>(二七六九)</sup>

小田原藩領四力村駿府町奉行所

御貸付金借用手形

〔端裏書〕  
丑十二月金三百兩 一年切

大久保直次郎領分

神山村

岩波村

右是者駿府町御奉行所様御金之内、此度奉願年壹割五分之利付を以奉借請候処実正ニ御座候、右御上納爲質物私共控田地大久保直次郎領分之内駿州駿東郡神山村・岩波村・石脇村・佐野村・公文名村高辻之内本田高合テ六百壹石九斗壹升八合、御檢地帳之通反畝歩所附石高名主組頭立合吟味之上別帳写判形仕差上置候、尤外江書入質物等ニ相渡置候義ハ無御座候、則大久保直次郎江相願役人添状申請差上置申候御事

一 右御金当丑暮方来ル寅暮迄御貸附被 仰付候ニ付、来ル暮ニ至リ元利金急度皆上納可仕候、若本人如何様之異変出来仕候共元利金都合仕証人共方急度上納可仕候、万一上納相滞右質田地御取上ケ御私被仰付候節ハ、所

質入直段を以何時ニ而も村方江質請元利御金高急度上納可仕候、其節少茂違背申間鋪候、且又本人名替又者異変之義茂御座候ハ、其節証人共々早々御訴可申上候御事

一右御金之義自分入用ニ付奉借請候上者、御金之名目を以余人江貸渡候義一切仕間鋪候、若シ他江貸附返濟滞候旨御願申上候共、御取上ケ不被遊候段被 仰渡奉畏候御事

右之通少茂相違無御座候、若不埒之義御座候ハ、本人者不及申上ル請人加判之者迄何様之曲事ニ茂可被 仰付候、為其本人証人何れ茂連判差上ケ申候所仍而如件

明和六年丑十二月

大久保直次郎領分

駿州駿東郡神山村 名主 半右衛門 ㊦

同断 権左衛門 ㊦

組頭 佐次右衛門 ㊦

百姓代 重左衛門 ㊦

岩波村 組頭 忠右衛門 ㊦

同断 弥太郎 ㊦

百姓代 忠左衛門 ㊦

石脇村 組頭 甚右衛門 ㊦

同断 半右衛門 ㊦

百姓代 利右衛門 ㊦

佐野村 組頭 利兵衛 ㊦

同断 幾左衛門 ㊦

同断 源右衛門 ㊦

百姓代 仁平治 ㊦

公文名村 組頭 重左衛門 ㊦

同断 四郎左衛門 ㊦

同断 兵左衛門 ㊦

百姓代 弥平治 ㊦

中坊左近様御組御与力

大谷木仙右衛門殿

力石萩之進殿

大森常右衛門殿

(裾野市佐野 佐野区有文書)

三六 弘化三年一二月 沿津藩江戸屋敷御小人奉公人請

状

御小人御奉公請取証文之事

一此伝七と申者慥成ものニ御座候ニ付、其御村方江戸御屋敷御小人御抱人ニ差出し、当十二月来十二月一ヶ年相定、御給金三兩三分三朱内金式兩三分三朱只今慥ニ受取申候、残金三歩ハ江戶御屋敷様ニ被下候由承知仕候、然ル上者御奉公之儀者昼夜被仰付次第御屋敷様御家風之通急度相勤大切ニ可仕候、万一長煩欠落等仕候ハ、早速尋出人代成共御給金成共御上様御差図次第差上可申候、御大切之御奉公ニ候へ者、其外何様之儀御座候共、其御村方江少茂御苦勞相掛ケ申間敷候、為後日仍而如件

弘化三年十二月

水窪村

前書之通相違無御座候、以上

人主 傳 七印

証人 甚 藏印

名主 治三郎印

富沢村

御名主 嘉六郎殿

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所藏)

三九 喜永四年一月 入牢者賄方につき富沢村請書

(表紙)

嘉永四亥年

十一月

御請印差上帳

駿州駿東郡

富沢村

申達

在町之ものニ而入牢被 仰付候節、御初年以来扶持方者  
 下方より焚出し取賄候之処、寛政度以 思召従上御賄雑  
 用等も被下置候、然ル処今度御取調之上以前之通在町よ  
 り仕出し方可致旨旧復被仰付候

右之通被仰出候間、以来村々ニ而入牢被仰付候ものは親  
 類身寄之ものニ而取賄、且親類身寄等も無之者は村方ニ  
 而仕出し候儀ニ付、向後小前末々迄も心得違無之万事貞  
 実ニ農業等は勿論家業等相励候様申付、平常も無油断取  
 締致一切悪事等無之可申付候、万一心得違之もの有之候  
 ハ、精々致教諭改心致し、正路ニ家業致し候様可申付候  
 但無宿之ものは是迄之通

亥十月

右之趣承知奉畏候、依之御請印形差上申処、仍而如件

駿州駿東郡

嘉永四亥年

富沢村

十一月

米 藏

小前 助右衛門

留 藏  
 礼 藏  
 儀右衛門  
 徳 藏  
 久左衛門  
 太郎兵衛  
 祐次郎  
 為 藏  
 伊左衛門  
 兵右衛門  
 庄右衛門  
 儀兵衛  
 要助  
 繁左衛門  
 朴 斎  
 幸 崎  
 きよ

沼津

平次郎	庄太郎	新右衛門	定八	勝五郎	源助	傳左衛門	小三郎	勝左衛門	安左衛門	清左衛門	金蔵	喜助	甚蔵	清蔵	文助	太七
-----	-----	------	----	-----	----	------	-----	------	------	------	----	----	----	----	----	----

御役所

右村

百姓代

組頭

同

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所蔵)

三〇  
(二八六〇)  
 安政七年二月五日 葛山村村内暮方並に内借金高

書出帳(横)

(表紙)

<p>安政七甲年 駿東郡葛山村          村方暮方并ニ内借等取締書出帳          二月五日 名主 芹沢勢吾朗</p>
--

覚

一上	一上
源右衛門	儀平

一上  
一上

是  
方  
中  
之  
人

一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
 〇嘉兵衛  
 〇甚兵衛  
 茂右衛門  
 〇弥平治  
 治左衛門  
 義左衛門  
 林右衛門  
 〇直平  
 嘉右衛門  
 源右衛門  
 由右衛門  
 〇太郎左衛門  
 利兵衛

是  
方  
下  
段

〃  
式  
拾  
七  
軒

一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
一  
 清兵衛  
 〇善五郎  
 良助  
 弥平  
 茂兵衛  
 仁兵衛  
 作平  
 金蔵  
 平七  
 仙助  
 久右衛門  
 喜兵衛  
 〇和助  
 〇弥吉

第2節 村の経済

				是ハ太兵衛ト先ニ有リ															
				△与右衛門															
常	彦	安	伊	平左衛門	周	△元	△角	佐	林	藤	吉	庄	德	甚	傳				
藏	治	藏	勢	介	介	吉	藏	吉	兵	吉	左	左	左	左	吉				
									衛	衛	衛	衛	衛	衛					
清	政	伊	四	勝	德	孫	圓	佐	仙	安	平	清	利	武	平				
藏	右	左	郎	平	藏	左	藏	右	右	平	右	右	右	右	吉				
	衛	衛	右			衛		衛	衛	衛	衛	衛	衛	衛					
	門	門	衛			門		門	門	門	門	門	門	門					

一	是方極難	一	同壹兩貳分	彦治郎
一	直治郎	一	同四兩也	常藏
一	菊右衛門	一	同拾三兩	茂右衛門
一	甚右衛門	一	同六兩三分	平吉
一	多兵衛	一	同六兩貳分	弥平治
一	与三治	一	同六兩也	武右衛門
一	吉藏	一	同壹兩三分	甚右衛門
一	政吉	一	同貳兩也	治左衛門
一	きく	一	同八兩	利右衛門
一	拾軒	一	同四兩壹歩	清藏
	吉祥院	一	同四拾九兩	儀左衛門
	明王寺	一	同八兩三分	平右衛門
	外村	一	同四兩	安平
	御役人衆中	一	同七兩貳分	林右衛門
		一	同拾八兩	直平
一	金百七拾兩	一	同四拾貳兩三分	儀平
一	同百貳拾兩	一	同三兩三分	仙右衛門
	甚平			
	嘉兵衛			

第2節 村の經濟

一同九兩貳分	佐右衛門	一同八兩	良助
一同三兩也	嘉右衛門	一同七兩	安藏
一同拾五兩	菊右衛門	一同六兩貳分	伊勢藏
一同貳拾五兩	源右衛門	一同貳拾兩貳分	平七
一同三兩	圓藏	一同四兩貳分	多兵衛
一同壹兩貳分	清藏	一同三兩	金藏
一同拾兩貳分	由右衛門	一同五拾三兩	周助
一同九兩貳分	太郎左衛門	一同八兩貳分	作平
一同貳兩	孫左衛門	一同貳兩三分	仁兵衛
一同貳拾兩	徳藏	一同貳兩三分	直治郎
一同五兩	利兵衛	一同六兩也	源右衛門
一同八兩	勝平	一同五兩壹分貳朱	茂兵衛
一同拾五兩貳分	清兵衛	一同三兩壹分	政右衛門
一同拾貳兩	四郎右衛門	一同壹兩貳分	元吉
一同拾三兩	伊左衛門	一同凡五兩余	弥兵衛
一同九拾三兩 貳分貳朱	善五郎	一同三兩貳分	角藏
		一同拾兩也	佐吉

第4章 村の政治と経済

一 同拾壹兩貳分	林 兵衛
一 同拾貳兩	藤 吉
外ニ五兩貳分年貢	
一 同三兩貳分	吉左衛門
外ニ五兩貳分年貢	
一 同六兩壹朱	庄左衛門
一 同八兩貳分壹朱	徳左衛門
一 同拾壹兩	弥 吉
一 同貳兩貳分貳朱	和 助
一 同四兩壹分	喜 平
一 同三兩也	政 吉
一 同貳兩貳分	き く
一 同五兩壹分	甚左衛門
一 同五兩三分	傳 吉
一 同拾八兩也	久右衛門
一 同五兩也	仙 助
一 同三兩貳朱	ち よ

惣

金九百八拾兩貳朱

一金四拾七兩

△吉

一金貳拾八兩

山印

一金貳拾兩

須山

一金拾五兩

竹中間  
入込勘定

一金五兩

仙年寺様

△金百拾五兩半改借用高

外ニ金拾五兩余三島甲州薬店

(裾野市葛山 芹澤哲哉氏所蔵)

三三 安政七年三月 葛山村上納金借用証文

(包紙)

上 金百貳拾兩印書壹通

葛山村

当申年御上納金借用申質地証文之事

一金百貳拾兩高

此質地、字本洞ニ而上八下ノ沢峯境大沢并くぶし

洞よりぬたの洞迄、大坂道下峯境

右者当申ノ御月並上納并御上向臨時上納金ニ差支、其時々貴殿江御無心申入借用仕度御願申上候処御承知被下、前書之質物高丈通帳ヲ以御渡可被下候様被 仰聞難有承服仕候、然上者月々御用達被下候分年々壹割五分之勘定を以利永差加へ、当申ノ御收納米を以來十一月晦日限り急度御返済可申候、其節貴殿江御苦勞決而相懸申間敷、為後日村役人連印証文、仍而如件

安政七庚申年

葛山村

三月

借主

名主 勢 吾 朗(印)

組頭 甚左衛門(印)

同 和 平(印)

同 八郎右衛門(印)

同 久左衛門(印)

百姓代 庄 七(印)

御宿村

同 惠

助(印)

湯山半七朗殿

(樞野市葛山 芹澤哲哉氏所感)

三三 (二八六) 文久元年二月 葛山村村方賄金借用証文

〔御宿村半七郎殿江遺控〕

借用申金子証文之事

一金貳百四拾六兩也 但し御通用金也

此質物

村方持分日向山不残書入置申候

高畑茅野一山不残書入置申候

返り尾茅野一山不残書入置申候

字向山金毘羅道方上書入置申候

字天王向林老ケ所書入置申候

質主

質主

北畑村

市左衛門

親類 惠

助

右者村方賄金ニ差支、村役人相談之上 貴殿江御無心  
申上候処、早速御聞濟被下書面之金高只今儘ニ請取申借  
用仕候処実正ニ御座候、御返濟之義者来ル戌ノ十一月限  
り壱割五分ノ利足差加へ御蔵米ヲ以而元利無相違返金可  
仕候、万一相滞候ハ、前書之質地売代かし候而茂元利之  
内貴殿江聊御損毛御苦勞相掛申間敷候、為後日質地主・  
村役人連印之一札、仍而如件

文久元年

葛山村借主

西十二月 日

名主 勢 吾 郎

組頭 甚左衛門

同 和 平

同 (同脱カ) 久左衛門

同 儀 平

同 百姓代 恵 助

同 直 平

御宿村

酒屋半七朗殿

(裾野市葛山 芹澤哲哉氏所蔵)

3 村の産業

一三三 (一六七三) 寛文一三年六月一六日 拾分一出し物、三島へ隠

通り間敷旨茶畑村百姓連

印手形

指上ヶ申手形之事

一 惣而御拾分一出し申物茶畑村方伊豆佐野村道三嶋へ隠  
通り間敷と年々手形仕置処ニ、何者か隠通り申候由ニ  
て伊豆嶋田村御番所方御詮議御座候間何れも迷惑仕候、  
自今以後何ニ而も御拾分一出し申者伊豆佐野道隠通り  
申候者、其者之儀ハ不及申ニ五人組其何様之曲事ニも  
可被仰付事

一 当村之者ハ不及申ニ何村之者ニ而も見出し次第荷物を  
おさへ早々名主方へ注進可仕候、若見のかし仕候者御  
座候者、其者尚又何様之曲事ニ可被仰付事

一何者ニ而も伊豆佐野道三嶋へ隠通り脇よりあらわれ申候者 御公儀様へ被仰上、何様之御仕置ニも可被仰付候、少も御うらみニ存間敷候為後日ノ手形仍如件

寛文十三年

丑ノ六月十六日

茶畑村惣百姓

市郎右衛門	助左衛門
喜兵衛	五郎兵衛
傳十郎	与右衛門
長右衛門	弥右衛門
伊左衛門	六左衛門
文右衛門	九郎右衛門
八兵衛	長左衛門
六左衛門	□郎左衛門
七郎左衛門	七兵衛
吉左衛門	甚左衛門
甚藏	次郎左衛門

新兵衛	□右衛門
太郎左衛門	三郎右衛門
藤左衛門	作左衛門
多右衛門	次五右衛門
半十郎	□右衛門
五兵衛	里兵衛
藤右衛門	三右衛門
半兵衛	茂兵衛
四郎右衛門	四郎左衛門
清右衛門	十兵衛
留兵衛	類左衛門
惣三郎	助兵衛
六左衛門	六郎左衛門
次郎兵衛	与三左衛門
又兵衛	□右衛門
作右衛門	八十郎
伝左衛門	仁左衛門

善左衛門 <sup>印</sup>	兵右衛門 <sup>印</sup>
弥 <sup>印</sup>	<sup>印</sup>
庄兵衛 <sup>印</sup>	庄右衛門 <sup>印</sup>
市郎兵衛 <sup>印</sup>	四郎兵衛 <sup>印</sup>
小左衛門 <sup>印</sup>	里右衛門 <sup>印</sup>
加兵衛 <sup>印</sup>	権左衛門 <sup>印</sup>
惣左衛門 <sup>印</sup>	次右衛門 <sup>印</sup>
忠兵衛 <sup>印</sup>	伊右衛門 <sup>印</sup>
七郎左衛門 <sup>印</sup>	傳右衛門 <sup>印</sup>
曾右衛門 <sup>印</sup>	五右衛門 <sup>印</sup>
徳左衛門 <sup>印</sup>	久兵衛 <sup>印</sup>
李左衛門 <sup>印</sup>	茂右衛門 <sup>印</sup>
類兵衛 <sup>印</sup>	李右衛門 <sup>印</sup>
覚右衛門 <sup>印</sup>	与左衛門 <sup>印</sup>
五左衛門 <sup>印</sup>	多兵衛 <sup>印</sup>
弥右衛門 <sup>印</sup>	佐右衛門 <sup>印</sup>
加右衛門 <sup>印</sup>	孫右衛門 <sup>印</sup>

八郎右衛門 <sup>印</sup>	惣右衛門 <sup>印</sup>
長左衛門 <sup>印</sup>	太郎右衛門 <sup>印</sup>
次郎右衛門 <sup>印</sup>	佐左衛門 <sup>印</sup>
又右衛門 <sup>印</sup>	与三兵衛 <sup>印</sup>
太右衛門 <sup>印</sup>	

甚右衛門殿  
八左衛門殿

(沼津市 柏木正男氏所藏)

三言<sup>(七三五)</sup> 享保二〇年一二月 小竹上方廻し分取り扱い、沼

津町人覚

覚

一 前々々小竹御百姓稼売被出候所、上方廻シ之分大坂心  
 齊橋馬喰町今津屋藤右衛門と申仁老人ニ而買候様ニ御  
 願相濟候ニ付、小竹代金之内式拾両此度相渡り候、此  
 金子之儀ハ来辰平小竹代金勘定ニ而相濟申筈ニ候、竹  
 之儀上中下三段直付受取中を当り之直段ニ而勘定被致

筈ニ候、尤以来者七月方正月迄山方沼津町江出竹ニ  
而凡金高式百兩程買取可被申由ニ候、押買等無之筈ニ  
候、我等当町ニ而右竹取働仕候ニ付如此ニ候、已上

享保二十年卯極月

沼津宿三枚橋町

竹世話人 長右衛門

同断 万右衛門

立合 伊左衛門

神山村

岩波村

大坂村

二子村

今里村

茶畑村

御名主衆中

神山村

半 六印

同所

半右衛門印

右之本書神山村ニ預置申候、已上

同月

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

三三 (二七四〇) 元文五年六月二三日 甲州往来商人荷物継送の口

銭取につき水窪村他三力村

訴訟熟談一札

差上申一札之事

一 駿州御厨領水窪外三ヶ村訴上候者、当村之者同国沼津  
豆州三嶋兩宿方甲府江之道筋ニ而往来商人荷物共継来、  
相对ニ而附通候分者口銭拾銭つゝ取之為附通、右之助  
力を以人馬役勤来候処、宝永年中砂降以後砂埋り之田  
畑を馬士共踏越脇道いたし附通候故、商人荷物者附送  
致中絶候処、当時者如元郡内領荷物数多当村々を往来  
いたし候故先例之通可継替候、附通之分口銭可取旨申

候得共、不差出我俣ニ附越候、既ニ去々年甲州川口村  
 と同国藤之木村五十集荷物出入之節、御厨領四ヶ村并  
 山中・上吉田被召呼尋ニ付、五十集荷物者口銭取為  
 附通候由申上候故、藤木江口銭取候様御裁許相濟并沼  
 津宿者人馬数多附出し口銭取候ニ付証拠のため右宿其  
 外山中・上吉田御吟味相願旨訴上之候

一 相手甲州郡内領山中・上吉田并ニ駿州沼津宿問屋答上  
 之候者、三ヶ所共ニ古来より馬継ニ而駿州須走より山  
 中江荷物引請上吉田江附通来候、商人荷物者相對之上  
 口銭拾文宛取之為附通候処、砂降以後者須走村ニ馬持  
 候者無之故山中并ニ近有(在)より須走江寄馬いたし、商人  
 荷物須走江請込、須走より山中江請取、郡内領村々江  
 附送来、近年脇道忍草通り勝手ニ継送り継場猥ニ相成  
 候ニ付、前々之通り山中より上吉田江継送り度旨申上  
 之、上吉田之義者山中申上候通り先々より馬継場書物  
 等致所持山中より請取、谷村江継候請取書も有之間、  
 前々之通り山中より上吉田江継送り候様ニ致し度旨申

上之、沼津問屋之儀者同宿商人売出し候諸荷物附出さ  
 せ候故、口銭取之候由申上之候

一 郡内領惣代上・下谷村・境村追訴申上候者、商人諸荷  
 物之儀沼津三島両宿より米穀諸荷物五十集類買取、手  
 馬之外者駿州萩蕪・中山・二子・沼田・駒門・大坂・  
 中清水七ヶ村より両宿江致寄セ馬置荷問屋より附出し、  
 御厨四ヶ村を附越須走まで継送り、須走江者山中并近  
 在之馬を呼置須走より郡内領江附込候得共、古来より  
 口銭出し候儀一切無之処、郡内領之諸荷物御厨領之者  
 共差押、新法ニ口銭可取旨申懸ケ去ル午ノ十一月以來  
 相滞間、前々之通口銭不差出附通り候相願旨申上之候  
 一 郡内領忍草村申上候者、当村之儀須走村へ寄セ馬いた  
 し荷物請取谷村へ附遣シ、山中之者附来候も請取谷村  
 江附送、繼人馬等差出来候、只今迄之通り馬継いたし  
 候様ニ相願旨申上之候

右出入被遂御吟味候処、訴訟方四ヶ村并山中・上吉田之

儀者沼津・三嶋より御用并諸士之往来外旅人荷物共ニ致馬繼候段無相違処、商人荷物ニ限り可附通様無之荷主共申分難立候、口錢之儀者去ル午ノ十月甲州川口村と同国藤木村及出入候砌、御厨領四ヶ村并山中・上吉田五十集荷物者口錢取候由申ニ付、藤木江口錢取候様ニ被仰付候旨証拠ニ右六ヶ村申立候得共、其御糺明之上証拠之書物者無之由申上候、然処滞無附通シ候ハ、口錢可出旨川口相願候故、脇道之儀ニ付其通ニ被仰渡候事ニ而、外之例ニ御取用可被成様無之六ヶ村申分難立ニ付、猶又手馬賃馬共ニ口錢取候証拠之由ニ而申立候、沼津・三嶋両宿江御尋被成候処、沼津宿者附出故口錢取候由申之、三嶋宿者甲州郡内其在方江附出候分者庭錢・口錢共取候儀無之、御厨領御殿場・矢倉沢・関本・竹之下四ヶ村者小田原より郡内江之道筋ニ而手馬之外附通候分者老駄ニ付式錢宛口錢取候由申之、区々ニ而何も証拠不慥御取用ひ難被成候、扱又郡内領商人荷物者沼津・三嶋之人馬ニ而者不繼送、御厨領萩蕪外六ヶ村より寄せ馬いたし須走

迄附通、須走より谷村江附送候処、向後右両宿より水窪・佐野江附送候様ニ成候而者纒之賃錢ニ而遠方より寄馬いたし候詮無之、寄せ馬七ヶ村之者共及困窮、沼津・三嶋・須走ニ而も宿馬無之間呼馬不致候而者可附送様無之旨雖申上、只今迄寄馬いたし候七ヶ村之儀者以来継場江申合雇馬ニ罷出候者格別寄馬之障り成候迎継場を猥リニ附越候様ニハ難成、三嶋・沼津・須走之儀も村方ニ馬無之候ハ、何れ之村に成共相對之上呼馬いたし可繼送儀ニ而七ヶ村之者共申通只今迄之仕癖ニまかせ可附通と申儀難立旨被仰聞御尤奉存候、且郡内領荷主惣代之者共前々より附通し来候旨申争候得共、御厨領四ヶ村并山中・上吉田両村共ニ御用人馬者勿論旅人諸荷物継来候段無紛処、商人荷物計不及相對ニ可繼通通例と心得候段只今迄之仕癖不埒ニ候、次ニ谷村最寄百ヶ村程有之、此分商人荷物者山中より忍草江懸り附送り候故向後上吉田江継送候而者廻道ニ而手間取候間、只今迄之忍草通り附送り候様ニ致度旨申上候得共、谷村江之御用人馬者上吉

田江継送り候所商人荷物計忍草通り外道いたし候而者上  
吉田馬継難相立旨申上、其上先年谷村江継送候書付等  
少々致所持前々ハ谷村之商人荷物上吉田ニ而継替候儀と  
相見候、然共谷村者田舎道之儀ニ候間忍草を掛候とて  
畢竟荷主勝手次第之儀ニ而敢不被及御沙汰候、扱又忍草

者継場と可致相對候、次ニ忍草より谷村通り商人荷物継  
場ニ定度旨忍草之者共雖申、忍草通り之儀者只今迄通來  
候例有之間荷主勝手次第候、都而此度出入協道之儀ニ付  
互ニ熟談之上以來相對いたし申合不及異論旨逸々被仰渡、  
双方承知奉畏候、為後証之連判一札差上申所仍如件

元文五庚申年六月十三日

之儀も山中より谷村江之馬継ニ定度旨雖申立、御用人馬  
者何れ之村ニ而も差出候儀通例ニ而馬継之証拠ニ者不相  
立、田舎道之儀ニ候得者継場可有之様無御座、山中・上

大久保出羽守領分

駿州駿東郡水窪村

吉田をも同様ニ心得候儀不埒ニ候、駄賃稼之儀者孰之継

名主 茂 惣 治

場江成共出馬いたし継場と相對之上賃錢可取者格別之旨

同郡佐野村

被仰聞御尤ニ奉存候 依之被仰渡候者、御厨四ヶ村、須

同 四郎左衛門

走・山中・上吉田三ヶ村共ニ前々より諸荷物継來候段無

同郡神山村

紛間、以來商人荷物も可継送候、口錢之儀雖申立無証拠

同 太郎左衛門

ニ付不被及御沙汰候、然共荷主勝手任せ附通五十集鮮魚

同郡茱萸沢村

之類口錢取候儀者可為相對次第候、沼津・三嶋・須走

同 彦右衛門

三ヶ所ニ者馬無之由ニ付近村相對之上呼馬を以可継送候、

只今迄寄馬いたし候萩蕪外六ヶ村并忍草村共ニ致出馬儀

齊藤喜六郎代官所

荷宿 平 六

甲州都留郡内領山中村

齊藤喜六郎御代官所

名主 傳右衛門

同郡沼津宿

相手

同郡同領上吉田村

荷問屋 金兵衛

同 左 膳

同人御代官所

同人御代官所

駿州駿東郡沼津宿

甲州郡内領忍草村

問屋 十郎左衛門

追訴

名主代 兵右衛門

同断

十右衛門

百姓代 庄右衛門

同人御代官所

同人御代官所

豆州君沢郡三嶋宿

同国郡内領惣代

荷問屋 弥兵衛

上谷村

太郎左衛門

名主 傳左衛門

伊奈半左衛門御代官所

追訴

境村

駿州駿東郡須走村

百姓代 源二郎

名主 重太夫

下谷村

組頭 平三郎

同 角 平

大久保出羽守領分

駿州駿東郡中山村

名主 名左衛門

大坂村

同 惣左衛門

萩蕪村

同 徳右衛門

二子村

同 惣左衛門

沼田村

同 茂左衛門

駒門村

組頭 織右衛門

中清水村

同 清左衛門

(裾野市佐野 佐野区有文書)

三三 (七八) 天明元年五月 郡内鹿留村種屋蚕種売弘めにつき

証文一札

一札之事

一 此度御村方文蔵殿相頼蚕種売弘メ申度旨相談仕候処ニ、私共自分相對ヲ以弘メ売買難致候ニ付、何卒貴殿方御村方御役人中様御願被下、御領分之内御厨不残相州ニ而河村近辺江蚕種売弘メ置申度候ニ付、右之趣文蔵願ヲ被仰上被下候様ニ相頼候処、御役人中様方 御上様江書付ヲ以御伺可被下候旨忝仕合ニ奉存候、右ニ付而者御太切之儀故跡ニ而万事間違不極等不仕候為、左ニケ条通り証文仕候上者急度相守可申候、為念名主組頭奥<sup>(印カ)</sup>□仕申候、左之通り

一 悪鋪蚕種ノ売仕間敷候事

一 蚕種之義ニ付六ヶ敷義出来仕候共、御村方江少も御苦勞掛申間敷候

御評定所

一 蚕種之儀ニ付小田原江御用有之御役人中様御往来被成

候而御□之品ニより御逗留被成候共、雜用旅籠(錢)之義

者私共罷有候内者私共御賄申上、私共居合不申候ハ、

御村方(符)方文藏殿方々御請取可被下候、私共方々文藏方

江勘定之上相渡し可申候、私共遠方義ニ者候得共、文

藏殿江も御損毛掛申間敷候事

一 御領分村々江蚕種売弘惠種渡置候而損毛等有之格別不

引合候段申間候ハ、御願上村々相止候共無異儀早速

相止可申候、尤相渡し置候蚕種代金御払被成候以後其

仁江強而売渡し申間敷候事、右相極メ証文仕候上ハ御

領分中相廻り非分売買仕間敷候、万一六ヶ敷義出来仕

候共私共引請御村役人中并文藏殿江も御苦勞懸申間敷

候、為後日依而如件

天明元辛丑年五月

甲州郡内領鹿留村種屋

嘉兵衛(印)

武兵衛

同国同郡田野倉村同断

幸左衛門

駿州駿東郡佐野村

御役人中

右三人之者共前文之通り申出し候上者少シも相違無御座

候、私共奥印仕申為後日仍而如件

同郡鹿留村

名主 伊兵治(印)

同断 傳右衛門(印)

同田野倉村

与頭 三左衛門(印)

佐野村

御役人中様

(裾野市佐野 佐野区有文書)

三三 (天明二年)五月一三日 拾分一番所建替につき二

ツ屋新田・平松新田百姓  
家借用願

〔包紙〕  
二ツ屋新田方 森田才右衛門 ㊦

先之名主中

此度水窪村・伊豆島田御上ケ村ニ相成候ニ付、両所御拾分所取崩シ其両村宜敷場所江御建被成候、夫ニ付建替被仰付候也、其両村百姓家御借り被成度思召候、尤手狭見苦敷分御構無之遠慮なくかし候様ニ申遣候様ニと之義ニ有之候、此段御急キニ付各早々可被申出候、以上

(天明二年)  
寅五月十三日

森田才右衛門 ㊦

二ツ屋新田

平松新田

右両村

十一日罷出候節返却可有之候、以上

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

名主中

三六 (二七九〇)  
寛政二年三月二〇日 茶畑村諸品引下げ売買値段

書上(横)

(表紙)

寛政二戌年三月廿日 茶畑村  
諸品下じき被仰付候ニ付  
富竹五一右衛門様江書上候控

覚

一 大豆百文ニ付壹升七合

一 塩百文ニ付四升

一 豆腐

覺

一大豆

是ハ百文ニ付壹升六合宛ニ売仕候処、此上壹升七合

ニ引下ケ可申候

一まき 但シ長壹尺八寸  
三尺廻り

是ハ百文ニ付六わが八わ迄売買仕候、此上成丈ケ引

一塩

是ハ百文ニ付三升五合ツ、ニ売買仕候処、此上四升

一地酒

ニ引下ケ可申候

一豆腐

是ハ壹丁廿六文ツ、是迄売買仕候処、此上廿二文

ツ、引下ケ可申候

一わらんじ

是ハ百文ニ十四足ニ是迄売買仕候処、此上十六足ニ

右之通当村方取調書付仕候通乍御世話御書付御上ケ可申候、かじやかま其外山師すみノ義ハ其御村方直段通りニ御書上可申候、其外売買仕候品無御座候

引下可申候

茶畑村

一男ぞうり

是ハ百文ニ付八足ニ是迄売買仕候処、此上拾足ニ引

神山村

下ケ可申候

御名主 権左衛門様

一岡地

上すミ両ニ三十五俵

名主 林 蔵

中 両ニ三十七俵

下 両四十俵

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

二二〇 寛政二年三月 茶畑村諸色直段引下げの触につき

承知一札

差上申一札之事

一 此度從 御公義様諸色直段引下ヶ売買仕候様ニ御触有  
之、猶又此節小田原御表方諸色直段御糺之上是迄売買  
仕来り候方下直ニ仕可申趣被 仰渡逸々承知仕候、其  
上御奉行富竹五一右衛門様江諸色直段付御書上被成候  
通急度相守可申候、為其一札差上申候、以上

寛政二戌年三月

茶畑村

幸左衛門 ㊦

与 八 ㊦

又右衛門 ㊦

幸右衛門 ㊦

惣右衛門 ㊦

八左衛門 ㊦

丈 八 ㊦

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

二二一 寛政五年十一月 富沢村薩摩芋当年作方大積

乍恐以書付奉申上候

一 薩摩芋 当村大積畑三反歩余

畑壹反ニ付出来方中年拾五俵程

但 米俵ニ入土芋ニ而拾貫目程

当年売渡直段壹百七拾貳文位

右此度薩摩いも作出方御尋ニ付、当村中小前少々ツ、夫  
食ニ作申候分相改奉書上候、尤百姓方夫食之助ニ宜敷品  
ニ御座候得共、諸作之内分テ猪喰荒シ申候、当年杯ハ別  
而夥敷猪喰荒シ申候而跡詩付申候麦迄此節堀り返シ兩作  
荒シ申候得者、自然と相止ミ可申哉ニ奉存候、当年作方

之方大積りを以乍恐奉書上候、以上

寛政五丑年十一月

富沢村

組頭 儀左衛門

同 助左衛門

百姓代 文 藏

沼津

御役所

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所藏)

七斗五升

右之通佐野村酒造人勘兵衛方酒造仕込候段相届ケ申候ニ付、酒造改役人并村役人立会相改申候所少茂相違無御座候、依之酒造改役人并村役人連印以書付乍恐此段御注進奉申上候、以上

寛政七年卯十月

御殿場村

酒造改役人 甚右衛門

中山村

同 善 兵 衛

佐野村

百姓代 市右衛門

役人代 傳 兵 衛

組頭 文 藏

同 嘉 六

同 伊右衛門

名主 政右衛門

第2節 村の經濟

- 卯九月
- 一元米五升
- 一添掛米三斗
- 一仕廻米四斗

二四 (一七九五) 寛政七年一〇月 佐野村酒造仕込改につき届  
乍恐以書付御届ケ奉申上候御事

佐野村

酒造人 勘 兵 衛

名主 政右衛門

渡里兵次右衛門様

小川甚五郎様

(裾野市佐野 佐野区有文書)

一四 (一七九七) 寛政九年十一月 愛鷹山炭焼出しにつき山付村々

願書

乍恐書付を以奉願上候

一 此度愛鷹山之内伊勢小屋守辺炭焼出シ之儀ニ付、村々  
 差障有之候哉否御尋被 仰付候ニ付、左ニ奉願上候、  
 右愛鷹山之内私共村々相加候山之儀者、愛鷹山南東表  
 百沢方本洞一ツ橋辺迄之儀者私共村々用水元ニ而、是  
 迄差障候趣ニ而、先規方相立来村々新而已少しツ、取  
 来申候、右ニ付此度之儀も百沢方本洞一ツ橋辺迄之儀  
 者炭焼出シ以御慈悲御用捨被成被下置候様奉願上候、  
 右願之通被 仰付被下候ハ、難有仕合ニ奉存候、以上  
 寛政九巳十一月

下長窪村

一色村

富沢村

大畑村

千福村

葛山村

水窪村

上土狩村

中土狩村

下土狩村

本宿村

竹原村

伏見村

新宿村

柿田村

長沢村

八幡村

納米里村

右村々惣代

〔二七九〕 寛政一二年一〇月 茶畑村炭山、湯ヶ島村百姓へ

下長窪村

売渡につき証文

名主 元右衛門

売渡申炭山之事

一色村

一炭山壺ヶ所

場所 但シ大沢山与申所

名主 藤蔵

此木金三拾両也

富沢村

右者当村大沢通川除普請入用ニ付、此度貴殿方へ右之炭

名主 彦十郎

木売渡書面之代金髓ニ受取申候処実正ニ御座候、然ル上

大畑村

者来ル申年<sub>下上</sub>子年迄ニ炭焼之積り御相談申候上ハ、年季

名主 庄蔵

明候ハ、御引払可被成候、炭荷物山出方之儀ハ当村小前

千福村

ニ而無滞差下候様ニ可仕候、尤駄賃之儀ハ双方熟談之上

名主 新七

御相对可被成候、繩俵等之儀も同断ニ御心得可被成候、

葛山村

万一右山一件ニ付他所<sub>下</sub>差障り候儀有之候とも其元へ御

名主 平右衛門

苦勞掛申間敷候、道橋之儀も大沢荷所場<sub>下</sub>モへ者其元

菲山

御世話ニハ掛申間敷候、為後日村役人連印、仍而如件

御役所

茶畑村

寛政十一年十月

名主 林 蔵

組頭 与祖右衛門

同 又四郎

同 傳 蔵

同 文 蔵

百姓代 太郎左衛門

湯ヶ嶋村

庄三郎殿

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

一四

(一七九九)  
寛政十一年

二月二日

茶畑村炭山入札控帳

(竪)

(表紙)

寛政十一年

茶畑村

炭山入札控帳

未十二月十二日

一金六拾五兩三分銀拾匁

北条村

孫兵衛

一金三拾七兩銀百六拾九匁五分

湯ヶ嶋村

庄右衛門

一金七拾五兩銀百廿五匁五分五厘

門野原村

善右衛門

一金三兩と銀廿匁式分 あけ

金八拾兩と銀廿五匁七分五厘

落札

大平村

重兵衛

一金七拾三兩式分銀五匁七分

二本松

丈八

一金七拾五兩銀三匁六分式厘

第2節 村の經濟

一金六拾六兩貳分銀五匁五分

北条村

又右衛門

一金七拾兩貳分銀拾匁五分

当村

与祖右衛門

石脇村

九左衛門

二つや

藤藏

一金五拾六兩銀拾九匁五分

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

一罍

(一八〇六) 文化三年四月

茶畑村水車持主、田地用水につき

水下の者へ差障りなき旨一札

(端裏書) 「水車持主方一札」

一札

一此度小田原 御役所様々水車御改之上当寅年々来ル午

年迄五ヶ年之間冥加銀御上納仕候、然ル所御田地用水之義者格別之義ニ御座候得者是迄之通少も差障申間敷候、万一差障之義も御座候節者水下之者と熟談仕惣而用水之義ニ付差障無之様ニ可仕候、為後日一札差出申候、以上

茶畑村中丸

文化三丙寅年四月

庄兵衛<sup>㊦</sup>

義助<sup>㊦</sup>

伊右衛門<sup>㊦</sup>

茶畑村

平松新田

御役人中

(沼津市 柏木正男氏所蔵)

一〇 文化七年一〇月 継場口錢一件につき水窪村・佐

野村・神山村取替一札

取替一札之事

一 此度一色・納米里・長窪三ヶ村方当村佐野両村江申越候者、右三ヶ村之義御年貢三分毫米分代金納ニ付初秋より勝手次第相払候所、右村方継場之義ニ而口錢取候儀甚々迷惑致し、以来口錢差出し候義不相成段断申越候、依之継場一統及相談ニ候処、出入之義者一統迷惑之筋ニ候得共、先年御裁許茂有之候事故其尽ニ捨置がたく評義ニおよひ候所、指掛り両村至而迷惑ニ相成候事故、水窪村ニ而内分之料見を以右三ヶ村方伊豆嶋田出之内ニて少々茂料見致し内済ニおよひ申候、然ル上者以来口錢之義者不及申継場一件之義ニ付何之村方出入等差起り候共、是迄之通り継場一統相談之上取計ひ可申候、仍而取替一札仍而如件

水窪村

文化七年十月

名主 茂 兵衛<sup>印</sup>

与頭 理右衛門<sup>印</sup>

同 与左衛門

百姓代 徳左衛門<sup>印</sup>

佐野村

御役人衆中

神山村

御役人衆中

(裾野市佐野 佐野区有文書)

一〇 文政九年九月 金沢村百姓、生国近江へ引取につ

き酒売掛取り扱い願

乍恐以書付奉願上候事

一 駿州駿東郡金沢村百姓利兵衛儀、生国者江州日野町出生ニ御座候処、三拾八ヶ年以前酉年より当戌迄当国金沢村ニ罷居酒職分出情仕候得共、近年殊之外拙者儀病氣ニ付酒商売之儀不都合ニ御座候処、尚亦国本親達病

氣ニ付右本国へ引取申度由ニテ御隙を奉願上候処、

仰付下置難有仕合ニ奉存候、為後日仍而如件

地頭御役所ニテ御糺被成下候儀奉恐入候、御役所ニ

金沢村

て被 仰聞候者、右利兵衛儀者百姓壹軒之儀ニ付前々

文政九年

当人 利兵衛<sup>㊦</sup>

者名主役等迄も相勤申候得者、本国江引取申杯儀甚以

戌九月日

親類 茂右衛門<sup>㊦</sup>

不埒成申分ニテ不得其意、尚又酒職之儀永々年来之事

組合 六左衛門<sup>㊦</sup>

ニ御座候得者、酒売掛等も多分可有之哉と奉存候ニ付、

地頭

当 支配内身生百姓方ニ掛等多有之ニ付て者懸方取立

御役所

之上者百姓潰しニも相成可申候ニ付、是迄之通酒職を

致当 支配内掛等も追々取集メ候得者格別之難渋ニも

右之通金沢村利兵衛儀奉願上候通少茂相違無御座候、依

有之間敷段被 仰聞奉畏入候、右之趣拙者家内一統得

之村役人印形仕り差上申候上者 御上様へ少も御苦勞相

篤申合相談仕候処、被 仰聞趣尤至極ニ奉畏入候、仍

懸申間敷候、右奉願上候通被 仰付下置私共難有仕合ニ

之御支配内金沢村之儀者不及申ニ葛山村・上ヶ田村右

奉存候、已上

三ヶ村 御支配内売掛之儀者相對ニテ取片付、当 御

金沢村

役所村方役人衆中へ少も御苦勞相掛申間敷候、然上者

文政九戌年

名主 九右衛門<sup>㊦</sup>

跡敷之儀者何れ共被 仰付次第を以急度相立可申候、

九月日

組頭 金右衛門<sup>㊦</sup>

尤持来り候田はた林之儀者其儘相讓置候様可仕候、何

百姓代 長左衛門<sup>㊦</sup>

卒右願之通ニ御憐愍以本国へ引取親共撥病致候様ニ被

地頭

御役所

(裾野市葛山 芹澤哲哉氏所蔵)

一四 (一八二七) 文政一〇年六月 江戸問屋と荷物滞り訴訟につき

内濟議定書取交わし証文

差上申証文之事

一 私義年来炭商売致候ニ付、江戸問屋方江差送り候筈ニ  
 而前金借入荷物差遣し候処、追々荷物相滞都合金拾八  
 兩ト銀拾四匁六分六厘滞金ニ相成度々催促有之候得共、  
 近年病身ニ相成商売手広ニ茂不仕候処、度々破般等茂  
 有之旁難渋仕候故、荷物差送り不申捨置候ニ付、問屋  
 方ニ而茂難渋之趣を以先般出訴仕 御尊判頂戴被相附  
 驚奉恐入、早々出府仕候上ニ而、沼津宿問屋矢部重郎  
 右衛門・同宿同鈴木善右衛門右兩人相頼取曖を以当亥  
 年ノ丑年迄上炭式百俵宛三ヶ年差送り可申議定を以内  
 濟仕候、右跡用右証文差入候義ニ付村御役判御願申上

候処、御承知被下難有奉存候、然ル上ハ組合親類ニ而  
 急度引請不抱当人江私共々議定之通少茂無相違相濟可  
 申候、万一滞り候義茂有之候ハ、加判之もの弁金ニ而  
 相濟シ、聊村御役方江御苦勞掛ケ中間敷候、為後日加  
 判証文、仍而如件

文政十亥年六月

当人  
 和田 勇 吉印

組合 忠 助印

同 善 七印

同 祖 八印

親類 吉兵衛 印

同 式 藏印

同 元右衛門 印

村

御役人中様

(裾野市深良 深良区有文書)

一四九 (一八二七) 文政一〇年九月二日 甲州往来荷物継送の口銭に

つき評定所掛り一件

(端裏書)  
「継場出入御裁訴書」

差上申一札之事

私共出入御吟味ニ御座候処、諸荷物継送之儀ニ拘り引合  
村方多、其上村柄盛衰等之趣も就難御決一同一ト先帰村  
被仰付、右御糺旁御代官佐藤忠右衛門様・池田仙九郎様  
両御手附御手代衆被差遣再応被遂御糺明候処、訴訟方之  
儀、豆州三嶋宿・駿州沼津宿・同国御厨領村々其外方甲  
州郡内領江可買入米穀塩茶類商人荷物とも年来附通相稼  
五十集荷物ハ其馬荷附次第を老駄(山中)といたし、諸荷物共老  
駄ニ付口銭式文宛須走□□(山中)両村江差出来り候由申立候得  
共、三嶋・沼津両宿より附通荷物口銭等之儀ニ付、元文  
之度駿州水窪村外三ヶ村与甲州山中村其外村出入之節、  
沼津・三嶋両宿商人荷物附通し之儀ニ水窪村外三ヶ村、  
須走・山中・上吉田三ヶ村とも前々諸荷物継来候段無

紛間、以来商人荷物も可継送、口銭之儀雖申立無証拠ニ  
付不被為御沙汰、然レ共荷物勝手ニ□□(任カ)附通五十集鮮魚之  
類口銭取候儀者可為相对次第与の趣并寛保度之御裁許ニ  
手馬を以郡内領江附帰候荷物之内ニ荷印有之無紛商人荷  
物者継送可申、勿論荷印有之内ニ而も五十集鮮魚等継荷  
ニ難成分者少々宛口銭出、相对を以附通之儀者格別与有之  
上者、附通候儀ニ候ハ、継場村々与相对之上互ニ不差支  
様可取計筋ニ而水窪村外三ヶ村江者是迄口銭不差出附通  
り候由も申候迄ニ而是以附通候儀ニ候ハ、同様可取計者  
勿論之儀、然ル上者今般申立之趣を以全附通相稼度由之  
申分ハ難御取用、相手方之儀も可継合商人荷物を訴訟方  
村々ニおゐて老駄ニ付口銭式文或者口銭不差出、猥ニ附  
通継場助成ニ差障候ニ付不殘継合荷物ニいたし度由之申  
立者、元文・寛保度之御裁許ニ御厨領村々御殿場・茱萸  
沢其外方附通候荷物も可継送与の申渡無之上者右場所方  
訴訟方村々附通駄賃相稼候而も可差障筋ニ無之、桑口銭  
取立之儀も寛保度之御裁断ニ須走村者双方熟談いたし互

ニ申分無之旨認有之候内ニ相籠候事之由、又ハ五十集鮮魚壹駄四箇附口錢八文宛請取候由者一己之心得迄之儀、去ル巳年山中村訴状面并同未年須走村より大久保加賀守様御役場江差出候書付、同申年山中村方御吟味中差出候書類ニ巳年以前者孰も商人諸荷物相對之上為附通候趣之申立も有之、右巳年出入落口之節内議定書ニ山中村馬士共須走村問屋荷物繼払候節ハ御殿場・茱萸沢其外村々江打越荷物附通之砌須走村問屋庭帳ニ記置繼合同様ニいたし候趣ニ而者荷物壹駄ニ付口錢拾式文宛商人共方為差出候様取計候儀を山中村より右商人共江掛合も不致、新規之儀取極不都合之儀ニ有之上者是又申分難御取用、水窪村外三ヶ村外<sup>(符)</sup>三ヶ村<sup>(カ)</sup>之儀郡内領村々者諸荷物并五十集鮮魚者四箇附壹駄ニ付口錢六文宛請取度由も従来口錢不請取為附通候上者新規之申立ニ有之上吉田村之儀も水窪村外三ヶ村荷物附通候節口錢不差出由も右村々繼場ニ候上者申分難御取用萩蕪村外六ヶ村之儀も同様附通候節往古者馬壹疋ニ付口錢式文宛差出候得共、当時者追々相増ハ

文宛差出及難儀候間、以来口錢式文宛差出附通候様致度旨申立候得共、証拠も無之申候迄之儀其外無証拠申争等之儀者何れ茂難御取用候、依之以来商人諸荷物五十集鮮魚桑葉与も繼合ニ差出候分ハ荷物壹駄ニ付庭錢拾式文宛荷主方須走村江請取之、三嶋・沼津両宿方附通候商人諸荷物五十集荷とも水窪村・佐野・神山・茱萸沢・山中右五ヶ村并附通稼之馬士共勝手ニ付、上吉田村江懸り候分ハ右村々ニ而馬壹疋ニ付口錢三文宛須走村者稼馬も少き村方ニ付同六文宛附通候馬士共方可請取之、御殿場・茱萸沢・御厨領村々其外先々ニおゐて商人諸荷物地荷物共、郡内領村々附通相稼候分者、須走・山中両村共馬壹疋ニ付口錢式文宛請取之、勿論上吉田村江相掛候分ハ是又同様式文宛可請取之、其余手馬手荷物桑葉与も附通候儀者繼場ニおゐて不差障、去ル未年須走村方取立候蕨粉十分壹錢ハ下谷村商人共方江相渡、去ル巳年須走山中両村濟口内議定等之趣者相用間敷段被仰渡一同承知奉畏候、若相背候ハ、御科可被仰付候、仍御請証文差上申処如件

吉川栄左衛門御代官所

甲州都留郡

上谷村

下谷村

忍草村

右三ヶ村惣代

文政亥年九月二日

上谷村

訴訟方

組頭 多右衛門

下谷村

百姓 弥右衛門

忍草村

年寄 与惣右衛門

彦兵衛

追而訴訟方江加り候

同人御代官所

同郡

下吉田村惣代

新倉村惣代

百姓代 惣太郎

百姓代 五郎左衛門

大明見村惣代

年寄 勝之進

小明見村惣代

名主 嘉右衛門

同人御代官所

同郡

山中村惣代

相手方 年寄 芳左衛門

大久保加賀守領分

駿州駿東郡

須走村惣代

組頭 与惣左衛門

同 利太夫

追而相手方江加里候

水野出羽守領分

同郡水窪村惣代

名主 茂 兵衛

組頭 安 兵衛

大久保加賀守領分

同郡

佐野村惣代

組頭 為 蔵

沖右衛門

神山村惣代

名主 嘉 兵衛

組頭 九 平 治

菜莢沢村惣代

組頭 市郎右衛門

同 丈 助

御吟味ニ付被召出候

吉川栄左衛門御代官所

右都留郡

上吉田村惣代

組頭 多 兵衛

大久保加賀守領分

右駿東郡

駒門新田惣代

組頭 武右衛門

沼田村

大坂村

右式ヶ村惣代

大坂村

名主 半左衛門

中山村惣代

名主 名左衛門

萩蕪村

二子村

右式ヶ村惣代

二子村

組頭 権右衛門

中清水惣代

百姓代 傳右衛門

御評定所

前書之通於 御評定所ニ御掛り 石川主水正様

御裁許被 仰渡御請証文奉差上候間、為後証写取  
之置者也

(裾野市佐野 佐野区有文書)

一書 (一八三〇) 天保元年一二月 御宿村半七酒造高諸道具御改御

請印帳(豎)

(表紙)

天保元寅年十二月 書上帳控

酒造高諸道具御改御請印帳

御宿村

酒造人 半七

差上申一札之事

酒造米高百石

一酒造米高百六拾六俵六分 但三分二造高之分

六尺桶 但老本ニ付拾石造り 三本

五尺桶 但老本ニ付五石造り 三本

四尺桶 但老本ニ付三石造り 五本

三尺五寸桶	但壹本ニ付壹石五斗造り	三本
三尺五寸こしき		壹本
三尺桶	但壹本ニ付壹石造り	式本
元桶		五本
船		壹艘
大半切		式枚
四半切		壹枚
元半切		三拾枚
ノ拾壹品	此度御触之通り三分二造り高之分 諸道具ニ御座候	
一右酒造米休高八拾三俵四分	但三分一休高之分	
六尺桶	但拾石造り	壹本
五尺桶	但五石造り	壹本
四尺五寸桶	但四石五斗造り	壹本
三尺五寸桶	但壹石五斗造り	式本
三尺桶	但壹石造り	式本
元桶		三本
元半切		拾枚

ノ七品

三分一減高不用之諸道具ニ  
御座候ニ付村役人御預り申候

右之通酒造人半七諸道具御改極印被仰付右書上申候、當時造高ニ取用候諸道具之外不用桶之分右御改之通桶之内江御張紙極印被成私共江御預ケ被成儘ニ御預り申上候、然ル上者御印紙不落様大切ニ仕増造隠造等紛敷義無之様急度被 仰渡承知奉畏候、右為御請連印一札差上申候処、仍而如件

天保元寅年十二月

駿川駿東郡御宿村

百姓代 彦 九 郎 印

与 頭 利 七 印

同 断 仙 藏 印

原田勘右衛門殿  
山田六之進殿

(裾野市御宿 湯山芳健氏所藏)

二五 (一八五〇) 嘉永三年二月六日 茶畑村職人鑑札の威光を借り

故障申掛一件につき願書(堅)

(表紙)

嘉永三庚戌年

職人一件願書控

二月六日ニ願ニ出し候

組合惣代

茶畑村  
公文名村  
佐野村

乍恐以書付奉願上候御事

第2節 村の經濟

私シ共組合村々諸職人之儀、大工・木挽・屋根職・畳職・桶職・石職・経師職・綿打等先々々農間職仕来り候処、職人少く大工抔者村々普請ニ行届兼、殊ニ職分未熟成者多分有之相頼候而引合ニ相成兼、且者私シ村々最寄者御他領入交リニ付、他所大工・木挽等入来り用弁致居

候処、去ル六七年以前ニも御座候哉、当御作事方御役所様々職分御鑑札被差出シ、小田原竹之花町六郎兵衛殿取次ヲ以組合諸職人江御鑑札廿五枚御渡シ被成御冥加上納致シ罷有候、然ル処当節者増長仕、賃金之儀も八日壹分相定り居り候処自己之勝手ヲ以七日壹分受取族も有之、御鑑札さへ頂載致候得者忝人前ニ相成候積リニ而彼是御威光を相触シ、他所々頼入候諸職人者勿論村内出入罷在候大工・木挽之者等渡世向ニ故障申掛、村々差支ニ相成候様仕成候、既ニ組合茶畑村百姓代伊左衛門方ニ而去ル十月頃々居宅補理候ニ付、御他領小下田村大工職惣助与申者年来入来り村方江入込職分仕候ニ付、同人相雇普請ニ取掛り候処、故障申掛候ニ付、村内大工政吉と申者江亦請致させ、先月下旬出来致し候ニ付、伊左衛門方政吉江も祝義等差遣シ候処、何様之申合セ有之候而之儀哉、大工ニ不抱外木挽・綿打・畳職御鑑札所持罷有候者共者勿論、其外子分抔と相唱、本業を骨折候事嫌ひ口先而已ニ而可相渡者自然与相増、既ニ此筋寄合之砌茶畑村計り

ニ而拾七八人ニ茂相及び、此形捨置候得者詰り一村之相  
 続方ニ相抱、村々役人共ニおゐて深ク心配仕居り、然ル  
 所へ伊左衛門屋根普請ニ故障申掛、猶又大工迄差留メ出  
 来不仕候程之儀甚タ不埒之儀与奉存候処、又候此度同村  
 組頭惣右衛門方ニ而普請手入仕候ニ付村内江出入罷有候、  
 御他領伊豆佐野村木挽要七と申者江木品注文いたし手附  
 金壹兩相渡候処、諸職人共并同意之者共前書奉申上候通  
 拾七八人打寄、其後惣右衛門方へ罷越普請差留メ、夫而  
 已ならず無鑑札之者ニ而文藏・惣吉と申もの兩人木挽用<sup>(要)</sup>  
 七方へ罷越、兼而受取候手附金相渡可申由申掛品々我意  
 而巳申募り迷惑致シ、要七方同村組頭林右衛門方へ申出  
 候者、当御領分者右様之御振合候哉、私共是迄御他領も  
 所々出入仕候共、右様ゆすり同様御取扱ニ相成候事無之  
 御役所ニ而御勤弁可被下由申出候、林右衛門ニおゐても  
 挨拶ニも差支候事ニ御座候、不埒至極之取計ニ而如何共  
 言語ニ絶候、仕向ケ方難捨置候得者何連右等之次第有之  
 候儀ニ付 御上様江御願申上候間、事柄相分り候迄ハ差

控可申候由申聞候間、要七儀者引取申候、且亦職人共申  
 合セ候心得違<sup>方</sup>者、御鑑札頂戴罷在候上者、他所職人等願  
 入候ハ、所職人ニ相渡らせ、其手続ヲ以職分致させ、普  
 請出来案内之祝義等相ねたり、御鑑札所持罷有候ヲ申触  
 シ、綿打・畳職迄大工・木挽・屋根職ニ相泥ニ祝儀貫  
 請候相談等致シ、村役人共申談之上、職分之儀者不相分  
 候得共、何分村々御鑑札制事方届兼候ニ付、心得違之儀  
 与利解申聞候得ハ、只一向ニ承り、職分之儀ニ付而者竹  
 之花町六郎兵衛殿方御鑑札直ニ相渡シ、掛り違ニ付村役  
 人之支配受不申杯与存外之儀申募居、且者村内持村等他<sup>(株也)</sup>  
 所へ売渡シ候節者、村内木挽相雇不申候而者売買不相成  
 杯と故障申掛、村方之者一同難渋仕候義不少、御鑑札之  
 御威光相触シ何様之申合仕、村方差支ニ相成候義仕成ニ  
 候哉も難計、且者村法も相崩シ御鑑札所持致シ候故村役  
 人之支配受不申候杯と心得チガエ罷在候者、御制事も行  
 届兼、此度迎も組合一同之諸職人茶畑村江立会村役人相  
 手取職人之一流相立存意ニ而勝手俣之相談致シ候様子ニ

第2節 村の經濟

付、村々役人罷越職人共江申聞候者、右様不当我意而已  
申募村々迷惑為致シ候ハ、組合一同より 御役所江奉  
申上御取調ニ可預リ旨申聞候処、外村々職人共之儀者引  
取申候得共、茶畑村之儀者職人共始其子分拵申候者迄前  
書奉申上候通りニ而承伏不仕、村方一同難涉仕候次第ニ  
付、何分難捨置、無余義恐を不奉願奉願上候、尤去ル文  
政度之頃此度之如く職人共へ御鑑札頂戴之威ヲ相触シ相  
長致シ村々一同難涉仕候ニ付、村惣代として中嶋村名主  
喜三郎・菅沼村名主重右衛門両人 御上様江歎願仕候処、  
御掛り様ニ而松井恭助様御手代月良貞兵衛様早速御聞届  
被成下置、尤之儀ニ付其段御普請所 御役所江御願立可  
致様被仰聞候ニ付、其段口上ヲ以御願奉申上候処、右御  
役所様ニ而者何連御掛り江御挨拶可申候間帰村致候様御  
沙汰ニ付、夫々帰村仕居候処、追々御鑑札も相減、職人  
共増長之義も無之至極納得仕罷在候処、猶又此度職人共  
前条奉申上候通り増長仕候間、何卒御慈悲ヲ以右職人共  
以来不当之儀不致、他之諸職人相頼候節故障不申聞候様

被成下置候共可相成儀ニ御座候ハ、右御鑑札御引上被  
成下置、以前之通村方無差支普請等出来、職人様之者相  
減本業出精仕候様卒ニも御慈悲を以奉願上候、右奉願上  
候通り御聞濟被成下置候ハ、村々一同難有仕合ニ奉存  
候、此段乍恐以書付奉願上候、以上

嘉永三戌年二月 下郷組合惣代

茶畑村

与頭 林右衛門

公文名村

与頭 弥四郎

佐野村

名主 儀右衛門

小川共藏様

男沢茂太夫様

川口大七郎様

乍恐以書付奉願上候御事

私共組合茶畑村元木挽職百姓長右衛門・同大工同政吉・  
 同家根職同久右衛門・同綿打職同忠助、右之者共是迄農  
 間職分仕来り候之処、夫ル已年御作事方 御役所様方職  
 分御改之上御鑑札御渡シ被成候ニ付、右御鑑札御威光ヲ  
 借り悉増長仕、村内普請等ニ故障申掛ケ迷惑為致候ニ付、  
 村役人共利害申聞候而も取用不申、扱又元木挽職百姓長  
 右衛門弟子百姓文藏・惣吉と申者御鑑札者無之者ニ御座  
 候得共、前書同様之次第共有之、其上心得違之所行ニ御  
 座候ニ付、無余義先般右之始末 御役所様江奉願上候処、  
 夫々御呼出シ之上御尋奉請候処、前書之者とも辺々申訳  
 無御座候奉恐入候段申上候ニ付、長右衛門・政吉・久右  
 衛門・文藏・惣吉共都合五人吟味中手鎖村預り被仰付、  
 忠助・源右衛門両人者村預り被奉恐入相慎ニ罷有候処、  
 右之者共当節ニ相成篤与勘考仕候得者、全心得違仕  
 御上様江御苦勞奉掛ケ并村役人中江も彼是申掛ケ候儀一  
 言之申開無御座候、誠ニ以先非後悔仕、此上御吟味奉請

候而者御答可申上様無御座、重々奉恐入候ニ付、何卒御  
 願下ケ之儀親類五人組ニ取纏り村役人共迄度々申出候趣  
 ヲ以私共迄申出候ニ付、尚私共立入とも心庭院与取糾候  
 処、実々改心仕心得違之所行仕候段々恐縮罷在混り御願  
 下ケ之義別紙之通り一札差出シ、偏ニ歎願申出候ニ付、  
 已来何事ニよらす不埒之儀無之候様、乍恐私シとも御引  
 請可仕候付、幾重ニも御憐愍之御慈非ヲ以、此上之御吟  
 味御用捨被成下置御願下ケ之儀奉願上候、右奉願上候通  
 り被仰付被下置候ハ、当人とも相助、村役人并五人組親  
 類之者不及申上ル、私シ共迄難有仕合ニ可奉存候、以上

麦塚村

嘉永三庚戌年

四月八日認メ上ル

名主 与惣右衛門  
 与頭 要右衛門  
 役人代 元右衛門  
 百姓代 重助

二ツ屋新田

名主 佐兵衛

第2節 村の經濟

組頭 良吉

公文名村

稻荷村

名主 宇平治

組頭 市右衛門

同 弥四郎

百姓代 源六

佐野村

名主 源五郎

同 儀右衛門

組頭 順藏

源右衛門

利右衛門

嘉右衛門

石脇村

組頭 善吉

同 弥四郎

百姓代 与右衛門

岩波村

名主 伴右衛門

組頭 太兵衛

百姓代 善左衛門

神山村

名主 源右衛門

組頭 銀左衛門

同 忠治郎

同 九兵衛

同 嘉兵衛

百姓代 太郎左衛門

栄藏

小川共藏様

男沢茂太夫様

川口大七郎様

(沼津市 柏木正男氏所藏)

4 村の金融

一五三 (一七四六) 延享三年二月二十六日 定輪寺村伊兵衛無尽定証文

無尽定メ証文之事

一 親持伊兵衛身躰不勝手ニ付、金五両無尽取建諸役御年貢払方いたし候処実正ニ御座候、然故ハ無尽日限如何様之指合候とも無尽満迄急度罷出、無尽落蘭之方江利金勘定可申候、無尽仲門中之内掛金かけ返シ滞候ハ、無尽質地加判之者請取金子ニ而連衆中へ急度指出シ可申候、其節少茂違乱申間敷、為後日証文仍如件  
延享三年

寅二月廿六日

祖父

伊 兵 衛

(後 欠)

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所蔵)

一五三 (一八三四) 天保五年一月 定輪寺無尽深良村文明寺落札に

つき一札

無尽金証文之事

一金拾五両也

右者親司定輪寺無尽、当年年会合之節拙寺落札取番ニ相当り書面之金子慥ニ受取申処実正ニ御座候、為此質物字□<sup>(天)</sup>神窪ニ而上田式反壹畝廿壹歩、大屋敷ニ而中田壹反壹畝六歩、同所ニ而下田九畝五歩、才之神ニ而上田壹反式拾歩、反別合五反式畝廿式步入置申候、然上ハ来ル未年方無尽満会迄、右利金年内壹割五分之勘定を以毎年金式両壹分つゝ会合之節差出し可申候、万一不埒之儀も有之利金調兼候節ハ、右之質田地加判人江引取致支配徳米ヲ以急度差出し、御連中江少茂御世話御損毛相懸申間敷候、為後日証人加判仍而如件

天保五年

深良村取主 文明 寺印

午十一月

且方証人 徳右衛門印

同断 民右衛門④  
名主 治三郎④

定輪寺無尽

御世話人中

御連 中

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所蔵)

一函 (一八三七)  
天保八年三月 今里村報徳米拝借証文

報徳米御拝借証文之事

一米拾六俵壹斗壹升

此代金貳拾五兩三分壹朱永貳拾文八分四厘

但金拾兩ニ六俵三分替

此年賦濟方

酉金五兩貳朱永四拾壹文六分六厘八毛

戌金五兩貳朱永四拾壹文六分六厘八毛

亥金五兩貳朱永四拾壹文六分六厘八毛

子金五兩貳朱永四拾壹文六分六厘八毛

丑金五兩貳朱永四拾壹文六分六厘八毛

右者御領分駿東郡御厨原方組合今里村名主・組頭・惣百姓代一同奉申上候、当郷土地柄用水之儀者富士山雪水掛り之場所故、去ル巳年方不順氣打続違作難澁仕候、猶又昨年冷気雨天勝ニ而近年稀成大凶作ニ相成、暮方夫食必至与差支十方ニ暮罷在候処、小田原御城附御領分村々報徳金御貸附之由承知仕、何卒飢渴を為相凌申度、達而御拝借奉願上候処、格別之思召を以早速御出郷見分被下置 飢之助様御知行所荒地開発人別増村柄御取直し御趣法之次第、微細ニ御利解被仰聞御知行所村々

(中 欠)

相助、御百姓相続仕候御恩沢之次第、子々孫々ニ至迄申伝置聊忘却為仕申間敷候、為後日夫食御拝借証文仍如件

原方組合

今里村

天保八丁酉年三月

世話人 伊兵衛<sup>印</sup>

同 源右衛門<sup>印</sup>

百姓代 定右衛門<sup>印</sup>

組頭 清吉<sup>印</sup>

同 弥惣治<sup>印</sup>

二宮金次郎様

(裏書)

〔割印〕表書報徳年賦皆済ニ相成申処仍如件

天保十二辛丑年十月 二宮金次郎

〔割印〕一金五兩式朱永四拾壹文六分六厘八毛

右者報徳元恕金之弁恩沢報徳金被相納、慥ニ請取申所

仍如件

天保十三壬寅十月

二宮金次郎

(裾野市今里 今里区有文書)

一 壹 (二八三九) 天保一〇年六月 荻野山中藩殿様利運講連名控帳 (横)

(表紙)

天保十年亥六月  
殿様利運講連銘控帳  
御宿村役人<sup>印</sup>

毎月金式步掛ケ

一 壹口 式右衛門<sup>印</sup>

一 壹口 湯山半右衛門内 保三郎<sup>印</sup>

一 壹口 半 七<sup>印</sup>

一 壹口 式右衛門<sup>印</sup> 保三郎<sup>印</sup> 半 七<sup>印</sup>

第2節 村の経済

一 壹口

彦兵衛 ①  
五郎右衛門 ①

新内 ①

忠七 ①

五郎兵衛 ①

仁右衛門 ①

平八 ①

惣兵衛 ①

平助 ①

一 壹口

内訳ケ

四分一

深良村 三郎 ①  
葛山村 三郎 ①  
隣村 齐 ①

半口

同 勢五郎 ①

四分一

同村 仙年寺 ①  
同 庄左衛門 ①

一 壹口

一 壹口

甚兵衛 ①  
利七 ①

覚

月五十兩壹分之利会毎ニ出シ可申

一金拾三兩也 亥十一月七日 年々貸付金預

内

金七兩也 御宿村  
金三兩也 吉久保村 ①  
金貳兩貳分 柳嶋村 ①

金貳分

幸原村  
両佐野へ渡す<sup>①</sup>

子四月

利運講御貸付金割合

利金取立

一金七兩也

此利金貳朱ト

三百四十三文

御宿村  
五ヶ月分

一金三兩也

此利金一朱ト

八十三文

吉久保村<sup>①</sup>  
五ヶ月分

一金貳兩貳分

此利金一朱

柳嶋村<sup>①</sup>  
五ヶ月分

一金貳分

此利八十三文

幸原村  
両佐野村  
五ヶ月分

利金ノ壹分一朱ト八十三文也

子ノ八月  
一金拾三兩也

内

七兩

リ二朱ト百七文

御宿村

三兩  
リ四百廿五文

吉久保

二兩貳分  
リ三百五十三文

柳嶋村

貳分  
リ六十八文

豆佐野

子ノ十一月 三ヶ月分  
一金老朱ト 貳百九十四文

七兩之利取分

丑ノ四月 五ヶ月分  
一金貳朱ト 三百四十八文

同断

(裾野市御宿 湯山芳健氏所蔵)

第2節 村の經濟

一 冥 (一八五)  
嘉永四年二月 頼母子講連名帳(豎)

(表紙)

嘉永四年  
頼母子講連名帳  
亥十一月 大司  
彦右衛門(印)

一 金子取立場揃之事

前書之通り御取極被下候処相違無御座候、為後日世話人  
印形如件

富沢村

嘉永四亥年

大司 彦右衛門(印)

十一月

世話人 藤右衛門(印)

同 房右衛門(印)

一金拾両也 但シ文字金也

一 壹口

渡邊嘉六郎(印)

一 壹口

服部要助(印)

一 壹口

同藤右衛門(印)

右者私儀身上不如意ニ付、各様江御無心申上候処、書  
面之通り御企被下難有仕合ニ奉存候、則金拾両也只今  
慥ニ請取申候処実正ニ御座候、然ル上は何様之儀出来  
仕候共、聊無休会吃度満会可仕候

一 壹口

服部助左衛門(印)

一 仕法之儀者大司利金 御連中様利足金壹両ニ相定、

同 清 藏(印)

式会立糶無尽ニ致し、落札之御方質地証文ニ而金子御

一 壹口

茶畑村 芹澤伊左衛門

渡し可申候

服部要助

同村

同繁左衛門印  
藤右衛門承り

服部甚藏

朝倉儀助印

渡邊嘉六此分  
大司渡ス

服部新右衛門印

同久左衛門

田口徳藏印

渡邊庄平印

二本松

杉山幸吉印

水窪村

渡邊伊兵衛

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所蔵)

一毛

万延元年三月 小田原難村講連名帳(小横)  
(二八六〇)

(表紙)

万延元庚申年  
小田原難村(總)構連名帳  
三月 年番 名主作兵衛

但シ壹口五両掛、壹口壹分持

一金三分三朱ト

錢四百拾八文

二本松新田分  
三月廿二日受取

一金壹分貳朱

和十郎分  
三月廿二日受取

一金壹分

平右衛門分  
三月廿二日受取

一錢五百文

四郎兵衛分  
三月廿二日受取

一金貳分

勘兵衛分  
三月廿二日受取

第2節 村の経済

戊三月廿五日会

一金壹分

平右衛門分  
三月廿三日受取

三月廿一日受取  
一金壹分式朱

藤三郎

一金壹分

善兵衛分  
三月廿三日受取

三月廿四日受取  
一金三分

佐十郎

一錢壹貫百七十式文

四郎兵衛分  
三月廿三日受取

三月廿四日受取  
一金三分

二本松  
五右衛門

一金壹分

二本松新田分  
三月廿三日受取

四月四日  
一金式分

二本松新田分  
難村構金受取

一金壹分

佐十郎借入分  
下原弁藏受取  
右難村構出金江  
廻ス三月入ル

三月分  
一回壹分

善兵衛  
不納

一金壹分

彦四郎不足

三月分  
一回式分

勘兵衛  
不納

十月分  
一金壹分式朱

和十郎分  
十月廿二日受取

戊十月廿五日会分

(一丁欠紙)

一金式分

十月分  
平右衛門不足

十月廿一日  
一金壹分式朱

藤三郎分  
使宇兵衛受取

十月廿一日  
一回壹分

四郎兵衛分  
宇兵衛受取

十月廿一日  
一回壹分

善兵衛分  
宇兵衛受取

第4章 村の政治と経済

十月廿三日  
一金壹兩壹分

十月廿三日  
一同貳分

一同三分

亥三月分渡ス  
一金貳分

亥十月分  
一金貳分

子三月廿五日会

一金壹分

金壹朱ト  
壹貫貳百文 廿二日受取

一同壹分

一同三分

二本松分  
使喜兵衛ヲ受取

勤兵衛分  
受取

佐十郎  
不納

(マ)

霜月朔日  
使義七ニ渡ス  
佐十郎方江

四郎兵衛

善兵衛

佐十郎

平右衛門  
彦四郎 兩人分  
持込共

勤兵衛

一同貳分  
壹分三朱廿三日彦八ヲ受取

一同壹分貳朱

藤三郎

一同壹兩壹分  
廿四日朝受取

一同貳分

一同壹兩貳分貳朱

子十月廿五日難村講構出金扣

一金壹兩壹分

一同壹分

一同壹分貳朱

一同貳分

一同壹分

一同三分

一同貳分

一同壹兩貳分貳朱

金五兩貳分掛ケ

二本松新田

作兵衛  
平右衛門分持込共

佐十郎  
作兵衛 兩人持

十月廿一日  
二本松分受取

四郎兵衛

藤三郎

勤兵衛

善兵衛

佐十郎

作兵衛持

作兵衛  
佐十郎 兩人持

第2節 村の経済

丑三月廿四日朝

一金貳分也

佐十郎方  
使新介江  
相渡ス

寅三月廿五日会取立扣

一金壹兩壹分  
廿三日受取

二本新田  
(松脱)

一同壹分

廿二日受取

一同壹分

廿四日受取

一同貳分

廿二日受取壹分入

一同壹分貳朱

廿五日受取

一同三分

一同貳分

一同壹兩貳分貳朱

金五兩貳分掛ケ

寅十月廿五日会取立扣

一金壹分

善兵衛

一同壹分

四郎兵衛

一同貳分

勘兵衛

一同壹分貳朱

藤三郎

一同三分

佐十郎

一同貳分

作兵衛

一同壹兩壹分

二本松新田

一同壹兩貳分貳朱

佐十郎  
作兵衛  
兩人持

金五兩貳分也

外ニ金三兩貳分り足取替置

辰四月十五日

一金壹分

上ノ善兵衛

- 一 同壹分
- 一 同貳分
- 一 同壹分貳朱
- 一 同壹兩壹分
- 一 同三分
- 一 同貳分
- 一 同壹兩貳分貳朱
- 一 同貳分

- 四郎兵衛
- 勘兵衛
- 藤三郎
- 二本松新田
- 佐十郎
- 作兵衛
- 兩人持

(裾野市佐野 佐野区有文書)

5 村の災害

一五 (一七〇七) 宝永四年二月 須山村土屋伊太夫富士山噴火事

情書

宝永四年亥ノ

一去十月三日<sup>ヒル</sup>昼八ツ時分<sup>シ</sup>大地震、同四日<sup>シ</sup>明六時<sup>スギ</sup>過大地震、然共家者不<sup>ソシ</sup>損、其已後<sup>イゴ</sup>打続<sup>ウチツヅ</sup>少々之地震者<sup>クイ</sup>絶不<sup>キウ</sup>申、然共富士山之中者<sup>イライ</sup>九月時分已来<sup>ヨ</sup>每日余程之地震者<sup>イマ</sup>幾度茂有之、別而十月三日已来<sup>シ</sup>強地震数多、一日之間十度<sup>カズ</sup>廿度<sup>シ</sup>少々之地震数不<sup>シ</sup>知、然共里ニ者<sup>シ</sup>地震茂無之候

一霜<sup>シモ</sup>月廿二日<sup>シ</sup>昼四時分已来<sup>シ</sup>及暮六時分迄ニ大地震者<sup>シ</sup>七八度<sup>シ</sup>十度程茂有之、夜入候而之地震茂度々有之、其数不<sup>シ</sup>知、同廿三日<sup>シ</sup>朝五時分過大地震、同四時分是亦大地震、已後<sup>シ</sup>早速富士山鳴響<sup>キ</sup>音<sup>キ</sup>夥<sup>シ</sup>布山も崩<sup>ク</sup>歟<sup>カ</sup>与存候所ニ、空<sup>ソラ</sup>すざま敷<sup>ク</sup>黒雲出、東西之妨<sup>マ</sup>ル覆<sup>フ</sup>候得者、同時ニ火石降<sup>ヲ</sup>墜候事<sup>チ</sup>夥布、其石之大サ或者<sup>チ</sup>茶釜<sup>カマ</sup>或者<sup>チ</sup>大天目程

第2節 村の經濟

之火山車軸シヤシヤクのことく降申、中ニ或ハ地墜候石者三四ニ  
 くらたけ散候得者、中乃火炎出かや杯積置候上ニ落候得  
 者、一時ニ燃付燒申候、依之莖むしろ・ざるなとかぶり取消  
 申候、家杯一村ニ而五軒三軒ツ、燒申候、漸七時分ニ  
 火山降止申候得者、人民少時安堵之心ニ罷成候得者夜  
 入ニ候而者又夥、敷砂降申候事、大サ或者大豆或者小  
 豆程ニ而、明方迄ニ者式尺五寸程茂降積、軒下ハ五尺  
 余茂積申候、尤夜中雷之鳴山ライノナル之響耳茂潰ツブレことく、  
 并數度地震・山之鳴誠ニ言語ニ難レ尽シ大地ニ響候者  
 大地茂山茂崩程ニ存候、其響戸障子之鳴動メイドウ忽ニ家  
 も潰杯と存ジ、東西ニ馳走仕候得者、地響人民肝魂  
 茂消ユキエことく有之候  
 一 廿四日明六時分夜明方少シあかるく相見、追付闇成、  
 砂降候事前のことく  
 一同降暮、挑灯杯燃候而致往來候処ニ、挑灯之あかりも  
 見へかたく、雷・地震・山之鳴者前のことく  
 一 廿五日ニ少鳴茂響茂止申候得者、砂者止不申、雷・地

震・山之鳴少計ニ御座候、廿六日同断、廿七日ニ者朝  
 砂止空も晴候得者、晚七ツ時乃又砂降り夜ニ入候而茂  
 止不申、廿八日明方迄降朝晴  
 同・廿九日・晦日・朔日右四日者昼之間ハ砂降不申晴  
 天ニ而、然共山之鳴・雷之鳴・地震者絶不申、二日乃  
 終迄者又昼夜共砂茂降、雷・地震茂強、山之鳴響茂  
 一倍ニ多打統、八日之夜中、九日之明七時分迄ハ山茂  
 燒止、雷・地震響茂静晴天ニ罷成候、然共廿三日  
 乃終迄風者透と吹不申乃廿三日・廿四日已來人民財  
 宝・家財を捨置、妻子を引具東西江欠走申候誠絶ニ  
 言語ニ候、哀成事共ニ御座候、其後本住家江立還罷有  
 候、埋候家ニ出入当分暮候得共、田畑居住亡処ニ罷  
 成候、已上  
 宝永四亥年  
 霜月日  
 砂厚薄壹尺五寸・式尺五寸・三尺・五尺・六尺・七尺・  
 壹丈

(裾野市須山 市立富士山資料館保管)

土屋伊太夫

一五 (一七三八)  
元文三年九月 富沢村風損につき年貢米二五俵免

除願

乍恐口上書を以奉願上候御事

一 当風当り大御見分被為遊、其上御定免之内御米拾壹表<sup>(四俵)</sup>  
御免可被下段有難奉存候、尤当麦作夕夏作迄四分・五分  
分くらいニ而、百姓夫食一円無御座、田作之実を被下、  
秋こなし仕候、殊ニ田作悪敷御座候得ハ、当御年貢御  
上納難儀可仕候、何とぞ百姓御救と思召御米貳拾五表  
御了簡被成下候様ニ奉願上候、以上

元文三年午九月日

富沢村

名主 半 藏<sup>(印)</sup>

組頭 小左衛門<sup>(印)</sup>

同 助左衛門<sup>(印)</sup>

河西与兵衛様

武政斎右衛門様

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所蔵)

百姓代 庄左衛門<sup>(印)</sup>

一六 (一七四五)  
延享二年八月 富沢村麦作違作につき定免願

乍恐以書付ヲ御願申上候

一 当村惣<sup>(姓)</sup>百姓近年段々困窮仕候所、今年麦作夥敷違、当  
分惣百姓夫食等無御座難儀至極仕候、前々者御田地仕  
付之夫食米等御拝借被為 仰付相続仕候、山方之儀者  
出水之冷水を以用水ニ仕候故御田地ひへ、別而取実無  
御座、其上猪鹿大分ニ出諸作あらし申候ニ付、年々春  
冬大勢ノ人歩を集メ度々猪鹿狩り申候得共、常々油断  
不罷成、夫故諸作共ニ青苧仕取穀無御座、困窮難儀仕  
候、依之惣百姓奉願上候ハ、御領地ニ相渡り申候節、  
拾ヶ年之御免状御ならし御請免ニ奉願上候、偏ニ御慈  
悲を以御救奉願上候御願上之通被為 仰付被下置候

第2節 村の經濟

ハ、難有奉存候、以上

延享貳年丑ノ八月

富沢村

名主 半 藏

組頭 小左衛門

同 茂兵衛

百姓代 孫兵衛

高橋傳左衛門様

八角只右衛門様

井上宇右衛門様

伏谷 忠藏様

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所藏)

一六 (一七七) 明和八年九月 大畑村旱魃につき年貢用捨願

乍恐以書付奉願上候御事

一 先達而御注進申上候通、当年田方仕付時節雨繼無御座、

山沢何年ニ茂無御座旱魃ニ付、御田地仕付種々と出情

仕候得共、仕付残り仕付荒し等仕付候分茂早損仕、立

毛格別悪鋪難儀至極ニ奉存候、依之何卒御慈悲を以御

見分之上、何卒御用捨被成下候様ニ惣百姓偏ニ奉願上

候、以上

明和八年卯九月

大畑村

名主 嘉 六

組頭 □右衛門

百姓代 佐 七

下小林村

御役所

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所藏)

三 (一七八四)  
天明四年正月 富沢村飢人改書上帳(横)

(表紙)

天明四年  
駿東郡富澤村飢人改書上帳  
辰正月

男<sup>三式</sup>三人  
永百廿七文三分式リン

一 女<sup>三人</sup>  
永九拾五文三分四リン

六リン

小以五人<sup>内(マコ)男三人 女二人</sup>

七兵衛 年四十四才  
はん 年四十五才  
てふ 年六十六才  
喜助 年十七才  
伊之助

六リン

女<sup>一</sup>  
永百九十文六分八リン

小以永式百五十四文式分四リン

嘉左衛門 年四十二才

い ち 年三十四才

清石衛門 年八十三才

こ め 年六十二才

さ つ 年七十五才

か ん 年十才

仁 助 年五才

清 七 年五十三才

つ き 年四十九才

と り 年八才

女<sup>三式</sup>三人  
三文五分六リン

男<sup>老</sup>人  
永六十三文五分六リン  
女<sup>式</sup>人  
永六十三文五分六リン  
小以百廿七文壹分式リン

五右衛門 年六十三才

第2節 村の経済

女貳人  
永六十三文五分六リン

□六十三文五分六リン

男貳人  
□廿七文壹分貳リン

女三人  
□十五文三分四リン

□貳文四分六リン

す 忍 年五十七才

源次郎 年六十六才  
こ 年五十六才

と わ 年四十才  
は な 年六十五才

次郎右衛門 年三十八才

あ き 年三十三才

か ん 年七十三才

浅平 年十六才  
い の 年六才

右之寄

合

飢人数廿六人  
内男拾老人  
女拾五人

外二

百五拾人 当時ヶ成取続候分除之  
内壹人 御吟味之上減

右之通相改奉書上候処、相違無御座候、以上

富澤村

名主 嘉 六  
組頭 小左衛門  
同 源 七  
百姓代 文 藏

沼津

御役所

□ 当村当時之飢人共 □ 相改書上申候処、相違無御座候、此上段々出来仕候ハ、書上可申上候、以上

覚

一 永式百廿式文四分

七 兵衛

一 永式百五拾四文式分

加左衛門

一 永百廿七文壹分

清 七

一 永 □ 文六分

五右衛門

一 永六拾三文六分

源 次郎

一 永六拾三文六分

と わ

一 永式百式拾式文四分

次郎右衛門

ノ金壹両永拾六文九分

右者当村飢人小前相改奉書上候処、夫食米代金 □ 置

書面ノ通小前銘々割渡請取印形差 □ 処、相違無御座候、

以上

天明四辰年閏正月

駿東郡富澤村

名主 嘉 六

組頭 小左衛門

同 源 七

百姓代 文 蔵

沼津

御役所

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所感)

三 天明八年一月 富沢村不作につき金三〇兩拝借

願

乍恐書付を以奉願上候

一 当年ノ儀御定免之内ニ御座候得共、稲作不作之旨奉願

上御檢見被成下置難有仕合奉存候、則御坪苅御様出合

ニ而者三分之損毛ニ相届キ不申、依之御定免納辻急度

御皆済可仕旨先達而被仰付承知奉畏候、併世上一統之

儀と不申当村之義者山添木陰地故、夏秋迄之霖雨別而

相障申候哉、殊更近年困窮ニ付外ニ夫食等之貯茂無御

座、其上取穀も無御座此節ニ至り、段々御年貢取立ニ相懸り申候所、小前之者必至と埒明兼難儀之余奉願上候者、格別之御慈悲□<sup>(をカ)</sup>以御金三拾兩拾ケ年賦御返上納之御積りを以 御救御拜借被成下置當御年貢御皆濟仕且者来年作業之手段ニ茂仕、惣百姓共困窮を相凌農業相続仕度、小前之者共一同奉願上候、何卒御憐愍之御慈悲を以、願之通被為仰付被下置候ハ、廣大之御慈悲百姓共相助り難有仕合ニ奉存候、以上

天明八年申十一月

駿東郡富沢村

名主 嘉 六甲  
組頭 文右衛門甲  
同 儀左衛門甲  
百姓代 文 蔵甲

沼津

御役所

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所蔵)

一六〇七 文化四年八月 富沢村愛鷹山牧場狼防の儀免除願

乍恐以書付奉願上候

一 駿東郡沼津領富沢村奉願上候、当国愛鷹山牧場狼野狗防玉込鉄砲被 仰付所持仕相守罷在候処今般御領主様より格別之御用被仰付候ニ付御両方御用相勤罷有而ハ万一御場所手拔ケニ茂相成候而ハ甚奉恐入候依之何卒狼防之儀御免ニ御付被□為下置候様偏ニ奉願上候右願通り被仰付被□為下置候ハ、難有仕合ニ奉存候、以上

文化四卯年八月

駿東郡富沢村

組頭 助左衛門甲  
同 平左衛門甲  
同  
百姓代

野馬方

御役所

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所蔵)

一室 文化一〇年七月 大畑村竹の実結につき書上

一 此度御尋ニ付竹之実結候儀乍恐奉書上候、先年茂実結候竹枯失候申伝御座候、去ル申年実結候竹ハ不残枯失、当酉年実結候竹茂不残枯失候処、小作実結候程之義ニ御座候哉、壹貳年以前方竹之子一切出来不仕、段々(符)段々小作不自由ニ相成時節ニ罷成、去申年当酉年貳ヶ年ニ少々宛実結不残枯失候ニ付、右小竹を茹、薪等仕灰ハこやしに仕、冬春ハ小作之笹牛馬を養候土地ニ御座候得共、小作不残枯候而ハ小前一統困窮之元ニ奉存候、委細之義ハ乍恐口上を以可申上候、以上

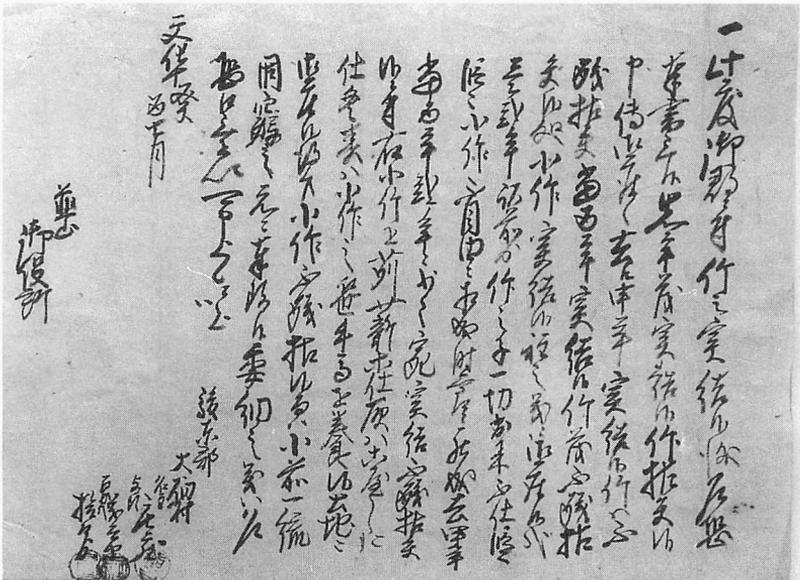
文化十癸酉七月

駿東郡大畑村

名主 庄 藏(印)

与頭 義兵衛(印)

百姓代 権左衛門(印)



葦山

御役所

(裾野市大畑 市川義朗氏所藏)

二六 文化一三年九月 葛山・上ヶ田・金沢三ヶ村風損

につき年貢免除願

乍恐書付を以奉御願上候

一 駿東郡御知行所三ヶ村御願申上候事、先達而閏八月四

日塩風ニ而大風雨致一統諸作江差障り候内ニも、御年

貢引当之煙草・油草等格別之皆無ニ御座候故、其畑三

ヶ村一同惣代を以御注進奉申上候処、御陣屋様ニ而も

惣代之者江仰被聞候ニわ、此度之大風之儀者富士・駿

東も同様之事故、重而菜願之儀罷不成候由、惣代之者

罷歸り、其段物語有之候ニ付、三ヶ村免々小前百姓迄

申聞セ此節者御受免内ニも御座候ニ付、先田方大切ニ

取入仕候様申渡し候処、此節段々取入致候処江漸々四

五分通りと乍憚相見へ申候哉ト奉存候間、依而此度御

願奉申上候者、此節大風之儀ハ厄間一同ニ申儀ハ御尤

ニわ奉存候得共、私共三ヶ村之儀ハ両三年之早損ニわ

合、殊ニ甚故、当年之風難有之此姿ニ而ハ三ヶ村百姓

難取統趣相見へ申候哉ニ奉存候ニ付、依之御上様をも

不恐右難涉之儀ヲ奉御願上候間、何卒三ヶ村惣百姓共

幾々永取統候様、偏ニ御上様之御憐愍ノ御勘弁奉相願

上候、以上

文化十三年子九月 日

駿東郡葛山村

名主 勝左衛門 印

同 喜十郎 印

組頭 忠右衛門 印

同 庄左衛門 印

同 徳右衛門 印

同 彦十郎 印

百姓代 藤七 印

同 源右衛門 印

上ケ田村

名主 助左衛門<sup>印</sup>

組頭 武兵衛<sup>印</sup>

百姓代 七郎右衛門<sup>印</sup>

金澤村

名主 源七<sup>印</sup>

組頭 糸八<sup>印</sup>

百姓代 銀藏<sup>印</sup>

一 永七貫六百拾壹文九分弍厘

一 永七貫六百拾壹文九分弍厘

一 永七貫六百拾壹文九分弍厘

一 永七貫六百拾壹文九分弍厘

一 永七貫六百拾壹文九分弍厘

茶畑村

平松新田

四拾四俵かへ

厚原

御役所様

(裾野市葛山 芹澤哲哉氏所蔵)

一 永八貫八拾五文弍分

一 永八貫八拾五文弍分

一 永七貫六百拾壹文九分弍厘

一 永七貫六百拾壹文九分弍厘

一 永七貫六百拾壹文九分弍厘

一 永七貫六百拾壹文九分弍厘

茶畑村

平松新田

四拾五俵かへ

二七 (二八七) 文化一四年一月 下郷村々郷蔵困粉高書上

廿八兩壹分弍朱御下ヶ金ノ内  
六兩壹分不足分引残り  
一 粉百五拾七俵壹斗六升九合壹夕弍才五弗

四拾九俵替

代金三拾弍兩弍朱也

但し米直し七拾八俵弍斗九升九合五夕六才三弗  
四斗壹升入

一 永七貫六百拾壹文九分弍厘

一 永七貫六百拾壹文九分弍厘

但し米直し式拾三俵升三才<sup>(マ)</sup>才三弗  
四斗壹升入

是ハ去冬書上者右之通ニ候得共、少々間違も可有御座与存候

一六 (一八二〇) 文政三年二月 葛山村疫病流行による潰れ百姓相

續につき拝借金願書

(沼津市 柏木正男氏所藏)

一 永式貫三百九拾九文四厘

茶畑村

乍恐書付を以奉御願上候事

一 永式貫三斗式升六合式夕

一 永四百五文七分式厘

平松新田

一 此度駿東郡葛山村役人奉御願上候御儀者、去年内方

一 永式貫三斗三升八合五夕

右者当丑年困糶買入詰置候分

度々口上を以奉御願上候通り、私共村方去春方痢病

流行仕候而数人煩ひ候処、又候同夏方熱病を煩ひ重病

ニ而殊外皆々難儀仕候、秋作取上支付等ニ茂差支罷在

以上

候処、村方友力を以漸々仮成リニ取上支付仕候、其以

右者下鄉村々郷藏江詰置申候ニ付、此段御届奉申上候、

来当春迄煩ひ申候、此内死去致候者老若男女四拾人余

佐野村

相果申候、当時ニ至候而有増全快仕候得共、其中ニ茂

松国様

名主

政右衛門

年寄子共計ニ相成り、又ハ後家杯ニ御座候得者、家数

松尾様

岩波村

名主

吉

拾壹軒潰レ候者有之候ヘハ、当時喰物ニ差支飢渴候程

之族御座候間、村中取集メ養育致候義ニ而村役人共勤

弁ニ相叶不申候故、無是悲、御上様へ御訴訟申上候、

何卒為御拝借金と、右難儀之者共江壹軒ニ付金壹両式

分づゝ永代ニ被為下置候様、奉御願上候、殊ニ近年村  
 方困窮故、潰レ百姓御座候而手余地多く有之候所、猶  
 又此度之病難ニ而相潰レ候者御座候得ば、御上様格別  
 之御慈悲を以、難渋之百姓相助り少分ニ茂相統キ仕候  
 様、御憐愍之段偏ニ奉御願候、以上

文政三庚辰年二月 駿東郡葛山村

名主 勝左衛門

同 喜重郎

組頭 忠右衛門

同 彦重郎

同 徳右衛門

百姓惣代 源右衛門

同 与惣治

厚原

御役所

(裾野市葛山 芹澤哲哉氏所蔵)

一六 (二八三六)  
 (天保七年) 御宿村施金米覚帳(横)

(表紙)

申年村方江施金米覚帳  
 当人半七

覚

一金式朱

一米壹斗

一金式朱

一米五升

一同五升

一同五升

一同五升

一同五升

宗兵衛

源右衛門

文右衛門

林右衛門

源治郎

繁右衛門

重左衛門

清助

第2節 村の經濟

一同五升	一同五升	一(同五升)麦五升	一米三升	一金貳朱	一米三升	一(同壹斗)金貳朱白米五升 一(同壹斗)麦壹斗六升	一米五升	一金貳朱	一米五升	一米五升	一金貳朱	一同五升	一同五升	一同壹斗
用左衛門	源吉	与左衛門	治右衛門	幸左衛門	永藏	治左衛門	平左衛門	勇助	義助	利兵衛	幸七	弥兵衛	忠助	源藏
一同五升	一(同五升)麦三升	一同三升	一米三升	一同五升	一米五升	一錢六百文	一(同四升)麦三升	一米五升	一金貳朱	一同五升	一同五升	一同五升	一同五升	一同五升
庄兵衛	忠藏	安右衛門	勝右衛門	又右衛門	彦右衛門	政吉	竹治郎	後太郎兵衛	長右衛門	直藏	平兵衛	新藏	勝藏	藤左衛門

一同五升	長左衛門
一同五升	宗 八
一同五升	源左衛門
一同五升	宇右衛門
一同三升	七左衛門
一同五升	新田 磯右衛門
一同式升	上ノ原 武右衛門
一同五升	喜左衛門
一同五升	彦左衛門
一同五升	金右衛門
一同五升	良右衛門
一同式升五合	三光院
一同式升	光照庵
一同壹升	新田 おはや
一同式升	仁左衛門
金ノ壹兩	

錢六百元

米式石式斗八升此式斗三升此此書上申候式石式斗三升ニ相見ヘ申候間  
如此ニ書上申候

麦三斗

右之通り施仕候宜敷御書上可申候、尤私印形御入用ニ候  
ハ、明朝持參可仕候、尚又御写被下候ハ、此帳面御返し  
被下度御願上候、以上

(梶野市御宿 湯山芳健氏所藏)

二七 (八三二) 天保九年一月 葛山村潰れによる引上地の下げ

渡しにつき願書

乍恐書附ヲ以奉願上候事

一 此度御願奉申上候義ハ、近年違作打続キ申候ニ付、村  
方ニ而潰家多分相成人別相減シ申候而、多分之手余り  
地御座候ニ付、先々御願奉申上候処、格別之御憐愍を  
以御引上地ニ被下成候段、村前一同難有仕合ニ奉存候、

第2節 村の經濟

然廻私ニ最寄文右衛門より差上候分上畑六畝拾八歩、并ニ中畑貳畝歩、合而八畝拾八歩也、次ニ常右衛門後家より差上候分下畑六畝歩、右両方差上候分ハ私し最寄ニ付御引上ニ相成候上ハ、外生地江末々ハ差障り相成可申哉ニ奉存候間、何卒①小々為冥加年ニ金壹分宛奉<sup>上</sup>納候而、地所我等方江御下ケ被下置候様、御願奉申上度候、末々ニ相成地所生地望人有之候節ハ無相違相渡し先氣生地ノ御上納為相勤候様為致申上度候間、何卒格別之御憐愍ヲ以右御願奉申上通被仰付被下成候ハ、難有仕合奉存候、以上

天保九戌歲十一月日

御知行所駿東郡葛山村

願主

百性代 弥兵衛

前書之通り反別共相違無御座候間、格別御憐愍ヲ以右奉願上候通り被仰付被下成候ハ、私し共迄難有仕合奉存候、以上

三 天保一〇年九月 葛山村手余り荒所開發人控帳

(表紙)

天保十年 葛山村  
手余り荒所開發人控帳  
亥九月日 役人

(裾野市葛山 芹澤哲哉氏所藏)

百性代 勘兵衛

組頭 庄左衛門

名主 九兵衛

字柳嶋 一下畑六畝歩 常右衛門後家分

田場沢屋敷 一上畑六畝拾八歩 文右衛門分

同所 一中畑貳畝歩 同人分

金壹分 作人 弥兵衛



第2節 村の經濟

金三分壹朱

作人

治左衛門  
曾右衛門

金三兩也

天保十年亥九月 日

下畑（根）  
字限キ畑壹反七畝拾九步

与兵衛分

百姓代 伊右衛門

同所  
下々畑四畝步

同入分

同 弥兵衛

金三朱

作人

嘉兵衛

組頭 銀藏

沢添へ  
一屋敷貳畝拾步

文右衛門分

同 勘兵衛

同所  
一上畑九畝拾七步

同入分

同 藤七

金壹分

作人

善兵衛

厚原

名主 喜重郎

同所  
一上畑九畝六步

与惣治分

御役所

（裾野市葛山 葛山区有文書）

同所  
一中畑壹反廿四步

同入分

金壹分

作人

定治郎  
良助

一字金山  
一中畑九畝貳拾六分

多兵衛分

金三朱

作人

勝平

一七三 (一八五四)  
嘉永七年一月四日 葛山村大地震につき御救割

合帳(竪)

嘉永七甲寅年	郷藏諸人用奥ニ
	印置
從御上様当寅大地震ニ付御救割合帳	
十一月四日	
名主 芹沢勢吾朗	
控	

一 当寅十一月四日朝五ツ時古来稀成大地震ニ付、村内大破損いたし御注進申上候処、從御上様為御救御慈悲被下候義者高百石ニ附金六兩当り御部行一同江被下置難有奉頂戴候、

一金貳拾五兩壹分ト永拾貳文六分当村江御下ケニ相成、村内居室之分ハ送廻シニ家直し仕候ニ付釘代大工作料

諸色入用左ニ印申置候

一 錢六貫五百九拾三文 大五寸九百八拾四本

一 同三貫七百五拾六文 四寸釘六百五拾六本

一 同四貫五百五拾四文 送り三寸千六百八本

一 同三貫三百八拾四文 政 吉江

一 同貳貫五百三拾七文 金右衛門江

一 同貳貫五百三拾七文 傳左衛門江

右三軒之者格別難渋ニ付別段ニ割渡シ申候

一金壹兩壹分ト錢貳百廿四文 大工作料廿六人分 忠七 武右衛門

是をノ金壹兩壹分ト 錢貳拾三貫七百壹文

引残而 錢百三拾貫七百五拾四文

此訳 錢六拾五貫三百七拾五文

家數七拾軒ニ割 但シ壹軒ニ付錢九百八文ヅ、

第2節 村の經濟

一	源右衛門	一	半明王寺	一	忠	七	一	久右衛門	一	半み	き	一	仙	助	
一	佐右衛門	一	嘉右衛門	一	菊右衛門	助	一	半く	め	一	政	吉	一	半ち	よ
一	半忠右衛門	一	仙右衛門	一	半義	助	一	八郎右衛門	一	常	藏	一	半き	く	
一	林右衛門	一	喜重郎	一	一定	吉	一	栄治郎	一	喜兵衛	一	和	平		
一	平右衛門	一	義左衛門	一	半安	平	一	勝治郎	一	甚左衛門	一	弥	吉		
一	金右衛門	一	政右衛門	一	幸	藏	一	半角右衛門	一	林兵衛	一	半義	兵衛		
一	弥平治	一	甚右衛門	一	治左衛門		一	吉兵衛	一	弥兵衛	一	庄	七		
一	茂右衛門	一	常藏	一	武右衛門		一	源右衛門	一	茂兵衛	一	政右衛門			
一	嘉兵衛	一	伊右衛門	一	彦治郎		一	傳左衛門	一	半直治郎	一	仁兵衛			
一	相違無御座候						一	金藏	一	徳右衛門	一	半の	よ		
一	右割合錢ヲ以銘々馬家下家其外破損所手入為致候処、						一	一定治郎	一	与右衛門	一	平左衛門			
一	渡シ申候						一	半与惣治	一	安藏	一	伊勢藏			
一	右之通り村方一同相談之上割合仕候処、聊相違無之割						一	伊左衛門	一	良助	一	善五郎			
一	是ヲ惣失地高三百四拾五石九斗三升五合三夕割、但シ						一	隣斎	一	勝右衛門	一	利兵衛			
一	壹石ニ付 錢百八拾壹文四分当り						一	勝平	一	多兵衛	一	四郎右衛門			
一	錢六拾五貫三百七拾五文						一	半ゆ	う	一	要左衛門	一	太郎左衛門		

一半吉 祥院 一半角 蔵

前書御割合被下候通り村方一同慥ニ奉頂戴候、以上

寅十二月

百姓代 幸 蔵

同 久左衛門

組頭 善五郎

同 和 平

同 甚左衛門

同 八郎右衛門

同 義右衛門

名主 芹沢勢吾朗

厚原

御役所

郷蔵普請柚木挽大工賃錢釘代諸品勘定控

安政三辰年十一月

一錢七貫三百九文

柚木曳仕賃払

一同貳貫百七拾弍文

(鍛冶屋直平方江品々釘代内大五寸四本四寸廿本)

一同貳百文十一月四日

大工新立之節御神酒代

一金貳分也十一月廿日

作料左衛門江渡

一金壹兩貳分也十二月朔日

作料武右衛門渡

一錢貳百文竹四本代文

明一同百六拾四文義右衛門

一同七拾弍文竹弍本勝右衛門

一同四拾四文(繩十一ぼふ)

一同三拾四文

(繩十三ぼふ) 林右衛門

一同百文 (恵助)

一同百三拾弍文

(押ほ木式わ) 一同三拾四文(円)

一同三百四拾弍文

(棟上ヶ色々) 買物茂右衛門

一同五百文

屋根ふき御神酒代

一同百文十一月廿日

大工江御神酒

白米六升

一同七百四拾八文

御備時餅 芹沢勢吾朗

十二月御年貢三立

一同三拾弍文鍵直し代金弍朱也大工江祝義

金弍兩弍朱卜錢拾三貫弍百三拾弍文内取替へ候分江利

分六百六拾八文

第2節 村の經濟

元利共為鑑ニして式拾八貫三百五拾七文

此内金壹兩式分淺間宮風打松壹本代

同金式朱砂原義助家風潰レ代金分源七匁入木口之義ハ御

林ニ而貫受候ニ付代金無也

差引村方江割合ニ相成候分錢拾七貫三百七文引残而金式

兩式分ト錢三百七文金割合也

(裾野市葛山 芹澤哲哉氏所藏)

一三 嘉永七年十一月 茶畑村地震潰家御見分書上案内

帳(横)

(表紙)

嘉永七甲寅年 茶畑村  
地震潰家御見分書上案内帳  
十一月 名主 甚太郎

一居宅潰

名主 甚太郎 ○

外ニ小家七軒潰

一隱宅壹軒潰

同人

一居宅潰

与頭 広 藏 ○

灰屋壹軒潰

其外小家半痛三軒

土藏八分潰

一居宅潰

同 甚右衛門 ○

外ニ小家三軒潰

一居宅潰

同 傳 藏 ○

外ニ小家貳軒

土藏八分痛

一居宅六分痛

半 和 助

外ニ小家壹軒九分潰



第2節 村の經濟

一 居宅九分潰	清 藏 ○	一 居宅九分潰	繁左衛門 ○
小家式軒半潰		外ニ小家八分潰	
一 居宅半痛	甚 七	一 居宅半潰	半 平
一 居宅八分潰	伊 助 ○	小家壹軒同断	
小家壹軒半潰		一 居宅九分潰	仁 三 郎 ○
一 居宅九分潰	又 兵 衛 ○	<small>ノ</small>	
一 居宅同断潰	由右衛門 ○	一 居宅九分潰	忠 助 ○
一 居宅同断潰	文左衛門 ○	外ニ小家半潰壹軒	
一 居宅潰	林 助 ○	一 居宅九分潰	勝右衛門 ○
小家式軒潰		小家壹軒同断	
一 居宅九分潰	伊 八 ○	一 居宅九分潰	忠 藏 ○
小家式軒半潰		小家半潰壹軒	
一 居宅潰式軒隱居共	治右衛門 ○	一 居宅九分潰	太郎兵衛 ○
外ニ小家壹軒		小家式軒半潰	
一 居宅九分潰	長右衛門 ○	一 居宅潰	源 藏 ○
外ニ灰屋壹軒潰		小家壹軒潰	
一 居宅半潰	弥 助	一 居宅九分潰	吉兵衛 ○



第2節 村の經濟

一 居宅九分潰	甚	○	一 居宅潰	元右衛門	○
一 居宅九分潰	七	○	小屋潰	定右衛門	
一 居宅九分潰			一 居宅半潰	平吉	○
一 居宅九分潰	彦右衛門	○	一 居宅潰	平吉	○
一 居宅九分潰	虎藏	○	小家壹軒	米吉	○
一 居宅九分潰	助右衛門	○	一 居宅九分潰	孫兵衛	○
一 居宅四分潰	惣右衛門		小家壹軒		
外ニ小家式軒同断			一 居宅九分潰		
一 居宅潰	源左衛門	○	馬屋壹軒潰		
一 居宅潰	源助	○	小家壹軒同	嘉右衛門	○
一 居宅九分潰	幸右衛門	○	一 居宅半潰	衆吉	
一 居宅半潰	平助		一 居宅同断	文助	○
一 居宅四分潰	団藏		小家式軒同断	文七	○
一 居宅九分潰	茂兵衛	○	一 居宅八分潰		
一 居宅同断潰	平藏	○	小家式軒		
			一 居宅潰	繁八後家	○

一 居宅半潰		茂左衛門	小家式軒		
一 居宅同断		鉄 治	一 居宅潰式軒隱居分		永 助 ○
小家式軒			小家式軒		
一 居宅三分痛		政右衛門	一 居宅半潰		清兵衛
一 居宅同断		作 藏	一 居宅同断		甚右衛門
一 同断		幸左衛門	一 居宅九分潰		紋治郎 ○
一 居宅潰		久右衛門後家 ○	一 灰家壹軒		甚 平
一 居宅四分潰		勇 藏	一 居宅潰		道上 孫 七 ○
一 居宅潰		芳 藏	一 居宅潰		同 文 藏 ○
一 居宅九分潰		藤 七 ○	一 居宅潰		同 清左衛門 ○
灰家壹軒			灰家三軒		
一 居宅潰	山サキ	吉左衛門	一 居宅潰		定右衛門 ○
小家式軒			灰屋壹軒		
一 居宅	(ママ)	惣 七 ○	一 居宅潰		弥 助 ○
一 居宅潰	駒方	甚左衛門	一 居宅潰		義 助 ○
小家三軒			小家式軒		
一 居宅潰		永左衛門 ○	一 居宅潰		利兵衛後家 ○

灰家七軒

一 居宅潰

一 同隱居潰

小家式軒

↙

〔式百拾九軒  
(貼紙)

此訊

八拾式軒

四軒

五軒

百四軒

式拾四軒

右者十一月四日朝五ツ時地震ニ付、潰家相改書上申候

処相違無御座候、以上

嘉永七寅年十一月

(沼津市 柏木正男氏所藏)

久助 ○

同人

一 齒 <sup>(一八五四)</sup> 安政元年二月二三日 神山村他七カ村大地震に

つき拝借金雜用控

安政元寅年十一月四日、存外大地震ニ付村方困窮相成、御上様江潰家江拝借ヲ御願申上候 依而其節雜用ヲ控

覚

一 錢六貫文

一 同三貫六百元

一 同三貫式百元

一 同四貫四五百文

一 同壹貫六百元

一 同三貫六百元

一 同三貫六百元

一 同三貫六百元

一 同三貫六百元

十二月十日方廿四日迄十五日勤 佐十郎

同十七日方廿四日迄九日勤 源右衛門

同十日方十七日迄八日勤 甚太郎

同十四日方廿四日迄十一日勤メ 和助

同廿二日方廿四日迄 広藏

同十一日方十九日迄 源六

同九日勤 弥四郎

同九日勤 弥四郎

第4章 村の政治と経済

一同三貫六百文  
同十日夕十七日迄  
甚助

一同四貫四百文  
同十一日勤メ  
弥四郎

一同式貫百廿文  
臨時入用分  
土佐や

一同八百拾貳文  
茶代ニ  
同断江

一同四百文  
下女式人江  
呉ル

一金貳兩也  
神山村

同内  
貳百廿六文 雜用  
石脇村

一同八兩  
同内  
九百八文 同断  
佐野村

一同六拾三兩  
同内  
七貫百五拾壹文 同断  
公文名村

一同五拾七兩  
同内  
六貫四百六十九文 同断  
茶畑村

皆錢  
三拾七貫三百六拾貳文  
此丁錢

三拾五貫八百六拾八文

但シ是ヲ拝借高之金江割

元永高  
永三百三拾貫五百文

但シ壹ノニ付

丁錢百八文五分式厘六毛壹弗

但シ百九文ヲ掛ル

一金七兩  
同内  
七百九拾壹文 同断  
平松

一同三拾四兩貳分  
同内  
三貫九百拾七文 同断  
麦塚村

第2節 村の経済

一同九兩貳分

内

壹貫七拾六文 同断

ノ三拾七貫五百廿六文

差引 錢<sup>ニ</sup>而

百六拾貳文返り分

村々 江下ヶ金控

一金貳兩

一同八兩

一同六拾三兩

一同五拾七兩

一同百四拾九兩貳分

一同三拾四兩貳分

一同九兩貳分

一同七兩

惣ノ金高三百三拾兩貳分

二ツや新田

安政元寅年

十二月廿三日 御役所ノ

御貸付被下候

(沼津市 柏木正男氏所藏)

一壹

(二八五五)

安政二年八月

麦塚村安政元年地震荒反畝歩取調

書上帳(横)

神山村

石脇村

佐野村

公文名村

茶畑村

麦塚村

二ツや

平松新田

老番

一中田七畝拾歩

内式畝三歩

字川下

反六斗八升取

地震荒ニ相成申候

去ル 安政二年  
寅之年地震荒反畝歩取調書上帳  
卯八月 麦塚村

取米壹斗四升貳合八夕

源治兵衛

口米四合三夕

高ノ耆斗四升七合耆夕

延取米ノ耆斗七升式合耆夕

一下田耆畝拾三歩

内拾歩

字四反田  
反五斗五升取  
地震荒川欠相成申候

太吉

式番  
一下々田三畝式拾六歩

字同所  
反ニ四斗五升取

延取ノ式升耆合九夕九才

内式拾六歩

地震荒ニ相成申候

右者寅年地震荒反畝歩小前取調奉書上候、以上

同人

麦塚村

名主 甚助

三番  
一下々田耆畝拾七歩

字同所  
反ニ四斗五升取

与頭 藤藏

内 拾歩

地震荒ニ相成申候

役人代 元右衛門

取米四升八合八夕

安左衛門

百姓代 忠藏

四番  
一下田四畝拾式歩

字同所

御役所様

(裾野市麦塚 勝俣恵一朗氏所蔵)

内式間半土手崩申候

藤藏

三六 安政二年一〇月 葛山村安政元年地震による困窮

につき助郷役免除願

乍恐以書附奉歎願候

松平伊予守知行所駿州駿東郡葛山村奉歎願候儀ハ、富士山之麓ニ而去ル宝永年中砂降之節、田畑夥敷降埋り未タ其愁有之麓田畑之地ニ而取実薄シ、御田地仕付候ニハ肥効數多分ニ入候村ニ而困窮之百姓手数相掛り、其上愛鷹山之根付村ニ而野馬・猪鹿兎向諸作喰荒シ候ニ付、除土

手式千間余之処、年々二度宛手入致シ防置候、昨寅年十一月四日稀之大地震ニ付、右土手大破損極難之百姓共当卯春中相懸り手入仕防置申候、其外村方掛り之木橋五ヶ所度々之手入万事多人數相掛り、誠ニ困窮之百姓難取続き、追々潰家數・人別等多分ニ相減シ、當時人別三百五拾人程ニ相成、老若足痛・病身他奉公人等多分有之、農業仕候人數聊斗、御畑方作余り、追々荒地相嵩、文政年中・天保年中・嘉永年中迄五ツ度程地頭役場江訴御見

分之上御引上地ニ被成下後も追々荒地ニ相成、当村高四百廿壹石四升四合之内、高六拾八石余荒地・芝間ニ相成、御物成少茂上り不申外高ニ而弁納仕居候処、乍恐此上助郷役被 仰附候てハ、困窮難涉之村方亡村之基、何卒御上様 御慈悲を以極難之次第柄被為聞召訳助郷役御免除被成下置候様奉願上候

右願之通仰附被下置候得ば、一同難有仕合ニ奉存候、以上

安政二卯年十月

松平伊予守知行所

駿州駿東郡葛山村

名主 儀右衛門⑩  
組頭 善五郎⑩  
百姓代 久左衛門⑩

飯原祐左衛門様  
町田正右衛門様

(梶野市葛山 葛山区有文書)



第2節 村の經濟

- 一 灰家皆潰壺軒
- 一 隱宅皆潰壺軒
- 一 馬家半潰壺軒
- 一 灰家半潰壺軒
- 一 居宅半潰壺軒
- 一 灰家半潰壺軒
- 一 居宅半潰壺軒
- 一 灰家皆潰壺軒
- 一 物置皆潰壺軒
- 一 灰家皆潰壺軒
- 一 灰家皆潰壺軒
- 一 天王宮上家皆潰壺軒
- 一 同森木吹折壺本
- 一 八幡宮森木倒木五本
- 一 一團木倒木五本
- 一 同倒木壺本
- 一 一人馬怪我

同人

右之通取調奉書上候以上

同人母

安政三丙辰年九月

宗左衛門

御領方 御宿村

同人

百姓代 市左衛門印

用助

組頭 丈右衛門印

同人

名主 甚兵衛印

勝右衛門

名主 噲平印

彦左衛門

松長

同人

御役所

九左衛門

(裾野市御宿 湯山芳健氏所藏)

兵左衛門

傳三郎

同断

配郎

湯山保三郎

支配

丈右衛門

宮内左衛門

無御座候

無御座候

一七〇  
明治三年二月一日 下和田村焼失帳(横)

大火家別拾壹軒
家別四拾三軒
焼失帳
明治三年二月十日晚

覚

居屋壹軒 三間半

馬屋壹軒

雪隠壹軒

蔵屋壹軒

真木屋壹軒

棟五軒

和平

居屋壹軒 六間半

馬屋壹軒 こたつ屋

雪隠壹軒 同断

三軒

馬屋壹軒

居屋壹軒 七間半

馬屋壹軒

雪隠壹軒

蔵屋壹軒

隠居壹軒

五軒

居屋壹軒 六間半

馬屋壹軒

清吉

倉治郎

利八



五軒

角蔵

一金壹両

馬屋老軒

雪隠老軒

式間(主)

太八

神場村  
印野村  
板妻村  
永塚村  
保戸沢村(主)

棟数四拾式軒

外ニ

隠居老軒

久平

一金壹分  
一同壹分  
一同式朱

茱萸沢村(主)  
河嶋田村  
西田中村

二月十一日御役所江御届ケ、火元十日円入寺十月廿日御  
呼出役人付そへ相済相成御計候 以上

三しま宿社家

植松部太夫

出火見舞

組合御見舞

三合片口

片口八勺八人江貫受

河柳新田(主)  
杉名沢村  
中畑村

沼津水神堂  
升屋佐兵衛

み九枚出火中江

(裾野市下和田 杉本清住氏所蔵)

6 愛鷹牧

一 克 (二七五四)  
宝曆四年三月 葛山村牛馬毛色年附改帳(竪)

(表紙)

宝曆四年  
駿州駿東郡葛山村牛馬毛色年附御改帳  
戌三月

- 一 鹿毛馬壹疋 年拾才 ○喜右衛門
- 一 鹿毛馬壹疋 年拾才 同 人
- 一 黒毛馬壹疋 年八才 ○庄兵衛
- 一 栗毛馬壹疋 年五才 ○次郎左衛門
- 一 鹿毛馬壹疋 年拾才 同 人
- 一 鹿毛馬壹疋 年三才 ○太兵衛

一 黒毛馬壹疋	年拾才	同	人	一 栗毛馬壹疋	年拾才	○久四郎
一 黒毛馬壹疋	年拾才	同	人	一 河原毛馬壹疋	年十才	○治郎右衛門
一 栗毛馬壹疋	年拾才	○平兵衛	一 黒毛馬壹疋	年拾才	同	人
一 鹿毛馬壹疋	年拾才	○五兵衛	一 鹿毛馬壹疋	年八才	○定七郎	人
一 鹿毛馬壹疋	年八才	○源六郎	一 栗毛馬壹疋	年八才	同	人
一 栗毛馬壹疋	年八才	沖右衛門	一 糟毛馬壹疋	年拾才	○庄兵衛	人
一 栗毛馬壹疋	年拾才	○大善院	一 鹿毛馬壹疋	年拾才	同	人
一 栗毛馬壹疋	年八才	同	一 鹿毛馬壹疋	年拾才	○嘉左衛門	人
一 栗毛馬壹疋	年八才	○吉祥院	一 栗毛馬壹疋	年八才	同	人
一 栗毛馬壹疋	年八才	○岡右衛門	一 黒毛馬壹疋	年拾才	清	七
一 鹿毛馬壹疋	年拾才	○清	一 鹿毛馬壹疋	年拾才	○竹右衛門	人
一 栗毛馬壹疋	年十才	○権兵衛	一 栗毛馬壹疋	年拾才	○八郎右衛門	人
一 栗毛馬壹疋	年十才	○長左衛門	一 黒毛馬壹疋	年拾才	同	人
一 黒毛馬壹疋	年拾才	○半十郎	一 黒毛馬壹疋	年十才	○仁右衛門	人
一 黒毛馬壹疋	年八才	○藤七郎	一 栗毛馬壹疋	年拾才	○甚四郎	人
一 黒鹿毛馬壹疋	年拾才	同	一 月毛馬壹疋	年拾才	同	人
一 鹿毛馬壹疋	年八才	○新八	一 鹿毛馬壹疋	年拾才	○彦四郎	人

第2節 村の經濟

一 鹿毛馬壹疋	年拾才	○善	六	牛馬合七拾三疋	内	牛四疋 馬六十九疋	
一 栗毛馬壹疋	年十才	○紋	十郎	一 栗毛馬壹疋	年拾才		同 人
一 栗毛馬壹疋	年拾才	同	人	一 栗毛馬壹疋	年八才		同 人
一 鹿毛馬壹疋	年拾才	○勝	左衛門	一 鹿毛馬壹疋	年拾才		同 人
一 鹿毛馬壹疋	年十才	○庄	三郎	一 鹿毛馬壹疋	年八才		○勝右衛門
一 月毛馬壹疋	年拾才	同	人	一 黑栗毛馬壹疋	年八才		同 寺
一 栗毛馬壹疋	年拾才	○清	八	一 黑鹿毛馬壹疋	年拾才		○仙年寺
一 鹿毛馬壹疋	年拾才	同	人	一 黑毛牛壹疋	年十才		○六郎右衛門
一 鹿毛馬壹疋	年拾才	○茂	八	一 栗毛馬壹疋	年十才		同 人
一 黑毛牛壹疋	年八才	○源	助	一 鹿毛馬壹疋	年拾才		○太郎右衛門
一 鹿毛馬壹疋	年十才	○源	太郎	一 栗毛馬壹疋	年拾才		○清右衛門
一 鹿毛馬壹疋	年拾才	○清	左衛門	一 黑毛牛壹疋	年十才		○重左衛門
一 栗毛馬壹疋	年十才	○源	三郎	一 黑毛馬壹疋	年拾才		○源六郎
一 鹿毛馬壹疋	年十才	○九	七	一 黑毛牛壹疋	年十才		○次兵衛
一 黑毛馬壹疋	年拾才	同	人	一 栗毛馬壹疋	年拾才		同 人
一 鹿毛馬壹疋	年八才	○九	右衛門	一 栗毛馬壹疋	年十才		○重右衛門
一 黑毛馬壹疋	年拾才	同	人	一 月毛馬壹疋	年拾才		同 人

右之通村中惣百姓持牛馬毛色年附相改、不残書付差上申候所少茂相違無御座候、以上

寶曆四年戌三月 駿東郡葛山村  
御役所様 名主組頭

(裾野市葛山 芹澤哲哉氏所蔵)

一八〇 (七七四) 安永三年一〇月 今里村鉄砲改帳(豎)

(表紙)

安永三年  
駿東郡御厨今里村鉄砲御改御帳  
午十月  
鉄砲帳 (異巻)

駿東郡御厨今里村

一 持高八石七斗式升三合  
鉄砲壹挺 玉目三匁 持主 太郎左衛門 ㊦

一 持高式石七斗三升八合  
鉄砲壹挺 玉目三匁 持主 金 兵衛 ㊦

一 持高五石四斗四升五合  
鉄砲壹挺 玉目三匁 持主 勘左衛門 ㊦

一 門屋  
鉄砲壹挺 玉目三匁 持主 八左衛門 ㊦

一 持高七石三斗壹升五合  
鉄砲壹挺 玉目三匁 持主 五左衛門 ㊦

鉄砲ノ五挺

右之者共ハ山附之村ニ罷在、先規ノ鉄砲所持獵師仕来候、今度御改ニ付、前々之通御預置被下候様ニ御訴訟申上候所、願之通所持仕候様ニ被 仰付難有奉存候、此鉄砲ニ而埒之外悪事仕出候ニおゐてハ、本人ハ不及申上名主組頭迄如何様之曲事ニ茂可被 仰付候、他人ハ不及申上、親子兄弟ニ而御座候共、鉄砲持主之外余人江貸申儀堅仕間鋪候、右之段々相背候ハ、鉄砲持主

ハ不及申上、名主組頭五人組迄急度曲事ニ可被 仰付  
旨奉畏候、為後日仍而如件

一 持高拾三石五斗壹升三合  
鉄炮壹挺 玉目三匁

持主 市右衛門 ㊦

右之者者山附之村罷在候所、畜類多出作毛荒シ迷惑仕  
候ニ付、先規方鉄炮所持仕来申候、今度御改ニ付前々  
之通御預置被下候様ニ与御訴訟申上候所、願之通所持  
仕鹿猪打申候様ニ被 仰付難有奉存候、畜類防ニ事寄  
セ悪事仕出候欵、又者殺生なと仕候ニおゐてハ、本人  
ハ不及申上組頭五人組迄如何様之曲事ニ茂可被 仰付  
候、此鉄炮之儀、他人ハ不及申上、親子兄弟ニ而御座  
候共、鉄炮持主之外一切余人江貸申儀仕間敷候、右之  
段々相背申候ハ、本人ハ不及申上、組頭五人組迄曲事  
ニ可被 仰付旨奉畏候、為後日仍而如件

安永三年午十月

今里村

名主 市右衛門 ㊦

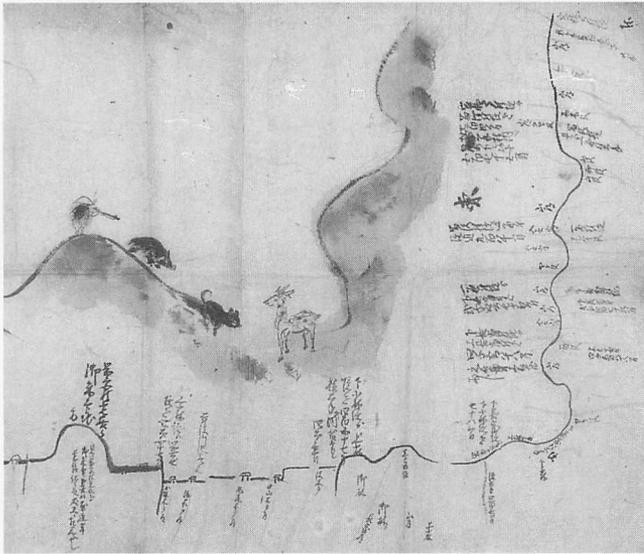
組頭 太郎左衛門 ㊦

郡御奉行所様

同 平右衛門 ㊦  
百姓代 九兵衛 ㊦  
百姓代 五左衛門 ㊦

(裾野市今里 今里区有文書)

二 安永九年七月 拾六カ村猪鹿除囲土手籠絵図



(口絵参照)

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所蔵)

三 寛政八年十一月 愛鷹山牧場取立につき駿東・富士郡村々請書

士郡村々請書

一 此度愛鷹山麓駿東・富士両郡之内、御牧場御取立被為 仰付旨、右ニ付御場所扱御普請人足并ニ御取馬之節々追方勢子人足村高ニ応シ百石ニ付四人ツ、村印之小幟ヲ為持宰領相添御触之通差出シ、御下知次第御用可相勤旨、尤右人足之内ニ而御捕込方原村迄御捕馬牽人足之儀ハ、村順ニ可被 仰付旨奉畏候、且又近郷持馬不自由ニ付、旁御牧場御取立被為 仰付御趣意之旨、乍然御普請等臨時之儀ニ付、御普請人足江者御憐愍ヲ以御扶持方可被下旨難有奉存候、右之通り被 仰付候上ハ聊差支候筋も無御座候、依之為後日御請印形奉差上候処仍而如件

寛政八辰年

両郡村々

十一月

名主印

御牧場御掛り  
岩本石見守様

御役人中様

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所藏)

寛政八丙辰年

水窪村

極月

請負人 与右衛門<sup>印</sup>

一三 寛政八年一二月 牧場大込土手仕立につき請負手  
(一七九六)

形

請負申手形之事

牧場大込土手之内

一 土手式拾四間三尺 馬踏五尺 敷式間半 但五ヶ村掛分

此坪六拾八坪三夕六才 高壹丈 但シ壹坪ニ付銀六匁五分

賃金七両壹分銀六匁式分三厘

右之通槩ニ請負申、来ル已正月中旬迄ニ急度相仕立可申

候、賃金之儀取掛り候節半金御渡被下、残金之儀者皆出

来之上御見分被成候上ニ而御渡シ可被下候、万一出来形

不宜分者仕直シ可申候、右人足之儀者御組合之内方望ミ

之者有之候ハ、相当之賃錢を以雇入可申候、尤三ヶ年之

内急度請負可申候、為後日一札仍而如件

茶畑村

水窪村

同 要右衛門<sup>印</sup>

平松新田

証人 八兵衛<sup>印</sup>

二ツ屋新田

公文名村

稲荷村

一四 寛政一二年二月 愛鷹牧場付村々勢子人足牽人足  
(一七九九)

宥免願

乍恐書付を以奉願上候

一 駿州愛鷹御牧場、去辰年御取立被為遊向度御捕馬無恙

相濟奉恐悦候、右ニ付同郡山付拾三ヶ村奉願上候、御

捕馬之節御掛御役人様方御止宿被為遊、付郷村方勢子

人足前夜方相詰、御用御差支無之様仕度、最寄方御場

所御通路之道橋取繕境見竹立人足等其外不表立小入用  
相重り申候、尤御止宿之儀者所有合之品を以御扱仕、  
木錢米代被下置、小者中ニ至迄御然道筋毛頭無御座候  
得共、右申上候通勢子人足等多分ニ相集候儀、随分御  
用御差支奉恐入候得者自然与不表立小入用相掛申候得  
者、御慈悲を以右村々勢子人足御捕馬牽人足御宥免被  
成被下置候様奉願上候、尤御捕馬之節追方等案内之儀  
者御下知次第村役人共并所案内之人足等差出シ、付郷  
村々共ニ御用御差支無之様相勤可申奉恐入候、偏ニ御  
慈悲之御勘弁を以右勢子人足牽人足御免被為 仰付被  
下置候様不奉恐願奉願上候、右願之通被為仰付被下置  
候ハ、難有仕合奉存候、以上

寛政十一未年二月 駿州駿東郡御牧付山方村々

- 両熊堂村
- 岡宮村
- 岡一色村
- 両小林村

野馬方  
御役所

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所藏)

右拾ニヶ村惣代

岡宮村

名主 半二郎<sup>㊦</sup>

富沢村

名主 彦重郎<sup>㊦</sup>

一五 (一八〇三) 享和三年二月 愛鷹山牧、狼・山犬防のため百姓

所持鉄砲書上

奉差上候書付之事

一 持来鉄砲 壹挺

千福村 持主 文左衛門

玉目式匄八分

一 威鉄砲 壹挺

同村 持主 新 七

一 威鉄砲 壹挺

同村 持主 仙右衛門

一 威鉄砲 壹挺

定輪寺村 持主 繁右衛門

右之通鉄砲四挺前々々持来候処相違無御座候、然処此度  
愛鷹山牧狼山犬多出、野馬生育差障りニ罷成候ニ付、右  
威鉄砲玉込ニ仕、狼山犬為防銘々御用被 仰付候而茂  
差支無之哉御糺ニ御座候処、当兩村ニ而者差支候儀無御  
座候、依之御請書付奉差上候、以上

享和三亥二月

千福村 兼帯 定輪寺村

名主 文左衛門

比奈

御陣屋

(裾野市千福 横山正美氏所蔵)

一六 (一八〇四) 文化元年

富沢村百姓、猪鹿威しのため鉄砲代金

借用証文

借用仕候鉄砲代金之事

一金壹両也

借主 市郎兵衛

一同壹両也

同 助右衛門

右者此度村中相談之上金子調達いたし、村筒鉄砲相求私  
共兩人江御預ケ被成、猪鹿威仕候様ニ一同承知仕候、尤  
右鉄砲之儀者先々々御公儀様御條目之趣急度相守可申  
候、別而近来野馬方々直又嚴重ニ被仰付候ニ付、直々中  
間同士無由断吟味仕、怪敷儀無御座候様可致候、右御預  
ケ鉄砲年重り候得者、諸道具等相談シ候ニ付、金子ニ而  
相預り申候所実正ニ御座候、私共不埒ニ付外江御預替被  
成候節者、何時成共右証文元金無相違返上納可仕候、若

又其節不埒成事も御座候ハ、証人組合御引請申候故ハ、  
当人ニ不抱証人組合方無相違弁納可仕候、為其証文仍如  
件

文化元子年

富沢村

当人 市郎兵衛印

証人 三右衛門印

当人 助右衛門印

証人 幸七印

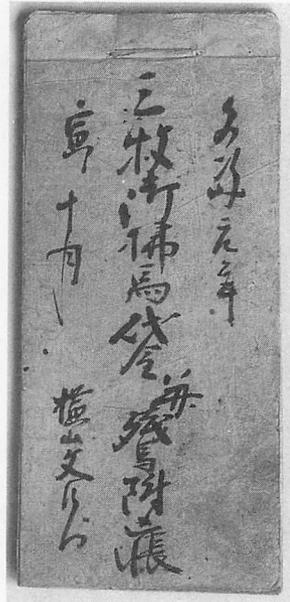
世話人 清兵衛印

当村御役人中

惣百姓中

(裾野市富沢 渡邊武彦氏所蔵)

二八二〇  
文政元年一〇月 三牧払馬代金并残馬附帳(横)



(表紙)

文政元年

三牧御払馬代金并残馬附帳

寅ノ十月

横山文左衛門

第2節 村の経済

十月十九日御払

一元 右耳切跡足大悪  
一鹿毛四才  
代金三分也

青野村  
七左衛門

一尾 一青三才  
代金三兩三分  
一元 一栗毛四才  
飛尺  
代金三兩壹分

上香貫村  
喜助  
青野  
勇吉

一元 左前足大とけ  
一白鹿毛三才  
代金三兩也

柳沢村  
善兵衛

元野 尾くじき  
一栗毛三才  
代金三分

川口五郎兵衛

一尾 左跡足悪し  
一鹿毛四才  
代金貳兩貳分

柳沢  
七右衛門

一尾 一栗毛三才  
代金三兩

松長  
義兵衛

一尾 駒喰あり  
一栗毛三才  
代金四兩也

大塚  
弥惣左衛門

同 一青三才  
代金三兩

上香貫村  
多兵衛

一元 青五才  
代金四兩三分

大諏訪  
三郎兵衛

一霞 金廿兩壹分  
一鹿毛三才  
是ハ御引上

十月廿日御払ノ拾五兩

一元 河原毛四才  
代金三兩貳分

渡部元兵衛

廿一日御払  
一尾 鹿毛四才  
代金三兩三分  
一尾 鹿毛五才  
代金四兩

大平村  
次右衛門  
加藤林右衛門

一元 右足添  
一青五才 大なひら  
代金三兩

青野  
七左衛門

一霞 一青交五才  
代金貳兩三分

中土狩村  
儀右衛門

第4章 村の政治と経済

一元  
一栗毛五才  
代金貳兩也

一尾上五才  
代金三兩

一元  
一栗毛八才  
代金貳兩也

一霞  
一青四才  
代金三兩三分

代金 貳拾壹兩壹分

廿二日御払

一元  
一鹿毛八才  
代金貳兩貳分

一尾  
一青四才  
代金三兩壹分

一尾  
一河原毛五才  
代金三兩壹分

とけ  
一栗毛八才  
代金貳兩三分

一尾  
一鹿毛三才  
代金四兩

是ハ大坂宗右衛門江遣ス

大つか丁  
定 七

熊堂村  
伊 八

東井出村  
仁左衛門

増川  
佐 兵衛

五疋  
代金 拾五兩三分也

廿三日御払

一元  
一青四才  
代金貳兩壹分

元(鮫)  
一鰯毛四才  
代金貳兩貳分

一尾  
一栗毛四才  
代金三兩貳分

一元  
一青交四才  
代金貳兩

一霞  
一青三才  
代金三兩

一元  
一鹿毛三才  
代金三兩壹分

霞  
一鰯毛三才  
代金三兩

一元  
一河毛四才  
代金五兩

鳥谷  
惣左衛門

三嶋  
与 八

佐野村  
助右衛門

東原村  
甚 兵衛

森甚右衛門

佐野村  
源 五郎

栗田政兵衛

木瀬川  
長 平

第2節 村の經濟

一尾 一鰯毛三才  
 一元 代金三兩  
 一尾 一鹿毛三才  
 一元 代金三兩三分二朱  
 一尾 一栗毛三才  
 一元 代金四兩  
 一尾 一鹿毛三才  
 一元 代金三兩壹分  
 一尾 一鹿毛八才  
 一元 代金貳兩貳分  
 一元 一栗毛  
 一元 代金三兩壹分  
 一元 一鹿毛三才  
 一元 代金貳兩三分  
 一元 一栗毛三才  
 一元 代金三兩  
 一元 一鰯毛四才  
 一元 代金三兩  
 一元 一同三才  
 一元 代金三兩貳分  
 一元 一栗毛三才  
 一元 代金四兩貳分

浦田新四郎  
 柳沢村  
 清 吉  
 加藤定兵衛  
 大塚丁  
 惣 八  
 大スハ  
 清 兵衛  
 加藤定兵衛  
 原宿  
 縫 右衛門  
 芦川忠左衛門  
 善太夫新田  
 彦左衛門  
 原宿  
 与右衛門

一尾 一栗毛四才  
 一元 代金三兩貳朱  
 一尾 一栗毛三才  
 一元 代金三兩貳分  
 神納  
 大ツカ  
 彌惣左衛門  
 増川  
 佐 兵衛  
 元野牧  
 馬数合貳百五拾三疋 七疋減  
 内  
 父馬十四疋 内壹疋ハ新規  
 父馬黒鹿毛  
 母馬百七壹疋  
 内貳拾壹疋ハ式才駄母ニ立ル  
 式才駒拾貳疋  
 当才駒拾貳疋

原宿  
 佐 吉  
 横山文左衛門  
 大坂へ渡ス

当才太三十疋

尾上牧

馬数合式百九拾貳疋 三拾四疋増

内

父馬拾四疋

内壹疋ハ新規父馬建替

母馬百七拾九疋

内拾七疋ハ貳才駄母ニ立ル

貳才駒拾五疋

当才駒四拾疋

同駄四拾四疋

霞

馬数百四十九疋 十八疋増

内

父馬六疋内壹疋ハ新規  
父馬青毛

母馬九拾四疋  
内十五疋貳才駄母ニ立

貳才駒八疋

当才駒十八疋

当才駄貳十三疋

三牧

残馬六百九拾四疋 四十五疋増

但シ去丑年残馬六百四拾九疋有之候処、捕馬并斃馬引、

当寅<sup>ト</sup>年<sup>ト</sup>出生ノ四十五疋相増申候

右者当冬、吉川丹後守支配園田七平・目黒七十郎・大橋

善三郎、園田宜三郎懸り家来三木幸之進・木村茂助差遣

し為相改候処、書面之通御座候、以上

寅十月

吉川丹後守  
中山長門守

尾上

寅年大平・徳倉村始、本宿村迄御取馬廿壹疋、卯年始り  
下土狩村四疋

元野

寅年木瀬川村・西間門村ノ十六人壹式ニ成ル、御取馬廿  
壹疋、卯年始り、<sup>(數)</sup>鷗嶋村・柳嶋村・田子村・中丸村ノ三

疋

霞

寅年宮嶋村・川成村、ノ壹疋始り

(裾野市千福 横山正美氏所藏)

(二八二九)  
文政十二年正月 愛鷹牧士任命につき起請文(竪)

(表紙)

文政十二己丑年

起証文<sup>(請)</sup>之写

正月 横山文左衛門

起証文前書之事

- 一 今度私共儀御支配被 仰付候上者、弥重公儀 御為第一奉存、御後闇儀不仕、同役申合万事及心候程入念御用向相勤可申事
- 一 諸朋輩者不及申、村方百姓ニ至迄惡心を以一味同心仲間鋪事
- 一 私之計策を以惡事相頼族有之者、時刻不移有躰可申上事
- 一 御牧場内猥成儀無之様仕、平日入念野馬吞水等心付、

勞馬其外病馬・出生馬有之節者別而万端心付、見廻り等可仕事

附御牧場内狼山犬随分心付防方仕、野火之儀昼夜

心付、兼而最寄村々江茂申触置、野火有之節者

私共早速罷出人足差凶仕防方可仕候、右ニ付怪

敷筋見聞及候ハ、有躰可申上候、且野付林之儀

伐透候儀者格別伐払候義、野馬暑寒差支ニ相

成候ニ付、若伐払族有之節者差留置、持主存知

承り具ニ申上御差図之上取計可申事

一御払馬之節 御為第一奉存、直段連々進候様心掛ケ、

且馬買之者江申合下直ニ為糴自分江買取候儀、或者百

姓共ニ申合私欲横領ケ間鋪儀一切仕間鋪事

一御払馬代金之儀、翌々年十一月晦日限り追々取立之相

納可申事

但馬代金実々取立兼候分者格別ゆるかせニ不相成

様仕、万一同役之内難心得筋有之節者外同役申

談不包有躰可申上事

一諸御普請其外御用向、不依何事同役申合、私之申分不

立可然方ニ決着仕、御普請所に不及大破ニ候様心掛ケ

可申事

一諸朋輩勤方者不及申、村方百姓ニ至迄御牧場筋之儀ニ

付不埒之筋有之候ハ、不包可申上事

一諸朋輩并村方音信有之候共一切請申間鋪事

但由緒有之前々音信為取替候分者、格別御威光

を以諸村方江非分之儀申掛ケ間敷事

一前々被 仰出候御條目・壁書等并此上被 仰出候御書

付堅く相守可申事

右之條々於致違犯者

梵天帝釈四大天王、総日本國中六十余州大小神祇、殊伊

豆箱根両所権現、三島大明神、八幡大菩薩、天満大自在

天神部類眷属、神罰冥罰各可罷蒙者也、仍起請如件

文政十二己丑年正月

井出甚平(花押)

栗田只兵衛(花押)

横山文左衛門(花押)

加藤 定助(花押)

森甚 右衛門(花押)

涌田 和助(花押)

長倉 麻藏(花押)

本紙神文

加藤林右衛門(花押)

熊野牛王之裏ニ書

芦川 恵助(花押)

川口五郎兵衛(花押)

渡邊平左衛門(花押)

植松澤右衛門(花押)

野馬方

御役所

(裾野市千福 横山正美氏所藏)

一六 天保二年三月 神山村鉄砲師代金受取りにつき一

札

(包紙) 上

神山村

武藤源次郎

一札

一鉄砲壹挺 但し釵二重巻張

玉目式匁五分

右之鉄砲貴殿依望ニ拵差遣し候段相違無之候、則代金六両貳分慥ニ受取申処実正也、此鉄砲ニ付、脇方少茂差構申者無御座候、尤其地方金高添書取置申候、為後日仍而如件

神山村

鉄砲師

天保二辛卯年

武藤源次郎

三月

源宣邦印

葛山村

芹沢清五郎殿

(裾野市葛山 芹澤哲哉氏所藏)

一〇 (一八三二) 四月七日 神山村鉄砲師より鉄砲・小

道具その他受領の書簡

〔上書〕 葛山村 神山村

芹沢勢五郎様 源次郎

御返事

御番面被下忝拝見仕候、弥日増ニ長閑ニ相成候得共、御  
家内様益々御情采之段不浅奉珍喜候、然者今日御人々鉄  
砲切手書并小道具品々相添遣し申候間、改御入手被遊可  
被下候、則左ニ印し差上申候

覚

- 一 鉄炮折紙 壱通
- 一 同 撰形 壱挺
- 一 つは 壱本
- 一 同いなべ 壱本
- 一 鎌三枚 式百文ツ、
- 一 同百文 山刀鎌壱枚

一 同百五拾文 小鎌壱枚  
一 同百六拾四文 同 壱枚

御隠居様分

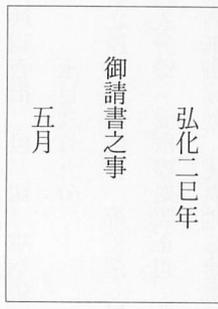
右之通り取調差上申候間、御受取可被下候、尤鎌代槌ニ

受取申候、為念如斯御座候、以上

(天保二年) 卯四月七日

(裾野市葛山 芹澤哲哉氏所蔵)

一五 (一八四五) 弘化二年五月 愛鷹牧士役儀心掛けにつき請書 (壁)



(表紙)

御請書之事

一 今般私共御呼出しニ付罷出候処、先達而御用状を以奉  
 申上候、森藤藏・江戸川堀造・栗田甚兵衛三人ノ植松  
 与右衛門・渡辺平左衛門兩人方迄書面を以申立候者、  
 当四月八日愛鷹明神祭礼之節、平沼村地先愛鷹牧御用  
 地内字野多場ニ而原宿番非人心得違一条其外等之儀委  
 細御尋ニ付、逸々有躰奉申上候処、右廉々者不取計之  
 儀茂無之候得共、一躰何欵村々より遺恨受候哉ニ被思  
 召、右遺恨受候儀者先ツ面々心掛ニ茂寄候義ニ而此度  
 之儀与者事柄者違ひ候得共、先年江戸川堀造三嶋宿ニ  
 而申争等之儀茂有之、彼是年若之者共者自然心得違ニ  
 而御威光ケ間鋪儀茂有之候哉ニ被思召、追々年老之者  
 共茂代り候ニ付而者万一心得違之もの等御座候而者以  
 之外之儀ニ有之、牧士役之儀者御用之節、苗字帶刀  
 御免之身分ニ者候得共、素々百姓之身分之儀ニ付、右  
 之処を不取失様厚心掛ケ、乍去御用向御不取締ニ而者  
 不相濟儀ニ付、若村々之者心得違有之候節者可成丈穩

便柔和ニ申論、実意を以承伏為仕候様取扱 御威光ケ

間鋪権柄成取計方不仕、聊ニ而茂役権ニ論り候儀無之  
 様厚相心掛ケ可申旨、是又御用向者格別私用ニ而猥ニ  
 村々乗馬等仕間敷旨、是等之儀者別而年若之者共心得  
 違無之様前文之趣帰村之上仲間一同江申達、連年遺失  
 無之様堅相守、一同精勤可仕旨被仰渡承知奉畏候、右  
 被 仰渡之趣、堅相守厚相心掛ケ相勤候様可仕候、依  
 而連印御請書奉差上候、以上

愛鷹牧士見習 栗田甚之助

弘化二巳年五月 同牧士 川口五郎兵衛

同牧士筆頭 植松与右衛門

野馬方

御役所

(裾野市千福 横山正美氏所蔵)

一三二 (一八四七)  
弘化四年六月 愛鷹牧野犬打留玉葉代渡方帳(竪)

(表紙)

弘化四未年
野犬打留玉葉代渡方帳
六月
愛鷹牧
牧士

覚

一 犬之尾拾五本  
外ニ七本除き

宗高村

宗右衛門<sup>印</sup>

此代金貳分也

一 犬之尾拾壹疋

外ニ三疋除き

鳥谷村

五郎兵衛<sup>印</sup>

此代老分七百五十五文也

一 犬之尾貳疋

外ニ

千福村

彦藏<sup>印</sup>

此代錢四百三十壹文也

一 犬之尾九疋

外ニ九疋除き

中里村

勇助<sup>印</sup>

此金壹分三百廿四文

一 同八疋

外ニ三疋除き

東平沼村

啓助<sup>印</sup>

此金壹分百八文

一 同廿九疋

外ニ五疋除き

岡宮村

与兵衛<sup>印</sup>

此金三分貳朱ト

錢五百九十壹文

一 同七疋

此金貳朱ト

錢七百六文

江尾村

長五郎<sup>印</sup>

外ニ拾疋除き

一 同廿八疋

此金三分貳朱ト

三百七十六文

東平沼村

安右衛門<sup>印</sup>

外ニ五疋除き

一 同廿四疋

此金三分ト

三百廿四文

元長窪村

勇藏<sup>印</sup>

第2節 村の經濟

外ニ六疋除キ

一 犬之尾九疋 此金壹分⑩  
三百廿四文

外ニ貳疋除キ

一 同廿五疋 此金三分⑩ト五百四十文  
長窪村 文左衛門⑩

外ニ貳疋除キ

一 同拾五疋 此金貳分⑩  
西井出村 滝 助⑩  
外ニ四疋除キ

一 同壹疋 貳百十六文⑩

一 同拾三疋 此金壹分⑩貳朱ト  
西平沼村 柳沢村 麻 藏⑩  
外ニ六疋除キ 三百七十六文 与 助⑩  
弥左衛門代印

一 同拾三疋 此金壹分⑩貳朱ト  
石川村 弥左衛門⑩  
三百七十六文

外ニ三疋除キ

一 同拾九疋 此金貳分⑩貳朱  
舟津村 又左衛門⑩  
外ニ貳疋除キ 錢五十貳文 多喜助代印

一 犬之尾九疋 此金壹分⑩  
三百廿四文

外ニ壹疋除キ

一 同六疋 此金貳朱ト⑩  
仲里村 儀右衛門⑩  
錢四百八十四文

外ニ壹疋除キ

一 同廿貳疋 此金貳分⑩貳朱ト  
下長窪村 類次郎⑩  
七百四文也

外ニ六疋除キ

一 同拾壹疋 此金壹分⑩  
同村 七郎右衛門⑩  
錢七百五十五文

外ニ五疋除キ

一 同廿五疋 此金三分⑩  
富沢村 曾右衛門⑩  
錢五百四十文

外ニ六疋除キ

一 同廿四疋 此金三分⑩  
一色村 五郎兵衛⑩  
三百廿四文

外ニ三疋除キ

一 犬之尾拾三疋 此金壹分⑩貳朱ト  
同村 藤 平⑩  
三百七十六文

外ニ六疋除キ

一 同廿壹疋 此金貳分貳朱ト 東熊堂村

五 平印

外ニ四疋除き 錢四百八十四文

一 同拾壹疋

此金壹分ト 七百五十六文

同村

甚右衛門印

外ニ貳疋除き

同村

佐 七印

一 同拾八疋 此金貳分ト 六百五十文

外ニ貳疋除き

ノ 四百九拾三疋

内

百五疋除分引

相残り

三百八拾八疋

此銀七百七十六匁

此金拾貳兩三分貳朱ト

錢三百七拾六文也

覚

一 野犬三百八拾八疋

此被下銀七百七十六匁

此金拾貳兩三分貳朱ト

錢三百七拾六文

右者野犬打留ニ付、為玉葉代書面之通被下置慥ニ奉請  
取候、打人共ニ相渡可申候、以上

弘化四未年六月

愛鷹牧士

川口五郎兵衛

渡辺平左衛門

植松与右衛門

野馬方

御役所

(裾野市千福 横山正美氏所蔵)

一三三 (一八五七) 安政四年正月二四日 愛鷹山牧場へ鉄砲御免外の

者入込まざるよう村々請書

御請書之事

一 今般愛鷹山御牧場御用地内、狼野犬為ふせき御玉入鉄  
砲我等々共江元方被 仰附諸持仕候処、追々狼ニ相成、  
近來右鉄砲御免外之者共御用地江入込候ニ付、去辰ノ  
秋方御触書之通り急度相守勤、若又心得違ヲ以御免外  
之鉄砲之者御用地江入込候節者見附次第取をさへ早速  
可申出候、依之御請書之一札仍而如件

安政四年

巳正月廿四日

千福村

横山文左衛門代打

常 蔵(印)

定輪寺村弥右衛門代打

横山文左衛門方被仰付

千福村 林 助(印)

富沢村

打人 祖右衛門(印)

一色村

野馬御掛り

横山瑞平様

(裾野市千福 横山正美氏所蔵)

同

打人 藤 平(印)

五郎兵衛(印)

一五四 年未詳 野馬掛交代につき廻文

〔包紙  
御用廻文〕

以宿継申達候、然者先般塩谷豊後守様御願之通御隠居被  
仰付候、一昨三日御小納戸 依田克之丞様野馬御掛被  
蒙仰候、依之此段申達候、仲ヶ間共其外江も可相達候、  
尤為恐悦出府之儀者追而可相達候間、左様可相心得候、  
以上

子八月五日

松崎弥三郎

豊田小三郎

大橋金一郎

園田七平

出口半兵衛

藤岡仁左衛門

植松与右衛門殿

渡辺平左衛門殿

川口五郎兵衛殿

横山瑞平殿

次第不同

(裾野市千福 横山正美氏所蔵)

一壺 年未詳 牧見廻のため役人派遣につき廻章

(包紙)  
「廻章」

秋暑難凌御座候処、各位被為揃愈御清勝之旨大慶奉賀候、然者今般別紙之通 野馬方御役所より御用状到来致候間入貴覽候、捕手共夫々江御通達被下、猶又早々御順達可被下候、以上

子八月八日

渡辺平左衛門

植松与右衛門

世古六太夫殿

拜見仕候

加藤林右衛門殿

加藤常右衛門殿

時分柄余冷之節ニ御座候得共、各方愈御清寧之旨大慶奉賀候、然者当夏見廻為御用、出口半兵衛殿・園田七平殿 九月朔日江戸表発足、来る三日三島宿泊、四日尾上・元野両牧見廻、翼五日霞野牧見廻、帰宿之上犬之尾見分有之候間、諸事例之通差支無之様御取計可被下候 此度ハ臨事<sup>時</sup>御用も無之候ニ付、拙子共三島宿江ハ不罷出直ニ新捕込江出張御待請仕候間、加藤氏御両所御申合之上、四日未明三島宿江御出張之上、道筋御案内可被下候兼而御届申候打留狼剥皮見分之上御褒美被下候間、原宿江持參可致様獵師共江御達置可被下候 先ハ右御案内迄如此ニ御座候、以上

第2節 村の經濟

申九月朔日

加藤清次郎殿

加藤常右衛門殿

横山瑞平殿

次第不同

渡邊平左衛門

植松與右衛門

(裾野市千福 横山正美氏所蔵)